

決警ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但出訴ヲ爲シタルトキハ府縣參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

第七章 附則

第二百二十六條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣指定スル地ニ之ヲ施行ス

第二百二十七條 府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間府縣參事會ノ職務ハ府縣知事行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

第二百二十八條 此法律ニ依リ始テ議員ヲ選舉スルニ付市參事會及市會ノ職務并市條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ府縣知事又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第二百二十九條 社事宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セズ現行ノ例規及其地ノ習慣ニ從フ

第二百三十條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キクル數ヲ云フ

第二百三十一條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第二百三十二條 明治九年十月第百三十號布告各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則、明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第四條、明治十七年五月第十四號布告區町村會法明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告、

明治十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第二百三十三條 内務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之ヲ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可シ

第五章 町村制

町村制

第一章 總則

第一款 町村及其區域

第二款 町村住民及其權利義務

第三款 町村條例

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第三章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織選任

第二款 町村吏員ノ職務權限

第三款 給料及給與

第四章 町村有財產ノ管理

第一款 町村有財產及町村稅

第二款 町村ノ歲入出豫算及決算

第五章 町村內各部ノ行政

第六章 町村組合

第二類 市制町村制附理由

第七章 町村行政ノ監督
第八章 附則

町村制

第一章 總則

第一款 町村及其區域

第一條 此法律ハ市制ヲ施行スル地ヲ除キ總テ町村ニ施行スルモノトス

第二條 町村ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡町村公共ノ事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス

第三條 凡町村ハ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セズ但將來其變更ヲ要スルコトアルトキハ此法律ニ準據ス可シ

第四條 町村ノ廢置分合ヲ要スルトキハ關係アル市町村會及市參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參事會之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ受ク可シ

町村境界ノ變更ヲ要スルトキハ關係アル町村會及地主ノ意見ヲ聞キ郡參事會之ヲ議決シ其數郡ニ涉リ若クハ市ノ境界ニ涉ルモノハ府縣參事會之ヲ議決ス

町村ノ資力法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪ヘズ又ハ公益上ノ必要アルトキハ關係者ノ異議ニ拘ハラズ町村ヲ合併シ又ハ其境界ヲ變更スルコトアル可シ
本條ノ處分ニ付其町村ノ財產處分ヲ要スルトキハ併セテ之ヲ議決ス可シ

第五條 町村ノ境界ニ關スル爭論ハ郡參事會之ヲ裁決ス其數郡ニ涉リ若クハ市ノ境界ニ涉ルモノハ府縣參事會之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二款 町村住民及其權利義務

第六條 凡町村内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其町村住民トス

凡町村住民タル者ハ此法律ニ從ヒ公共ノ營造物并町村有財產ヲ共用スルノ權利ヲ有シ及町村ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノトス但特ニ民法上ノ權利及義務ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第七條 凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來(一)町村ノ住民トナリ(二)其町村ノ負擔ヲ分任シ及(三)其町村内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ其町村公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラス但場合ニ依リ町村會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケザル者ヲ云フ

第八條 凡町村公民ハ町村ノ選舉ニ參與シ町村ノ名譽職ニ撰舉セラル、ノ權利アリ又其名譽職ヲ擔任スルハ町村公民ノ義務ナリトス
左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
 二 營業ノ爲メニ常ニ其町村内ニ居ルコトヲ得サル者
 三 年齢滿六十歳以上ノ者
 四 官職ノ爲メニ町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
 五 四年間無給ニシテ町村吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間町村議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者
 六 其他町村會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者
 前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職務ヲ少クモ三年間擔當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ町村會ノ議決ヲ以テ三年以上六分以下其町村公民タルノ權ヲ停止シ且同年期間其負擔ス可キ町村費ノ八分一乃至四分一ヲ増課スルコトヲ得
 前項町村會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第九條 町村公民タル者第七條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ其公民タルノ權ヲ失フモノトス
 町村公民タル者身代限處分中又ハ公權剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ裁判上ノ訊問若クハ拘留中又ハ租稅滯納處分中ハ其公民タルノ權ヲ停止ス

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與セサルモノトス
 町村公民タル者ニ限リテ任ス可キ職務ニ在ル者本條ノ場合ニ當ルトキハ其職務ヲ解シ可キモノトス

第三款 町村條例

第十條 町村ノ事務及町村住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコトヲ許セル事項ハ各町村ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得
 町村ニ於テハ其町村ノ設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得
 町村條例及規則ハ法律命令ニ抵觸スルコトヲ得ス且之ヲ發行スルトキハ地方慣行ノ公告式ニ依ル可シ

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第十一條 町村會議員ハ其町村ノ選舉人其被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其定員ハ其町村ノ人口ニ準シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム但町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

- 一 人口千五百未滿ノ町村ニ於テハ 議員八人
- 一 人口千五百以上五千未滿ノ町村ニ於テハ 議員十二人
- 一 人口五千以上一万未滿ノ町村ニ於テハ 議員十八人
- 一 人口一万以上二万未滿ノ町村ニ於テハ 議員二十四人

第二款 市制町村制附理由

一 人口二万以上ノ町村ニ於テハ

議員三十八

第十二條 町村公民(第七條)ハ總テ撰舉權ヲ有ス但其公民權ヲ停止セラル、者(第八條第三項、第九條第二項)及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

凡内國人ニシテ公權ヲ有シ直接町村稅ヲ納ムル者其額町村公民ノ最多ク納稅スル者三名中ノ一人ヨリモ多キトキ第七條ノ要件ニ當ラスト雖モ選舉權ヲ有ス但公民權ヲ停止セラル、者及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

法律ニ從テ設立シタル會社其他法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキモ亦同シ

第十三條 撰舉人ハ分テ二級ト爲ス

撰舉人中直接町村稅ノ納額多キ者ヲ合セテ撰舉人全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ル可キ者ヲ一級トシ爾餘ノ撰舉人ヲ二級トス

一級二級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ル可シ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ其町村内ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ一級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年齡ヲ以テシ年齡ニモ依リ難キトキハ町村長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム可シ

撰舉人每級各別ニ議員ノ半數ヲ撰舉ス其被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラス兩級ニ通シテ選舉セラル、トヲ得

第十四條 特別ノ事情アリテ前條ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ別ニ撰舉ノ特例ヲ設クルコトヲ得

第十五條 撰舉權ヲ有スル町村公民(第十二條第一項)ハ總テ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲グル者ハ町村會議員タルコトヲ得ス

- 一 所屬府縣郡ノ官吏
- 二 有給ノ町村吏員
- 三 檢察官及警察官吏
- 四 神官僧侶及其他諸宗教師
- 五 小學校教員

其他官吏ニシテ當撰シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

代言人ニ非スシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事ヲ辨スルヲ以テ業ト爲ス者ハ議員ニ撰舉セラル、トヲ得ス

父子兄弟タルノ縁故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス其同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當撰トシ若シ同數ナレハ年長者ヲ當撰トス其時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

町村長若クハ助役トノ間父子兄弟タルノ縁故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若シ議員トノ間ニ其縁故アル者町村長若クハ助役ニ選舉セラレ認可ヲ受クルトキハ其縁故アル議員ハ其職ヲ退ク可シ

第十六條 議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其半數ヲ改撰ス若シ各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任ス

可キ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
退任ノ議員ハ再選セラル、コトヲ得

第十七條 議員中開員アルトキハ毎三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フ可
シ定員三分ノ一以上開員アルトキ又ハ町村會町村長若クハ郡長ニ於テ臨時補闕ヲ必
要ト認ムルトキハ定期前ト雖モ其補闕選舉ヲ行フ可シ
補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス
定期改選及補闕選舉トモ其任者ノ撰舉セラレタル撰舉等級ニ從テ之カ撰舉ヲ行フ可
シ

第十八條 町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其選舉前六十日ヲ限リ選舉原簿ヲ製シ各選舉人ノ
資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ選舉人名簿ヲ製ス可シ
選舉人名簿ハ七日間町村役場ニ於テ之ヲ關係者ノ縦覧ニ供ス可シ若シ關係者ニ於テ
訴願セントスルコトアルトキハ同期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ町村長ハ町村會
ノ裁決(第三十七條第一項)ニ依リ名簿ヲ修正ス可キトキハ選舉前十日ヲ限リテ之ニ
修正ヲ加ヘテ確定名簿トナシ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ニ關スルコ
トヲ得ス
本條ニ依リ確定シタル名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ選舉ノ無効トナリタル場合ニ於テ更
ニ選舉ヲ爲ストキモ亦之ヲ適用ス
第十九條 選舉ヲ執行スル所ハ町村長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及選舉ス可キ議員ノ數

ヲ各級ニ分チ選舉前七日ヲ限リテ之ヲ公告ス可シ

各級ニ於テ選舉ヲ行フノ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フ可シ
第二十條 選舉掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選
任シ町村長若クハ其代理者ハ其掛長トナリ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス

第二十一條 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス撰舉人
ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被撰舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉
人自ラ掛長ニ差出ス可シ但撰舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス
撰舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ撰舉人名簿ニ照
シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ
得ス

第二十三條 投票ニ記載ノ人員其撰舉ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ヲ無効
トセス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却ス可シ
左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ
- 二 撰舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
- 三 被撰舉權ナキ人名ヲ記入スルモノ
- 四 被選舉人氏名ノ外他事ヲ記載スルモノ

投票ノ受理並効力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第二十四條 選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ托シテ投票ヲ差出スコトヲ許カス
第十二條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得若シ其獨立ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代人ヲ以テス可シ其代人ハ内國人ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シテ代理ノ證トス可シ

第二十五條 町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ町村會ノ議決ニ依リ區畫ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但特ニ二級選舉人ノミ此分會ヲ設クルモ妨ケナシ
分會ノ撰舉掛ハ町村長ノ撰任シタル代理者ヲ以テ其長トシ第二十條ノ例ニ依リ係員二名若シハ四名ヲ撰任ス
撰舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當撰

撰舉分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開ク可シ其他選舉ノ手續會場ノ取續等總テ本會ノ例ニ依ル
第二十六條 議員ノ選舉ハ有効投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當撰トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ヲ抽籤シテ其當撰ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ撰舉スルトキハ第十七條投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ最長キ前任者ノ補闕トナシ其數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム
第二十七條 撰舉掛ハ撰舉錄ヲ製シテ撰舉ノ顛末ヲ記錄シ撰舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ
投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ撰舉ヲ結了スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第二十八條 選舉ヲ終リタル後選舉掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知ス可シ其當選ヲ辭セントスル者ハ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ
一人ニシテ兩級ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内何レノ選舉ニ應ス可キコトヲ申立ツ可シ其期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選舉ヲ辭スル者トナシ第八條ノ處分ヲ爲ス可シ

第二十九條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得(第三十一條第一項)
町村長ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ郡長ニ報告シ郡長ニ於テ選舉ノ効力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘テス郡參事會ニ付シテ處分ヲ行フコトヲ得
撰舉ノ定規ニ違背スルコトアルトキハ其撰舉ヲ取消シ又被撰舉人中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當撰ヲ取消シ更ニ撰舉ヲ行ハシム可シ

第三十條 當撰者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當撰ハ効力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ町村會之ヲ議決

ス

第三十一條 小町村ニ於テハ郡參事會ノ議決ヲ經町村條例ノ規定ニ依リ町村會ヲ設ケ
ス撰舉權ヲ有スル町村民ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二款 職務權限及處務規程

第三十二條 町村會ハ其町村ヲ代表シ此法律ニ準據シテ町村一切ノ事件並從前特ニ委
任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セラル、事件ヲ議決スルモノトス

第三十三條 町村會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 町村條例及規則ヲ設ケ并改正スル事
- 二 町村費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第六十九條ニ掲クル事務ハ此限ニ在ラス
- 三 歳入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ認定スル事
- 四 決算報告ヲ認定スル事
- 五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料手数料町村算及夫役現品ノ賦課徵集ノ
法ヲ定ムル事
- 六 町村有不動産ノ賣買交換讓受讓渡并質入書入ヲ爲ス事
- 七 基本財産ノ處分ニ關スル事
- 八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ
爲ス事
- 九 町村有ノ財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

五十一

十 町村吏員ノ身元保證金ヲ徵シ並其金額ヲ定ムル事

十一 町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第三十四條 町村會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ屬スル町村吏員ノ撰舉ヲ行フ可シ

第三十五條 町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ町村長ノ報告ヲ請求
シテ事務ノ管理議決ノ施行並収入支出ノ正否ヲ監査スルノ職權ヲ有ス

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第三十六條 町村會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

第三十七條 町村住民及公民タル權利ノ有無、撰舉權及被撰舉權ノ有無、撰舉人名簿ノ
正否並其等級ノ當否、代理ヲ以テ執行スル選舉權(第十二條第二項)及町村會議員撰
舉ノ効力(第二十九條)ニ關スル訴訟ハ町村會之ヲ裁決ス

前項ノ訴訟中町村住民及公民タル權利ノ有無並撰舉權ノ有無ニ關スルモノハ町村會
ノ設ケナキ町村ニ於テハ町村長之ヲ裁決ス

町村會若クハ町村長ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴訟シ其郡參事會ノ裁決ニ不
服アル者ハ府縣參事會ニ訴訟シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出
訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ町村長ヨリモ亦訴訟及訴訟ヲ爲スコトヲ得

本條ノ訴訟及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スルニ非サレハ
更ニ撰舉ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條 凡議員タル者ハ選舉人ノ指示若シハ委嘱ヲ受ク可ラサルモノトス
第三十九條 町村會ハ町村長ヲ以テ其議長トス若シ町村長故障アルトキハ其代理タル
町村助役ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條 會議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ議
長ニ故障アルモノトシテ其代理者之ニ代ル可シ

議長代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト爲ス可シ

第四十一條 町村長及助役ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辨明スルコトヲ得
第四十二條 町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ議長之ヲ召集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請
求アルトキハ必ス之ヲ召集ス可シ其召集並會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場
合ヲ除クノ外少クモ開會ノ三日間タル可シ但町村會ノ議決ヲ以テ豫メ會議日ヲ定ム
ルモ妨ケナシ

第四十三條 町村會ハ議員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得ス但同
一ノ議事ニ付召集再回ニ至ルモ議員猶三分ノ二ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第四十四條 町村會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再議議決
ス可シ若シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ町村
會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

議員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ郡參事會町村

會ニ代テ議決ス

第四十六條 町村會ニ於テ町村吏員ノ擧擧ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之
ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最
多數ヲ得ル者二名ヲ取リ之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數
ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取リ更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半
數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條、第二十三條、第二十
四條第一項ヲ適用ス

前項ノ擧擧コハ町村會ノ議決ヲ以テ指名推撰ノ法ヲ用フルコトヲ得

第四十七條 町村會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第四十八條 議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及擧擧ノ事ヲ總理シ開會閉會并延會ヲ
命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然贊成又ハ擯斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者ア
ルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十九條 町村會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及擧擧ノ顛末並出席議員ノ氏
名ヲ記錄セシム可シ議事録ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之ニ署名ス可
シ

町村會ノ書記ハ議長之ヲ選任ス

第五十條 町村會ハ其會議細則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス可キ過怠金
二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五十一條 第三十二條ヨリ第四十九條ニ至ルノ規定ハ之ヲ町村總會ニ適用ス

第三章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織選任

第五十二條 町村ニ町村長及町村助役各一名ヲ置ク可シ但町村條例ヲ以テ助役ノ定員ヲ増加スルコトヲ得

第五十三條 町村長及助役ハ町村會ニ於テ町村公民中年齡滿三十歳以上ヨシテ選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

町村長及助役ハ第十五條第二項ニ掲載スル職ヲ兼スルコトヲ得ス
父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ町村長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス若シ緣故アル者ハ其ノ選舉ニ當ルトキハ其當選ヲ取消シ其町村長ノ選舉ニ當リテ認可ヲ得ルトキハ其緣故アル助役ハ其職ヲ退ク可シ

第五十四條 町村長及助役ノ任期ハ四年トス

町村長及助役ノ選舉ハ第四十六條ニ依テ行フ可シ但投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラス郡參事會之ヲ決ス可シ

第五十五條 町村長及助役ハ名譽職トス但第五十六條ノ有給町村長及有給助役ハ此限ニ在ラス

町村長ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得助役ニシテ行政事務ノ一部ヲ分掌スル場合(第七十條第二項)ニ於テモ亦同シ

第五十六條 町村ノ情況ニ依リ町村條例ノ規定ヲ以テ町村長ニ給料ヲ給スルコトヲ得又大ナル町村ニ於テハ町村條例ノ規定ヲ以テ助役一名ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得有給町村長及有給助役ハ其町村公民タル者ニ限ラヌ但當選ニ應シ認可ヲ得ルトキハ其公民タルノ權ヲ得

第五十七條 有給町村長及有給助役ハ三ヶ月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

第五十八條 有給町村長及有給助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ郡長ノ認許ヲ得ルニ非カレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十九條 町村長及助役ノ選舉ハ府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

第六十條 府縣知事前條ノ認可ヲ與ヘサルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クヲ要ス若シ府縣參事會同意セサルモ府縣知事ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得

府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ内務大臣ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

第六十一條 町村長及助役ノ選舉其認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ爲スコシ

再選舉ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選舉ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間認可ノ權アル監督官應ハ臨時ニ代理者ヲ撰任シ又ハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長及助

役ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第六十二條 町村ニ収入役一名ヲ置ク収入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ聘任ス
収入役ハ有給吏員ト爲シ其任期ハ四年トス

収入役ハ町村長及助役ヲ兼スルコトヲ得ス其他第五十六條第二項第五十七條及第七
十六條ヲ適用ス

収入役ノ聘任ハ郡長ノ認可ヲ受ク可シ若シ認可ヲ與ヘサルトキハ郡參事會ノ意見ヲ
聞クコトヲ要ス郡參事會之ニ同意セサルモ猶郡長ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキ
ハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得其他第六十一條ヲ適用ス
郡長ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ府縣知事ニ具申シテ認
可ヲ請フコトヲ得

收入支出ノ寡少ナル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ収入役ノ
事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十三條 町村ニ書記其他必要ノ附屬員並使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人員ハ町
村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但町村長ニ相當ノ書記料ヲ給與シテ書記ノ事務ヲ委任ス
ルコトヲ得

町村附屬員ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ聘任シ使丁ハ町村長之ヲ代用ス
第六十四條 町村ノ區域廣闊ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ處務便宜ノ爲メ町村會
ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分テ每區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理

者ハ名譽職トス

區長及其代理者ハ町村會ニ於テ區町村ノ公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス區
會(第一百條)ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選舉ス

第六十五條 町村ハ町村會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ
名譽職トス

委員ハ町村會ニ於テ町村會議委員又ハ町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ選舉シ町村
長又ハ其委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ委員長トス

常設委員組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得
第六十六條 區長及委員ニハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外町村會ノ議決ニヨ
リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十七條 町村吏員ハ任期滿限ノ後再撰セラルコトヲ得

町村吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコトヲ得
第二款 町村吏員ノ職務權限

第六十八條 町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス
町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ町村會ノ議決其權限ヲ越エ法
律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ
又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶

其議決ヲ更メサルトキハ郡參事會ノ議決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背シコ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二 町村ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルニシテハ其事務ヲ監督スル事

三 町村ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算表其他町村會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四 町村ノ權利ヲ保護シ町村有ノ財産ヲ管理スル事

五 町村員及使丁ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ罷責及五圓以下ノ過怠金トス

六 町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七 外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟並和解ニ關シ又ハ他應若クハ人民ト商議スル事

八 法律命令ニ依リ又ハ町村會ノ議決ニ從テ使用料、手数料、町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九 其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第六十九條 町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

一 司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但

別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス

二 捕役場ノ事務

三 國ノ行政並府縣郡ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス

右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得

本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルガ爲メニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス

第七十條 町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス可シ

第七十一條 町村收入役ハ町村ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十二條 書記ハ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

第七十三條 區長及其代理者ハ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スルモノトス

第七十四條 委員(第六十五條)ハ町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

委員長ハ委員ノ議決ニ加ハルノ權ヲ有ス助役ヲ以テ委員長ト爲ス場合ニ於テモ町村

長ハ隨時委員會ニ出席シテ其委員長ト爲リ并其議決ニ加ハルノ權ヲ有ス
常設委員ノ職務權限ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三款 給料及給與

第七十五條 名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要ス
ル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得
實費辨償額、報酬額及書記料ノ額(第六十三條第一項)ハ町村會之ヲ議決ス

第七十六條 有給町村長有給助役其他有給吏員及使丁ノ給料額ハ町村會ノ議決ヲ以テ
之ヲ定ム

町村會ノ議決ヲ以テ町村長及助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ郡長ノ許可ヲ受クルコト
ヲ要ス郡長ニ於テ之ヲ許可ス可カラスト認ムルトキハ郡參事會ノ議決ニ付シテ之ヲ
確定ス

第七十七條 町村條例ノ規定ヲ以テ有給吏員ノ退隱料ヲ設クルコトヲ得

第七十八條 有給吏員ノ給料、退隱料其他第七十五條ニ定ムル給與ニ關シテ異議アル
トキハ關係者ノ申立ニ依リ郡參事會之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府
縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ
得

第七十九條 退隱料ヲ受クル者官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ
受クルトキハ其間之ヲ停止シ又ハ更ニ退隱料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキ其額舊退隱料

ト同額以上ナルトキハ舊退隱料ハ之ヲ廢止ス

第八十條 給料、退隱料、報酬及辨償等ハ總テ町村ノ負擔トス

第四章 町村有財產ノ管理

第一款 町村有財產及町村稅

第八十一條 町村ハ其不動産、積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務
アリ

臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定
ムルモノハ此限ニ在ラス

第八十二條 凡町村有財產ハ全町村ノ爲メニ之ヲ管理シ及共用スルモノトス但特ニ民
法上ノ權利ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有
スル者アルトキハ町村會ノ議決ヲ經ルニ非ザレハ其舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス

第八十四條 町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル者アル
トキハ町村條例ノ規定ニ依リ使用料若シハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金
ヲ共ニ徵收シテ之ヲ許可スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ
在ラス

第八十五條 使用權ヲ有スル者(第八十三條第八十四條)ハ使用ノ多寡ニ準シテ其土地
物件ニ係ル必要ナル費用ヲ分擔ス可キモノトス

第二編 市制町村制附理由

第八十六條 町村會ハ町村ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ使用權(第八十三條第八十四條)ヲ取上ケ又ハ制限スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十七條 町村有財産ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ニ公ケノ入札ニ付ス可シ但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ認許ヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第八十八條 町村ハ其必要ナル支出及従前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ賦課セラル、支出ヲ負擔スルノ義務アリ

町村ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手数料(第八十九條)并科料、過怠金其他法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ町村稅(第九十條)及夫役現品(第百一條)ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八十九條 町村ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數個人ノ爲メニスル事業ニ付使用料又ハ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十條 町村稅トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如シ

- 一 國稅府縣稅ノ附加稅
- 二 直接又ハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トス特別稅ハ附加稅ノ外別ニ町村限リ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルト

キ賦課徵收スルモノトス

第九十一條 此法律ニ規定セル條項ヲ除クノ外使用料、手数料(第八十九條)特別稅(第九十條第一項第二)及従前ノ町村費ニ關スル細則ハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其條例ニハ科料一圓九十五錢以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

科料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ町村長之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀交付後十四日以内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條 三ヶ月以上町村内ニ滞在スル者ハ其町村稅ヲ納ムルモノトス但其課稅ハ滞在初ニ遡リ徵收ス可シ

第九十三條 町村内ニ住居ヲ構ヘス又ハ三ヶ月以上滞在スルコトナシト雖モ町村内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ハ其土地家屋營業若シハ其所得ニ對シテ課スル町村稅ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第九十四條 所得稅ニ附加稅ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課セントスルトキハ納稅者ノ町村外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除ス可キモノトス

第九十五條 數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ前條ノ町村稅ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其一部分ニノ課稅ス可シ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在ラス

第九十六條 所得稅法第三條ニ掲クル所得ハ町村稅ヲ免除ス
第九十七條 左ニ掲クル物件ハ町村稅ヲ免除ス

- 一 政府、府縣郡市町村其公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 二 社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝、美術及慈善ノ用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ内務大臣

及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ徵収スルハ此限ニ在ラス
新開地及開墾地ハ町村條例ニ依リ年月ヲ限リ免稅スルコトヲ得

第九十八條 前二條ノ外町村稅ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ

皇族ニ係ル町村稅ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第九十九條 數個人ニ於テ專テ使用スル所ノ營造物アルトキハ其修繕及保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課ス可シ

町村内ノ一部ニ於テ專テ使用スル營造物アルトキハ其部内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲ爲ス者ニ於テ其修築及保存ノ費用ヲ負擔ス可シ但其一部ノ所有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ

第百條 町村稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵収ス可シ

會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ町村長ニ届出ツ可シ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徵収スルコトヲ得

第百一條 町村公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ以テ納稅者ニ賦課スルコトヲ得但學藝、美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接町村稅ヲ率率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課ス可シ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又急迫ノ場合ヲ除クノ外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百二條 町村ニ於テ徵収スル使用料、手数料(第八十九條)町村稅(第九十條)夫役ニ代フル金圓(第百一條)共有物使用料及加入金(第八十四條)其他町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ町村長ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵収ス可シ其督促ヲ爲スニハ町村條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵収スルコトヲ得

納稅者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル
本條ニ記載スル徵収金ノ追徵、期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス

第百三條 地租ノ附加稅ハ地租ノ納稅者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル町村稅ハ

其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第四百四條 町村税ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三ヶ月以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度内減税免稅及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス

第四百五條 町村税ノ賦課及町村ノ營造物、町村有ノ財産並其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴願ハ町村長之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

第四百六條 町村ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムヲ得サル支出若クハ町村永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ其町村住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

町會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了ス可シ

定額豫算内ニ支出ヲ爲ヌカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度内ノ収入ヲ以テ償還ス可キモノトス

第二款 町村ノ歳入出豫算及決算

第四百七條 町村長ハ每會計年度歳入支出ノ豫知シ得可キ金額ヲ見積リ年度前二ヶ月ヲ限リ歳入出豫算表ヲ調製ス可シ但町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

內務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

第四百八條 豫算表ハ會計年度前町村會ノ議決ヲ取り之ヲ郡長ニ報告シ并地方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告ス可シ

豫算表ヲ町村會ニ提出スル時ハ町村長ハ併セテ其町村事務報告書及財産明細表ヲ提出ス可シ

第四百九條 定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ町村會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ町村長ハ豫メ町村會ノ認定ヲ受ケスシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第五百十條 町村會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其謄寫ヲ以テ之ヲ收入役ニ交付ス可シ其豫算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受ク可キ事項アルトキハ(第五百二十五條ヨリ第五百二十七條ニ至ル)先ツ其許可ヲ受ク可シ

收入役ハ町村長(第六十八條第二項第三)又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又收入役ハ町村長ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第五百九條ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第二類 市制町村制附理由

前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第百十一條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ檢査シ及毎年少クモ一回臨時檢査ヲ爲ス可シ例月檢査ハ町村長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時檢査ハ町村長又ハ其代理者ノ外町村會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第百十二條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出シ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ町村會ノ認定ニ付ス可シ第六十二條第六項ノ場合ニ於テハ前例ニ依リ町村長ヨリ直ニ之ヲ町村會ニ提出ス可シ其町村會ノ認定ヲ經タルトキハ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告ス可シ

第百十三條 決算報告ヲ爲ストキハ第四十條ノ例ニ準シテ議長代理者共ニ故障アルモノトス

第五章 町村内各部ノ行政

第百十四條 町村内ノ區(第六十四條)又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村(第四條)ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ郡參事會ハ其町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財產及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得其會議ハ町村會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第百十五條 前條ニ記載スル事務ハ町村ノ行政ニ關スル規則ニ依リ町村長之ヲ管理ス可シ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別ス可シ

第六章 町村組合

第百十六條 數町村ノ事務ヲ共同處置スル爲メ其協議ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ得テ其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪フ可キ資力ヲ有セサル町村ニシテ他ノ町村ト合併(第四條)スルノ協議整ハス又ハ其事情ニ依リ合併ヲ不便ト爲ストキハ郡參事會ノ議決ヲ以テ數町村ノ組合ヲ設ケシムルコトヲ得

第百十七條 町村組合ヲ設クルノ協議ヲ爲ストキハ(第百十六條第一項)組合會議ノ組織、事務ノ管理方法並其費用ノ支辨方法ヲ併セテ規定ス可シ

前條第二項ノ場合ニ於テハ其關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等其他必要ノ事項ヲ規定ス可シ若シ其協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ定ム可シ

第百十八條 町村組合ハ監督官廳ノ許可ヲ得ルコト非サレハ之ヲ解シコトヲ得ス

第七章 町村行政ノ監督

第百十九條 町村ノ行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ郡參事會及府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

第百二十條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡町村ノ行政ニ關スル郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事若クハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得 町村ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ

第二編 市制町村制附理由

十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若シハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決書交付シ又ハ是ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス 訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ 又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ町村ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第二百一十一條 監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサル ヤ否ヲ監視ス可シ監督官廳ハ之カ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス 第二百二十二條 町村又ハ其組合ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セサルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ 町村又ハ其組合ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事官ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二百二十三條 凡町村會ニ於テ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ郡參事會代テ之ヲ議決ス可シ

議決ス可シ

第二百二十四條 内務大臣ハ町村會ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命ジタル場合ニ於テハ同時ニ三ヶ月以内更ニ議員ヲ改撰ス可キコトヲ命ス可シ但改撰町村會ノ集會スル迄ハ郡參事會町村會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第二百二十五條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
一 町村條例ヲ設ケ并改正スル事
二 學藝、美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物品ノ賣却讓與質入書入交換若シハ大ナル變更ヲ爲ス事

前項第一ノ場合ニ於テ人口一萬以上ノ町村ニ係ルトキハ勅裁ヲ經テ之ヲ許可ス可シ 第二百二十六條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 新ニ町村ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第百六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在ラス
 - 二 町村特別稅并使用料、手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
 - 三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事
 - 四 間接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事
 - 五 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事
- 第二百二十七條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第二類 市制町村制附理由

- 一 町村ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ並改正スル事
 - 二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十一條)
 - 三 町村有不動産ノ賣却讓與並質入書入ヲ爲ス事
 - 四 各個人特ニ使用スル町村有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事(第八十六條)
 - 五 各種ノ保證ヲ與フル事
 - 六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五ヶ年以上ニ亘リ新ニ町村住民ニ負擔ヲ課スル事
 - 七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅賦課スル事(第九十條第二項)
 - 八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ町村内ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事
 - 九 第一百一條ノ準率ニ據ラズシテ夫役及現品ヲ賦課スル事
- 第二百二十八條 府縣知事郡長ハ町村長、助役、委員、區長其他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ譴責及過怠金トス郡長ノ處分ニ係ル過怠金八十圓以下追テ町村吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ
- 一 町村長ノ懲戒處分第六十八條第二項第五ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 - 二 郡長ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ懲戒處分及其裁決

- 三 不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 - ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 - 三 本條第一項ニ掲載スル町村吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉恥ヲ失フ者、財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務擧ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ(第六十七條)懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス
 - 總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス
 - 四 懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ并給料ヲ停止スルコトヲ得
- 第二百二十九條 町村吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ町村ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但訴願ヲ爲シタルトキハ郡參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

第八章 附則

第三十條 郡參事會府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡

第二類 市制町村制附理由

長、府縣參事會ノ職務ハ府縣知事、行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

第三百三十一條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ撰舉スルニ付町村長及町村會ノ職務并町村條
例ヲ以テ定ム可キ事項ハ郡長又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第三百三十二條 此法律ハ北海道、沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セズ
別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第三百三十三條 前條ノ外特別ノ事情アル地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具申又ハ郡參
事會ノ具申ニ依リ勅令ヲ以テ此法律中ノ條規ヲ中止スルコトアル可シ

第三百三十四條 社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セズ現行ノ例規及其地ノ習慣
ニ從フ

第三百三十五條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル
數ヲ云フ

第三百三十六條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別ハ内務大臣
及大藏大臣之ヲ告示ス

第三百三十七條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具
申ニ依リ内務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行ス可シ

第三百三十八條 明治九年十月第百三十號布告各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規
則明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第六條及第九條但書、明治十七年五
月第十四號布告區町村會法、明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第廿三號

布告、明治十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ抵觸スル城規ハ此法律施行ノ日
ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第三百三十九條 内務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布
ス可シ

第六章 市制町村制理由

本制ノ旨趣ハ自治及分權ノ原則ヲ實施セントスルニ在リテ現今ノ情勢ニ照シ程度ノ宜
キニ從ヒ以テ立法上其端緒ヲ開キタルモノナリ此法制ヲ施行セントスルニハ必先ッ地
方自治ノ區ヲ造成セサル可カラス地方ノ自治區ハ特立ノ組織ヲ爲シ公民法法ノ二者ニ
於テ共ニ一ノ個人民ト權利ヲ同クシ之カ理事者タルノ機關ヲ有スルモノナリ其機關ハ法
制ノ定ムル所ニ依テ組織シ自治體ハ即チ之ニ依テ其意思ヲ表發シ之ヲ執行スルコトヲ
得ルモノトス故ニ自治區ハ法人トシテ財產ヲ所有シ之ヲ授受賣買シ他人ト契約ヲ結ビ
權利ヲ得義務ヲ負ヒ又其區域内ハ自ラ獨立シテ之ヲ統治スルモノナリ然リト雖モ其區
域ハ素ト國ノ一部分ニシテ國ノ統轄ノ下ニ於テ其義務ヲ盡サ、ルヲ得ス故ニ國ハ法律
ヲ以テ其組織ヲ定メ其負擔ノ範圍ヲ設ケ常ニ之ヲ監督ス可キモノトス
國內ノ人民各其自治ノ團結ヲ爲シ政府之ヲ統一シテ其機軸ヲ執ルハ國家ノ基礎ヲ鞏固
ニスル所以ナリ國家ノ基礎ヲ固クセントセバ地方ノ區畫ヲ以テ自治ノ機體ト爲シ以テ
其部内ノ利害ヲ負擔セシメサル可カラス

第二類 市制町村制附理由

現今ノ制ハ府縣ノ下郡區町村アリテ町村ハ稍自治ノ体ヲ存スト雖モ未ク完全ナル自治ノ制アルヲ見ス郡ノ如キハ全ク行政ノ區畫タルニ過キス府縣ハ素ト行政ノ區畫ニシテ幾分カ自治ノ制ヲ兼テ有セルカ如シト雖モ是亦全ク自治ノ制アリト謂フ可カラズ今前述ノ理由ニ依リ此區畫ヲ以テ悉ク完全ナル自治体ト爲スチ必要ナリトス即府縣都市町村ヲ以テ三階級ノ自治体ト爲サントス此階級ヲ設クルハ分權ノ制ヲ施スニ於テモ亦緊要ナリトス蓋自治區ニハ其自治体共同ノ事務ヲ任ス可キノミナラス一般ノ行政ニ屬スル事ト雖モ全國ノ統治ニ必要ニシテ官府自ラ處理スヘキモノヲ除クノ外之チ地方ニ分任スルヲ得策ナリトス故ニ其町村ノ力ニ堪フル者ハ之チ其負擔トシ其力ニ堪ヘサル者ハ之チ郡ニ任シ郡ノ力ニ及ハサル者ハ之チ府縣ノ負擔トス可シ是階級ノ重複スルヲ厭ハスニテ却テ利益アリト爲ス所以ナリ

維新ノ後政務ヲ集攬シテ一ニ之チ中央ノ政府ニ統ヘ地方官ハ各其職權アリト雖モ政府ノ委任ニ依テ代テ事ヲ處スルニ過キス今地方ノ制度ヲ改ムルハ即チ政府ノ事務ヲ地方ニ分任シ又人民ヲシテ之ニ參與セシメ以テ政府ノ繁雜ヲ省キ併セテ人民ノ本務ヲ盡サシメントスルニ在リ而シテ政府ハ政治ノ大綱ヲ握リ方針ヲ授ケ國家統御ノ實ヲ舉グルヲ得可ク人民ハ自治ノ責任ヲ分チ以テ專ラ地方ノ公益ヲ計ルノ心ヲ起スニ至ルヘシ蓋人民參政ノ思想發達スルニ從ヒ之チ利用シテ地方ノ公事ニ練習セシメ施政ノ難易ヲ知ラシメ漸ク國事ニ任スルノ實力ヲ養成セントス是將來立憲ノ制ニ於テ國家百世ノ基礎ヲ立ツルノ根源ナリ

故ニ分權ノ主義ニ依リ行政事務ヲ地方ニ分任シ國民ヲシテ公同ノ事務ヲ負擔セシメ以テ自治ノ實ヲ全カラシメントスルニハ技術專門ノ職若クハ常職トシテ任ス可キ職務ヲ除クノ外概テ地方ノ人民ヲシテ名譽ノ爲メ無給ニシテ其職ヲ執ラシムルヲ要ス而シテ之チ擔任スルハ其地方人民ノ義務ト爲ス是國民タル者國ニ盡スノ本務ニシテ丁壯ノ兵役ニ服スルト原則チ同クシ更ニ一步ヲ進ムルモノナリ然レトモ人民ヲシテ普ク此義務ヲ帶ハシムルトキハ其任又輕シト爲サス故ニ一朝ニシテ此制ヲ實行セシトスルハ頗ル難事ニ屬スト雖モ其目的タル國家永遠ノ計ニ在リテ效果ヲ速成ニ期セス漸次參政ノ道ヲ擴張シテ公務ニ練熟セシメントスルニ在リ是ヲ以テ力メテ多ク地方ノ名譽アル者ヲ舉ケテ此任ニ當ラシメ其地位ヲ高クシテ待遇ヲ厚クシ無用ノ勞費ヲ負ハシメス倦意ノ念ヲ生セサラシムルトキハ漸ク其責任ノ重キヲ知リ參政ノ名譽タルヲ辨スルニ至ラントス且本邦舊來ノ制ヲ考フルニ無給職ニシテ町村ノ事務ニ任スルノ例アリ各地方ノ習慣固ヨリ一定ナルニ非ス且維新後數次ノ變革ニ依テ頗ル此習慣ヲ破リタリト雖モ今日ニ及テ之チ襲用スルコト猶難カラサル可シ是此制ヲ實施スルニ方テ多少ノ困難アルニ拘ラズ漸次其目的ヲ達セシメトナ期シテ疑ハサル所以ナリ

然レトモ他ノ一方ヨリ之チ見ルトキハ又地方ノ情況ニ依リ多少ノ酌量ヲ加ヘサルヲ得サルモノアリ是ヲ以テ町村長ハ公選ト爲スト雖モ其選舉宜キヲ得サルトキハ臨時官選ヲ許シ或ハ官吏ヲ派遣シテ其事務ヲ執ラシムルノ例アリ又島嶼ノ地其他特別ノ事情アリテ此制ヲ實施シ難キ地方ニハ之チ行ハサルヲ許スノ例アリ(町村制第六十一條第百

三十二條第百三十三條)其他十分ニ實地活用ノ方ヲ與ヘタルハ各地ノ實況ニ照シテ之ニ應スルノ便アルヲ信ス固ヨリ此等ノ法令ハ人民ノ情態ニ依リ智識ノ度ニ應シテ宜キヲ取ラサルヲ得ス徒ニ自治ノ理論ニ據テ俄ニ其完備ヲ求ムルカ如キハ立法者ノ慎重ヲ加フ可キ所ナリトス是本制多少ノ斟酌ナキヲ得サル所以ナリ

本制ヲ施行スルニ付テハ漸チ以テ郡府縣ノ制度ノ改正ニ及ハサルヲ得サルモノアリ今其概略ヲ擧クレンハ郡ニ郡長ヲ置キ府縣ニ府縣知事ヲ置キ其選任組織等固ヨリ舊ノ如クシテ之ヲ改メスト雖モ府縣會ノ外新ニ郡會ヲ開キ府縣郡ニ各參事會ヲ設ケサルヲ得ス然レトモ是等ノ事ハ府縣郡制ノ制定アルヲ待テ始メテ定マル可キ事ニテ今只之ヲ以テ本制ノ參考ニ供スルノミ

本制ニ制定スル市町村ハ共ニ最下級ノ自治体ニシテ市ト云ヒ町村ト云ヒ郡都ノ別ニ依テ其名ヲ異ニスルニ過キス其制度ヲ立ツルノ原質ニ至テハ彼此相異ナル所ナシ元來町ト村トハ人民生計ノ情態ニ於テ其趣ナ同クセサルモノアリテ細カニ之ヲ論スレハ均一ノ準率ニ依リ難キモノナキニ非スト雖モ本邦現今ノ狀況ヲ察シ舊來ノ慣習ニ依テ之ヲ考フルニ都會輻湊ノ地ヲ除クノ外宿驛ト稱シ町ト稱スルモノ施政ノ大體ニ於テ村落ト異同アルコトナシ故ニ今之ヲ同一制度ノ下ニ立タシメントス其施政ノ細目ニ至テハ或ハ多少ノ差異ヲ見ルコトアルヘント雖モ此等ハ制度ノ範圍内ニ於テ執行者ノ處分斟酌宜キヲ得ルト否トニ在ル可キモノトス然レトモ都會ノ地ニ至テハ大ニ人情風俗ヲ異ニシ經濟上自ラ差別アリ故ニ之ヲ分離シテ別ニ市制ヲ立テ機關ノ組織及行政監督ノ例ヲ

異ニセリ是固ヨリ町村制ト其性質ヲ異ニスルニ非ス其市民ノ便益ト實際ノ必要トニ出テ然ラサルヲ得ザルナリ即現行ノ區制ニ繼續スル所ノモノナリト雖モ從來ノ區ハ郡ノ疆域ヲ離レシテ行政上別ニ吏員ヲ置キ事務ヲ處理スルニ過キサリシモ今改メテ獨立分離セシメ從來區ノ下ニ町アリシモノ之ヲ改メテ最下級ノ自治体ト爲サントス而シテ三府市街ノ如キハ其狀況又他ノ都會ノ地ト同シカラスアルモノアルヲ以テ市制中機關ノ組織等ニ於テ二三ノ特例ヲ設クルモノアリ今此市制ヲ施行セントスルモノハ三府其他人口凡二万五千以上ノ市街地ニ在リトス尤郡制制定ノ時ニ至テ其要件ヲ確定スルコトアル可シト雖モ今内務大臣ノ定ムル所ニ從テ之ヲ施行セントス區ノ名稱ヲ改メテ市ト爲スハ三府ノ如キ一府内ノ區ト混同スルヲ避クルナリ町村ハ通シテ其組織ヲ同ス可キハ前述ノ如シト雖モ其大小廣狹ニ依リ又ハ貧富繁閑ニ依リテ自ラ事情ヲ異ニスルモノナキニ非ス故ニ或ハ一定ノ例規ヲ適用シ難キモノアリ是亦酌量ヲ加ヘ法律ノ範圍ヲ廣クシテ地方ノ便宜ヲ與ヘントスルナリ(町村制第十一條、第十四條、第二十五條、第三十一條、第五十二條、第五十六條、第六十三條、第六十四條、第百三十三條)

市制町村制第一章 總則

凡市町村ハ他ノ自治區ト同ク二箇ノ元素ヲ存セサル可ラス即チ疆土ト人民ト是ナリ此二者其一ヲ缺クトキハ市町村ノ自治体ヲ爲スニ足ラサルナリ而シテ市町村ノ制度ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムト雖モ或ル界限内ニ在テ市町村ニ自主ノ權ヲ付與スルモノトス是ヲ

第二類 市制町村制附理由

市町村ノ基礎トス

第一款ハ市制町村制ヲ施行スルノ地ヲ定メ(市制町村制第一條)法律上市町村ノ性質ヲ明カニシ(市制町村制第二條)次テ第一元素タル疆土ニ關スル條件ヲ定ム(市制町村制自第三條至第五條)

第二款ハ第二元素ニ關スル條件、住民權公民權ノ得喪及住民權公民權ヨリ生スル權利義務ヲ規定ス(市制町村制自第六條至第九條)

第三款ハ市町村ニ付與スル自主權ノ範圍ヲ示ス(市制町村制第十條)

第一款 市町村及其區域

市町村ノ區域ハ一方ニ在テハ國土分畫ノ最下級ニシテ即國ノ行政區畫タリ一方ニ在テハ獨立シタル自治體ノ疆土タリ其疆土ハ自治體カ公法上ノ權利ヲ執行シ義務ヲ踐行スルノ區域ナリ

故ニ市町村ノ區域ハ從來ノ成立ヲ存シテ之ヲ變更セサルヲ以テ原則トス然レトモ町村ノ力貧弱ニシテ其負擔ニ堪ヘス自ラ獨立シテ其本分ヲ盡スコト能ハサルモノアリ是其町村自己ノ不利タルノミナラス國ノ公益ニ非サルナリ是ヲ以テ有力ノ町村ヲ造成シ維持スルハ國ノ利害ニ關スル所ニシテ町村ノ廢置分合若クハ區域ノ變更等ニ付キ國ノ干渉ヲ要スルコト明ナリ固ヨリ關係アル土地ノ所有主及自治區ヲシテ利害ノ關スル所ニ依テ各其意見ヲ達スルノ機會ヲ得セシメ其意見一般ノ公益ヲ害セサル限リハ之ヲ採用セサル可カラズ尤他ノ一方ヨリ論スルトキハ其關係者タルモノハ動モスレハ自己ノ利

害ニ偏シ永遠ノ得失ヲ顧サルカ如キコトアルヲ免レヌ故ニ其承諾ニ依テ決スルコトヲ得ス假令其承諾ナキモ之ヲ斷行スルノ權力アルヲ要ス然レトモ此等ノ處置タルヤ地方ノ情況ニ通曉スルヲ要シ且公平ヲ示サンカ爲メニ高等自治區參事會ノ議決ニ任スルヲ至當トス(市制町村制第四條)

本制ハ町村ノ分合ニ就テ詳細ナル規則ヲ設ケス各地ノ情況ヲ斟酌スルノ餘地ヲ存スルナリ唯十分ノ資力ヲ有セサル町村ハ比隣相合併ス可キノ例ヲ設ク此ノ如キ町村ハ獨立ヲ有タシムルコトヲ得サルヲ以テ假令其承諾ナキモ他ノ町村ニ合併シ又ハ數個相合シテ新町村ヲ造成セサル可カラズ固ヨリ本制ニ定ムルカ如ク各市町村從前ノ區域ヲ變更セサルハ其原則ナリト雖モ現今各町村ノ大半ハ狹小ニ過キ本制ニ據テ獨立町村タル資格ヲ有スルヲ得サルモノ蓋少カラズ故ニ合併ノ處分ヲ爲スモ亦已ムヲ得サル所ナリ然レトモ分合ノ例規ハ詳ニ之ヲ法律ニ制定セシ其緩急ヲ行政廳ノ見ル所ニ任スルモノハ各地ノ地形人情及古來ノ沿革ヲ參酌スルノ自由ヲ得セシメントスルニ在リ若シ其實行ニ方テ執行者ノ標準ヲ定ルカ如キハ時ニ臨テ訓令ヲ發スルコトアル可シ之ヲ要スルニ町村ハ舊來ノ區域ヲ存シテ改メサルヲ原則トシ資力ナキモノハ之ヲ合併シテ以テ法律ノ冀望スル有力ノ町村ヲ造成センコトヲ期スルニ在リ又合併ノ爲メニ其區域廣濶ニ過キテ地形人情ノ自然ヲ失ヒ共有物ノ區域ヲ混シ其使用ノ便ヲ害スル等ノ事ナキヲ要ス然レモ今日ニ在テハ事情已ムヲ得サルモノアリテ十全ノ合併ヲ爲スコトヲ得ヌ又ハ合併ヲ以テ不便ト爲スカ如キコトアルヘシ故ニ町村制第百十六條ニ於テ町村組合ヲ設ク

第二類 市制町村制附理由

ルノ便法ヲ存セリ其組合町村ハ各獨立ヲ保テ而シテ共同シテ一定ノ事務ヲ處辨スルモ
ノナリ其共同事務ノ範圍等ハ實地ノ需要ニ依テ便宜之ヲ議定スルニ任ス

凡區域ヲ變更スルニ方テハ必關係者ノ協議ヲ以テ財產處分又ハ費用ノ分擔ヲ定ムルヲ
要ス是亦一定ノ例規ヲ示サス蓋此等ノ處分ハ強テ法理ニ泥マス專ラ情義ニ依ルヲ以テ
穩當トス但其專斷偏私ノ弊ナカラシメンカ爲メ其處分ヲ參事會ニ任セリ而シテ其參事
會ノ議決ニ對シテハ司法ノ裁判ヲ仰クヲ許サス

市町村經界ノ爭論ハ公法上ノ權利ノ廣狹ニ關スルヲ以テ公法ニ屬セリ故ニ此類ノ爭論
ハ司法裁判ヲ求ムルヲ許サスシテ參事會ノ議決ニ付シテ終審ニ於テハ行政裁判所ノ判決
ニ任セリ(市制町村制第五條)若シ之ニ反シテ民法上ノ所有權若クハ使用權ニ關スル爭
論ハ固ヨリ司法裁判ニ屬スヘキヲ以テ其爭論者ノ一方若クハ雙方トモ市町村ニ係ルト
雖モ參事會ノ議決ニ付セズ行政裁判ニ屬セサルハ勿論ナリ

第二款 市町村住民籍及公民權

町村ト人民トノ關係ハ現行ノ法ニ於テ本籍寄留ノ別アリ現實ノ住居地ハ必シモ本籍地
ナラス本籍ハ殆ント虛名ヲ存スルニ過キサルモノアリ而シテ府縣會議員ノ選舉ノ如キ
公法上ノ權利ハ本籍ニ屬シテ寄留地ニ屬セサルモノアリ甚テ事實ト相違セズ蓋公法上
ノ權利ヲ行フハ現實ノ利害ニ基ク可クシテ虛名ニ依ル可カラス故ニ本制ニ於テハ現行
本籍寄留ノ法ニ依ラス凡市町村内ニ住居ヲ定ムル者ハ即市町村住民ニシテ本籍寄留ノ
別アルコトナシ尤市町村住民籍即屬籍ノ例規ハ別ニ法令ヲ以テ之ヲ制定セシメコトナリ

ス故ニ茲ニ之ヲ詳述セスト雖モ要スルニ本制ノ行ハル、日ユリ人民ト町村トノ關係即
町村ノ屬籍ニ付テハ從來本籍寄留ノ例ニ一變スルモノナリ但戶籍上ノ事即戶主家族ノ
關係ニ於テハ之ト相關スルコトナシ從前ノ戶籍法ヲ存シテ之ヲ變更セサルナリ

市町村住民ノ權利ハ市町村ノ營造物ヲ共用シ其財產所得ノ使用ニ參與スルニ在リ但法
律及市町村ノ條例規則ニ據ル可キハ固ヨリ言テ俟タス其義務ハ市町村ノ負擔ヲ分任ス
ルニ在リ其義務ノ生スルハ即市町村ニ住居ヲ定メ住民ト爲リシ時ニ起ル但シ市町村内
ニ住居ヲ定メス臨時滞在スル者其市町村住民ニ非サル者ト雖モ其滞在ノ久キニ至テハ
市町村ノ負擔ニ任セシムルヲ當然トス(市制町村制第九十二條)

故ニ身爲旅ニ在ル者ト一時ノ滞在者トテ除クノ外凡市町村内ニ住居ヲ定ムル者ハ即皆
市町村住民トシ軍人官吏ノ如キモ亦皆然リ然リト雖モ軍人官吏ハ公民權ヲ行ヒ及市町
村ノ負擔ヲ分任スル上ニ於テ例外ニ置クニ必要ト爲スノ條件アリ即市制第八條、第九
條、第十二條、第十五條、第五十五條、第九十六條、町村制第八條、第九條、第十二條、第十
五條、第五十三條、第九十六條ニ定ムル所ノ如シ又皇族ハ市町村ノ屬籍外ナルコト勿論
ナレハ敢テ本制ニ揚載セズ

市町村住民中公務ニ參與スルノ權アリ又義務アル者ハ別ニ要件ヲ定メテ其資格ニ適フ
者ニ限ル之ヲ公民トス(市制町村制第七條)

公民ハ住民中ニ在テ特別ノ權利ヲ有シ重大ノ負擔ヲ帶ヒタル者トス其資格ノ要件ハ自
ラ民度風俗ニ從ヒ各地方ノ情況ヲ酌シ以テ其宜シ制スルヲ便ナリトス故ニ市町村ノ自

主ノ權ニ任セ適宜ニ制定セシム可キカ如シト雖モ又一方ヨリ考フレハ各地方區々ニ出テ、權利上公平ヲ失スルノ恐ナキ能ハス各國ノ例ヲ案スルニ是亦異同アリテ一定セズ今本制ハ本邦ノ民度情體ヲ察シ併セテ各國ノ制ヲ參酌シ之ヲ制定セリ
各國ノ例ヲ案スルニ大畧二類アリ一ハ即市町村住民ニシテ法律上ノ要件ニ適スルトキハ直ニ公民トナルノ法トシ一ハ則特別ノ手續ニ依テ公民權ヲ得ルノ法トス今第一ノ例ヲ以テ適當ト爲ス故ニ本制ハ市町村住民中市制町村制第七條ニ規定シタル要件ニ適スルトキハ直ニ公民タルヲ得ルモノトス

外國人及公權ヲ有セサル者ニハ公民權ヲ與フ可カラサルコト疑ヲ容レズ本制ニ於テハ婦人及獨立セサル者モ亦皆公民外ニ置クヲ通例トス但市制町村制第十二條第二十四條ニ於テハ之ニ選舉權ヲ與フルノ特別アリ官府其他總テ法人タル者モ亦之ニ準ス其他ハ一般ニ二年以來市制町村制第七條ニ列記シタル要件ヲ有スルヲ要ス然ルニ一般ニ二年以上ノ制限アルハ或ハ不公平ヲ生スルノ恐アリト雖モ市町村會ニ於テ之ヲ特免スルノ權利ヲ有スルヲ以テ其甚シキニ至ラサル可シ其他多額ノ納稅者ニ就テモ亦之ニ類スル特別ヲ設ク(市制町村制第十二條)甲市町村ノ住民ニシテ乙市町村内ニ土地ヲ所有シ若クハ營業ヲ爲スカ爲メニ市制町村制第九十三條ニ從ヒ市町村稅ヲ負擔スル者アリ此ノ如キ者ニハ固ヨリ完全ノ公民權ヲ與ヘスト雖モ市制町村制第十二條ニ從テ特ニ選舉權ヲ行ハシムルモノトス蓋本制ニ定ムル要件中納稅額ノ制限ヲ設クル所以ハ市町村ヲ以テ其盛衰ニ利害ノ關係ヲ有セサル無智無慮ノ小民ニ放任スルコトヲ欲セサルカ爲メナ

リ然レハ本制ニハ二級若クハ三級選舉法ヲ行フニ依テ幸ニ小民ノ多數ヲ以テ資產者ヲ抑壓スルノ患ヲ免ル可キカ故ニ其制限ノ之ヲ低度ニ定ムルモ妨ケナシ元來選舉權ヲ擴充シ以テ細民不滿ノ念ヲ絶テシメトナ期スルハ此選舉法ノ他ニ優レリトスル所ナリ故ニ本制ニ於テハ二年以來町村内ニ於テ地租ヲ納ムル者ハ其制限額ヲ設ケス其他ノ納稅者ハ二圓以上トセリ而シテ其稅額直接國稅ヲ標準ト爲シ市制町村制第十二條、第十三條ノ場合ノ如ク市町村稅ヲ標準トセサル所以ノモノハ現今町村費ノ賦課法タル各地方異同アリテ未タ完全ノ域ニ達セサルヲ以テ町村稅ニ依リ其標準ヲ立ツルハ頗ル難事ニ屬スルヲ以テナリ

公民權ヲ得ルノ要件アル以上ハ其要件ヲ失フ者ハ又其權ヲ失フ可シ(市制町村制第九條)即公民權ハ左ノ事件ト共ニ消滅スルモノトス

- 一 國民籍ヲ失フ事
 - 二 公權ヲ失フ事
 - 三 市町村内ニ住居セサル事即住民權ヲ失フ事
 - 四 公費ヲ以テ救助ヲ受クル事
 - 五 獨立ヲ失フ事即一戸ヲ構フルコトヲ止メ又ハ治産ノ禁ヲ受クル事
 - 六 市町村負擔ノ分任ヲ止ムル事
 - 七 市町村内ノ所有地ヲ他人ニ讓リ又ハ直接國稅二圓以上ヲ納メサル事
- 租稅滯納處分中ノ者ハ公民權ヲ喪失スルコトアシテ停止セラル、モノナリ其他市制

第二類 市制町村制附理由

町村制第九條第二項ニ記載セル場合ハ總テ之ニ同シ喪失ト停止トノ區別ハ停止ノ時ハ其權利ヲ存シテ只法律ニ定メタル事由ノ存スル間之カ執行ヲ止ムルニ在リ
 公民權ヲ有スル者ハ一方ニ在テハ選舉被選舉ノ權利ヲ有シ一方ニ在テハ市町村ノ代議及行政上ノ名譽職ヲ擔任ス可キ義務ヲ負フモノトス此義務ハ渾テ法律上ノ義務ニ於ケルカ如ク強制シテ之ヲ履行セシメサル可カラス固ヨリ直接ニ之ヲ強制スルヲ得スト雖モ故ナリ名譽職ヲ拒辭シ退職シ又ハ實際職務セサル者ヲ懲罰スルニ公務ニ參與スルノ權ヲ停止シ並市町村稅ヲ增課スルノ例アルハ即間接ノ裁制ヲ存スル所以ナリ(市制町村制第八條)

其裁制ヲ行フノ權ハ之ヲ市町村會ニ付與シ、住民權公民權ノ有無等ニ關スル爭論モ亦之ヲ市町村會ノ議決ニ任シ(市制第三十五條町村制第三十七條)之ニ關スル訴願ハ參事會ノ議決ニ付シ行政裁判所ニ出訴スルヲ許シテ以テ其權利ヲ保護スルハ皆本制大体ノ精神ヨリ出ツル所ナリ

第三款 自主ノ權

自主ノ權トハ市町村等ノ自治體ニ於テ其内部ノ事務ヲ整理スルカ爲メニ法規ヲ立ツルノ權利ヲ謂フ所謂自治ノ義ト混同ス可カラス自治トハ國ノ法律ニ遵依シ名譽職ヲ以テ事務ヲ處理スルヲ謂フ元來法規ヲ立ツルハ國權ニ屬スルモノナリト雖モ或ル範圍内ニ於テ之ヲ自治區ニ付與スル所以ノモノハ一國ノ立法權ヲ以テ周ク地方ノ情況ヲ酌量シ其特殊ノ需要ニ應スルコト能ハサルニ因ル固ヨリ市町村ノ法規ハ其市町村ノ區域内ニ

限リ且國ノ法律ヲ以テ其自主權ニ任シタル事件ニ限リ効力アル者トス其委任ノ範圍ノ如キハ古來ノ沿革及人民政治上ノ教育ノ度ニ伴隨ス可キ者ニシ其範圍ノ廣狹ニ依テ利害ノ分ル、所立法官タル者最慎マサル可ラス今本邦各地方ノ情況ヲ裁酌シ自主ノ權ヲ適實ニ施行ス可キノ望ナキモノハ法律ヲ以テ之ヲ規定シ或ハ法律ヲ以テ摸範ヲ示シ猶地方ノ情況ニ依リ自主ノ權ヲ以テ之ヲ増減斟酌スルヲ許サントス市町村ノ自主ノ權ヲ以テ設クル所ノ法規ニ條例及規則ノ別アリ規則トハ市町村ノ營造物(瓦斯局、水道、病院ノ類)ノ組織及其使用法ヲ規定スルモノヲ謂ヒ條例トハ市町村ノ組織又ハ市町村ト其住民トノ關係即市町村ノ組織中ニ在テ權利義務ヲ規定スルモノヲ謂フ其法律命令ニ抵觸スルヲ得サルハ二者共ニ相同シ但條例ニ在テハ此外猶制限アリ即法律ニ明文ヲ掲ケテ特例ヲ設クルコトヲ許シ或ハ法律ノ明條ナクシテ自主ノ權ヲ許シタル場合ニ限ルモノトス明文ヲ以テ條例ヲ設クルコトヲ許シタル場合ヲ列舉スレハ市制ニ在テハ第十一條、第十四條、第四十九條、第六十一條、第六十九條、第七十三條、第七十七條、第八十四條、第九十一條、第九十七條、第一百二條、第一百三條、町村制ニ在テハ、第十一條、第十四條、第三十一條、第五十二條、第五十六條、第六十五條、第七十四條、第七十七條、第八十四條、第九十一條、第九十七條、第一百二條、第一百四條トス其他本制ニ於テ條例ト謂ハスシテ條例ニ均シキ規定ヲ許シタル場合モ亦少カラス其條例ト明言セサル所以ハ專テ許可ヲ要セサルニ在リ(市制第四十條、第四十八條、第六十條、町村制第四十二條、第五十條、第六十四條)

第二類 市制町村制附理由

條例規則ヲ新設改正スルハ市町村會之ヲ議決シ(市制第三十一條第一、町村制第三十三條第一)市制第二百二十一條第一及第二百二十三條第一、町村制第二百五條第一及第二百二十七條第一ニ依リ許可ヲ受ク可キモノトス但町村制第三十一條及第二百十四條ニ於テハ特例トシテ之ヲ郡參事會ノ議決ニ委任セリ是町村會ニ於テ此議決ヲ爲スヲ得ス又其議決ノ偏頗ニ失スルノ恐アルヲ以テナリ又本制施行ノ當初未ダ市町村會ヲ召集セサル間ニ於テ條例ヲ以テ規定ス可キ事項ノ處分法ハ市制第二百二十八條及町村制第三百一十一條ニ依ル其他條例規則ヲ論セス公布ヲ竣テ初メテ他人ニ對シテ効力ヲ有スルハ一般ノ法理ニ照シテ疑ナキ所ナリ

市制町村制第二章 市會町村會

市町村ハ法人タル者ナレハ之ニ代テ思想ヲ發露シ之ニ代テ業務ヲ行フ所ノ機關ナカル可カラス其機關ニ代議ノ機關ト行政ノ機關トノ二者アリ
 代議ノ機關トハ即市會町村會ニシテ其沿革ノ詳ナルハ今姑ク措キ往時町村ノ寄合ヲ稱セシモノニ起リ維新後ニ至テ府縣會ト同ク各地方ニ町村會ヲ開キタリ然レトモ其法律ヲ以テ制定シタルハ即明治十三年ノ區町村會法ヲ創始トシ其後明治十七年ノ改正ヲ經テ今日ニ及ヘリ然レトモ其法律ハ會議ノ大則ヲ定メタルニ過キスシテ餘ハ之ヲ各地方ノ適宜定ムル所ニ任セタリ又全國ノ町村盡ク之ヲ開設スルニ非ス小町村ノ如キ會議ヲ設ケサルモ亦少シトセス今之ヲ改メテ會議ノ規則ヲ制定スト雖モ猶多少ノ酌量ヲ地方ニ任セ且小町村ノ如キハ代議會ヲ設ケサルヲ許シテ代フルニ撰舉人ノ總會ヲ以テセリ

第一款 組織及撰舉

代議機關ハ完全ナル權利ヲ有セル市町村民ノ撰舉ニ出ツルモノトス其組織ノ方法ニ至テハ外國ノ例ヲ參考スルニ各多少ノ異同アリ蓋國ノ情況ニ適合スル完備ノ法ヲ立ツルハ易カシカル所ナリト雖モ今古來ノ沿革時勢人情ヲ考察シ傍ラ外國ノ例ヲ參酌シテ以テ其宜ヲ制定ス其要點左ノ如シ

一 撰舉權

撰舉權ハ素ヨリ完全ナル權利ヲ有スル公民ニ限リテ之ヲ有ス可シ然ルニ此權利ヲ擴張シ特例トシテ之ヲ公民ナラサル者ニ與フルコトアリ(市制町村第十二條)是其人ノ利害ニ關スル所最厚ク且市町村稅負擔ノ最重キカ故ナリ此點ハ上ニ之ヲ詳述セリ

二 被撰舉權

被撰舉權ハ撰舉權ヲ有スル者ニ限リテ之ヲ有ス可シト雖モ其市町村ノ公民ニ非サル者ニ至テハ假令撰舉權ヲ有スルモ被撰舉權ヲ有セス其他被撰舉權ノ要件ヲ撰舉權ノ要件ニ同クシテ別ニ是カ制限ヲ設ケサルハ適任ノ人物ヲ撰舉スルノ區域ヲ徒ニ減縮セサラソカ爲メナリ被撰舉權ヲ與ヘサル制限ハ或ハ外國ノ例ヲ參酌シテ之ヲ取ルモノアリ或ハ地方ノ情況ニ照シテ已ムヲ得サルモノアリ又本制ニ於テハ無給ノ市町村吏員ニ被撰舉權ヲ與ヘタリ市町村ノ行政事務ヲ掌ル名譽職ヲ擔任シ公共事務ニ從事スル者ヲ代議會ニ加フルヲ許スハ穩當ナラサルカ如シト雖モ地方ニ依リテハ多少適任ノ人ヲ得可カラサルヲ以テナリ行政ト代議ト最利害ノ抵觸シ易キ場合ニ關シテハ市制第三十八條、

第二類 市制町村制附理由

第四十三條、第六十六條、第一百十二條、町村制第四十條、第四十五條、第四十五條、第一百十三條等ニ於テ豫メ之ニ處スルノ法ヲ設ケタリ

三 選舉等級

本制ニ於テハ納稅額ニ依テ撰舉人ノ等級ヲ立テ撰舉權ヲ以テ市町村稅負擔ノ輕重ニ伴隨セシム蓋名譽職ニ任スルハ町村公民ノ輕カラサル義務ナレハ資産アル者ニ非サレハ之ニ任スルコト能ハス又其稅額ノ多寡ハ姑ク之ヲ論セサルモ其專ヲ自治ノ義務ヲ負擔スル者ニ相當ノ權力ヲ有セシムルハ固ヨリ當然ノ理ナリ今等級撰舉法ヲ以テ常例トセラルハ即此要旨ニ外ナラス等級選舉ノ例ハ本邦ニ於テハ創始ニ屬スト雖モ之ヲ外國ノ實例ニ照スニ明ニ其良結果アルヲ徵スルニ足ル本制被撰舉權ノ資格ヲ廣クシテ而シテ其流弊ナキヲ信スル所以ノモノハ即此撰舉法ニ依テ以テ細民ノ多數ニ制セラル、ノ弊ヲ防クニ足ルヘキヲ以テナリ

各地方ノ狀況ヲ見ルニ都鄙ニ依テ貧富ヲ異ニシ地形ニ依テ産業ニ別アリ故ニ各地ニ通スル一定ノ稅額ヲ設ケテ等級ヲ分ツコトヲ得ス又單ニ土地ノ所有ヲ以テ撰舉權ノ標準ト爲スコトヲ得ス是ヲ以テ等級法ヲ立テント欲スルニハ市町村內ニ於テ徵收スル市町村稅ノ總額ヲ標準トシ各自納稅額ノ多寡ニ依テ其順序ヲ定メ等級ヲ立ツルノ外他ニ良法アルヲ知ラス然ルニ市ハ通シテ三級トシ町村ハ單ニ二級トセルハ市民ハ戶口多ク貧富ノ階級アルコト町村民ノ等差少キカ如キニ非サルヲ以テナリ(市制町村制第十三條)但町村ニシテ特別ノ事情アルモノアリ例ヘハ撰舉人寡少ニシテ其稅額ノ等差モ亦少ク

或ハ一二ノ納稅者アリテ非常ニ多額ノ稅ヲ納ムルカ或ハ大町村ニ於テ其納稅者ノ等差極メテ甚キノ類ニシテ二級撰舉法ヲ適當トセサル場合モアル可シ此場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ三級撰舉法ヲ設クルコトアル可ク或ハ等級ヲ設ケス或ハ更ニ他ノ方法ヲ立ツルコトヲ得セシメントス尤ニ二級若クハ三級撰舉法ヲ以テ常例ト爲スカ故ニ不得已ノ事情アリテ許可ヲ受クルニ非カレハ此特別ヲ設クルコトヲ得サル可シ
被撰舉人ハ其區内級内ノ者ニ限ラスト爲スハ(市制第十三條、第十四條、町村制第十三條)市町村會ノ議員ハ全市町村ノ代表者タルノ原則ヨリ出ツルモノニシテ是亦實際ノ便宜トスル所ナリ

四 撰舉ノ手續

撰舉ノ事務タル其關スル所輕カラサルヲ以テ其細則ニ至ルヤテ法律ヲ以テ之ヲ規定スルヲ要ス其單ニ手續ニ屬スル事項ト雖モ力メテ法律ニ之ヲ制定スル所以ノモノハ選舉ノ公平確實ナルコトヲ保シ行政廳ノ干涉ヲ防キ或ハ干涉ノ疑ヲ避ケンカ爲メナリ其順序大略左ノ如シ

撰舉ハ通例三年毎ニ之ヲ行フ之ヲ定期選舉トシ議員ノ半數ヲ改選ス其半數ヲ改選スルハ事務ニ熟練セル議員ヲ存續セシメンカ爲メナリ但解散ノ場合ハ此ノ如クスルヲ得ス又此法律施行ノ當初ニ於テ撰舉セラレタル議員ハ初回ノ改選ニ方リ抽籤ヲ以テ半數ヲ退任セシムルニ依リ其半數ハ三年間在職スルモノトス此二箇ノ場合ヲ除キ議員ハ總テ六年間在職スルモノトス若シ議員任期中ニ死亡シ若クハ退職スルトキハ直ニ補闕員ヲ

撰舉シ前任者ノ任期ヲ襲ガシメサル可カラズ之ヲ補闕撰舉トス然レトモ屢撰舉ヲ行フ
トキハ其煩ニ堪ヘサルカ故ニ補闕撰舉ハ定期撰舉ヲ待テ之ト同時ニ行フヲ通例トス假
令一二ノ閑員アルモ事務ニ支障ナカルヘキヲ以テナリ然レモ若シ多數ノ議員退任スル
等已ムヲ得ス補闕員ヲ選舉スルノ必要アルトキハ市制町村制第十七條ニ於テ之レカ便
法ヲ設ク

選舉ヲ爲スノ準備ニ屬スル事ハ之ヲ行政機關即町村長若シハ市長及市參事會ニ委任セ
リ而シテ其事務ハ撰舉ノ基礎タル撰舉名簿ヲ調製スルヲ以テ第一トス本制ハ所謂永續
名簿ノ法ニ依ラス撰舉ヲ行フ毎ニ名簿ヲ新ニスルノ法ヲ取レリ(市制町村制第十八條)
其調製シタル名簿ハ撰舉前數日間關係者ノ縦覽ニ供シ異議アル者ハ市町村長ニ申立テ
又ハ訴願若シハ行政訴訟ノ手續(市制第三十五條、町村制第三十七條)ヲ以テ誤テ正ス
可キ便利ヲ與タリ此名簿ノ調製ハ撰舉ヨリ數日前ニ終結ス可キカ故ニ其結了ノ時ニ行
タル裁決ハ之ヲ執行ス可シト雖モ各訴願ノ確定終局ニ至ル迄在韓日ヲ曠クスルヲ得ス
撰舉ノ期日ニ至レハ其訴願ニ拘ラス之ヲ執行ス若シ其名簿ニ錯誤アルカ爲メ撰舉ノ無
效ニ歸スルコトアレハ更ニ之ヲ申立ツルコトヲ得可シ又被撰人當撰ヲ辭シ或ヒハ撰舉
ヲ無効ナリト斷定セラレタル時ト雖モ更ニ名簿ヲ調製スルヲ要セス判決ニ準據シテ舊
名簿ヲ訂正シタル上之ヲ用フルモノトシ之カ爲メ更ニ關係人ノ縦覽ニ供シテ正誤申
立ノ時間ヲ與フルコトアラズ唯名簿全体ノ不正ナルカ爲メ全撰舉ヲ無効ナリトナシタル
時ニ至テハ新簿ヲ調製スルコト已ムヲ得サルナリ

撰舉ノ期日ハ町村長市參事會之ヲ定ム本制ニ據レハ撰舉人ヲ召喚スルニハ公告ヲ以テ
足リトスト雖モ實際市町村ノ便宜ニ依リ各撰舉人ニ對シ特ニ召集狀ヲ送付スルコトアル
モ妨ケナシ其他投票時間ヲ定ムルハ市長町村長ニ任シタルヲ以テ市長町村長ハ撰舉人
ノ多寡及地形等ヲ參酌シテ之ヲ定ム可シ

撰舉事務ノ統轄ハ之ヲ自治ノ吏員ニ委任シ(市制町村制第二十條)監督官廳ハ特ニ之カ
監督ヲ爲ス可キノミ(市制第二十八條、町村制第二十九條)而シテ選舉掛ハ集議休ニ編
制セリ撰舉掛ハ撰舉人代理者ノ許否、投票ノ效力等直ニ之ヲ裁決セサルヲ得スシテ此
ノ如キハ一個ノ吏員ニ委任スルコトヲ得サルヲ以テナリ固ヨリ撰舉掛ニ於テ右等ノ事
件ヲ裁決スト雖モ後ニ至リ撰舉ノ無効ヲ申立ツル者アルトキハ之ヲ裁決スル官廳ニ於
テハ右議決ニ拘ラス至當ノ裁決ヲ爲ス可キ者トス撰舉會ハ撰舉人ニ取リテハ公會ナリ
ト雖モ(市制町村制第二十一條)其撰舉ハ全ク秘密投票ノ法ヲ以テス即選舉掛ハ勿論其
他何人ニテモ投票者ニ於テ何人ヲ撰舉セントスルカヲ知ラシメサルモノトス故ニ撰舉
ノ際ハ投票ヲ用ヒ票中ニ投票者ノ氏名ヲ記載セス又之ニ調印セシメス封緘シテ之ヲ差
出サシム(市制町村制第二十二條、第三十三條)元來公選舉ト秘密選舉トノ別アリ其利害
得失ニ就テハ互ニ論アリト雖モ今特ニ地方自治區ノ選舉ニ就テ之ヲ考フルニ町村ノ事
情タル居民常ニ相密接スルモノナレハ撰舉ノ自由ヲ妨ケサランカ爲メニ寧ロ秘密撰舉
ヲ以テ良法ト爲ス而シテ撰舉權ヲ有セサル者ノ投票又ハ重複ノ投票ヲ防カンカ爲メニ
ハ選舉人自ラ出頭スルノ例アリ(市制町村制第二十四條)又名簿ニ照シテ之ヲ受クルノ

法(市制町村制第二十二條)アリ撰舉人自ラ出頭シテ選舉ヲ行フノ例ヲ設クルハ毫モ撰舉ノ利害ニ關セサル輩ノ勸告ニ依テ之ニ投票ヲ託セントスルカ如キ者ヲ排除シ撰舉ノ自由ヲ保護スル所以ナリ但市制町村制第二十四條第二項ニ掲クルモノハ已ムヲ得サルノ特例ナリトス選舉ヲ行フニ下級ヲ先キニシ上級ヲ後ニスルハ(市制町村制第十九條)下級ノ選舉人ヲシテ人ヲ擇フニ充分ノ區域ヲ得セシメシカ爲ナリ而シテ先ツ下級ノ選舉ヲ了ルノ後上級ノ選舉ニ着手セシム可シ是一人ニシテ數級ノ選ニ當ルコトヲ防キ且上級ノ老チシテ下級ノ選舉ニ當ラサル候補者ヲ選擇スルコトヲ得セシムルモノナリ撰舉ノ結果ヲ證スルカ爲メニ撰舉録ヲ製スルノ例(市制第二十六條、町村制第二十七條)アルハ撰舉ノ效力ヲ裁決スル證據ヲ備ヘンカ爲メナリ

當撰ノ認定ハ議員ノ撰舉ニハ比較多數ノ法ヲ取リ(市制第二十五條、町村制第二十六條)市町村吏員ノ撰舉ニハ過半数ノ法ヲ用フ(市制第四十四條、町村制第四十六條)元來總テ過半数ヲ以テスルヲ正則トスントモ事宜ヲ計リテ便法ヲ設ケタルナリ

撰舉ノ效力ニ關シ異議ヲ申立ツルノ權利ハ撰舉人及市長町村長ノ外公益上ヨリシテ其効力ヲ監査スルカ爲メニ郡長及府縣知事モ亦此權利ヲ有ス撰舉人及市長町村長ノ異議アルモノハ市町村會ノ裁決ニ任シ郡長府縣知事ノ異議アルモノハ參事會ノ裁決ニ任シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルモノトス是實ニ利害上ノ爭ニアラヌシテ權利ノ消長ニ關スレハナリ(市制第二十八條、第三十五條、町村制第二十九條、第三十七條)

一旦撰舉ヲ有効ト定メ或ハ其効力ニ異議ナクシテ經過シタル後ト雖モ當撰者被撰權ノ要件ヲ撰舉ノ當時ニ有セザリシコトヲ聲覺シ或ハ其當時有シタル要件ヲ失フコトアル可シ斯ル場合ニ於テハ固ヨリ市制第二十九條、町村制第三十條ノ結果ヲ生ス可シ其裁決ノ手續ハ市制第三十五條、町村制第三十七條ニ據ル

五 名譽職

市制町村制第十六條、第二十條、第七十五條ニ依リ名譽職ヲ置クハ本制大體ノ原則ニ出ツルナリ

第二款 職務權限及處務規程

市會町村會ハ市町村ノ代表者ナリ其權限ハ市町村ノ事務ニ止マリ其他ノ事務ハ從來ノ委任ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依テ殊ニ委任スル事項ニ限リテ參與スルモノトス若シ大政ニ論及スル等凡ソ此界限ヲ踰ユルモノハ則法律ニ悖戾スルモノナレハ法律上ノ權力ヲ以テ(市制第六十四條第二項第一、第二百十條、町村制第六十八條第二項第一、第二百二十四條)之ヲ制セサル可カラス其他市制第一百八條、第一百十九條、町村制第二百二十二條、第二百二十三條ハ皆市會町村會ノ怠慢ヲ防制スルノ權力ナリトス

市會町村會ハ代表機關ト爲スト雖モ(市制第三十條、町村制第三十二條)外部ニ對シテ市町村ヲ代表スルハ行政機關ノ任トス(市制第六十四條第二項第七、町村制第六十八條第二項第七)即市會町村會ハ專ラ行政機關ニ制シテ市町村ヲ代表スルモノナリ市制第三十一條以下及町村制第三十三條以下ニ列載シタル職務ハ皆此地位ニ依テ生スルモノ

第二類 市制町村制附理由

トス

一 市會町村會ハ條例規則、歲計豫算、決算報告、市町村稅賦課法及財産管理上ノ重要事件等ヲ議決ス市制第百十八條、第百十九條、町村制第百二十二條、第百二十三條ノ場合ヲ除クノ外行政機關ハ議會ノ議決ニ依テ方針ヲ取ラサルヲ得ス但其議決上司ノ許可ヲ得ヘキモノハ市制第百二十一條ヨリ第百二十三條ニ至リ及町村制第百二十五條ヨリ第百二十七條ニ至ルノ各條ニ依ル

二

市會町村會ノ執行ス可キ撰擧ハ載セテ市制第三十七條、第五十一條、第五十八條、第六十條、第六十一條及町村制第五十三條、第六十二條、第六十三條、第六十四條、第六十五條ニ在リ

三

市會町村會ハ市町村ノ行務ヲ監査スルノ權利ヲ有ス其監査ノ方法ハ書類及計算書ヲ檢閲シ町村長若クハ市參事會ニ對シテ事務報告ヲ要求スルノ類是ナリ此權利ニ對シテ町村長若クハ市參事會ハ之ニ應スルノ義務アリ若シ市會町村會ニ於テ意見アルトキハ之ヲ官廳ニ具狀スルコトヲ得可シ

四

市會町村會ニ於テ官廳ノ諮問ヲ受クルトキハ之ニ對シテ意見ヲ陳述スルハ其義務ナリ

トス

五

其他市會町村會ハ或場合ニ於テ公法上ノ爭論ニ付始審ノ裁決ヲ爲スノ權アリ（市制第三十五條、町村制第三十七條）

市會町村會ノ議員ハ其職務ヲ執行スルニ當テハ法令ヲ遵奉シ其範圍内ニ於テ不羈ノ精神ヲ以テ事ヲ評議ス可シ決シテ撰擧人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可キモノニアラス（市制第三十六條、町村制第三十八條）是固ヨリ法理ニ於テ明ナル所ナリト雖モ職員ノ職務ヲ以テ撰擧人ノ委任ニ出ツルモノ、如ク視做シ議員ハ撰擧人ノ示シタル條件ヲ恪遵ス可キモノト爲スノ誤ヲ來サ、ランカ爲メニ特ニ其明文ヲ掲クルナリ

處務規程ハ市制第三十七條ヨリ第四十七條ニ至リ町村制第三十九條ヨリ第四十九條ニ至ルノ各條ニ於テ之ヲ設ク此條規ハ概テ說明ヲ要セサル可シ只茲ニ一言ス可キハ町村會ハ通例町村長若クハ其代理者タル助役ヲ以テ議長トシ（町村制第三十九條）市會ハ別ニ互撰シテ議長ヲ置ク（市制第三十七條）此區別ヲ爲シテ所以ハ町村ニ在テハ町村長及助役ノ外事務ニ熟練スル者多カラスシテ殊ニ議ニ任ニ堪ル者ハ概テ少ク且一人一個ノ責任ヲ以テ行政ノ全体ニ任スル場合ニ於テハ成ル可ク議員ト密接ノ關係ヲ有セシムルコト必要ナレハナリ町村制第四十四條ノ場合ヲ除クノ外町村長及助役ニシテ議決權ヲ有スルハ其議員ヲ兼スル時ニ限ル可シ

市制町村制第三章 市町村行政

第二類 市制町村制附理由

代議ト行政トハ各別個ノ機關ヲ設ケサル可カラサルハ已ニ之ヲ記述シタルカ如ク而シテ町村ノ行政ハ之ヲ町村長一人ニ任シ補助員即助役一名若クハ數名ヲ置キ以テ之ヲ補助セシム市ニ於テハ之ヲ市參事會ニ任セリ市長ハ其會員ノ一人ニシテ其會ノ事務ヲ統理シ外部ニ對シテ參事會ヲ代表スルノ權ヲ有ス即町村ハ特任制ヲ取り市ハ集議制ニ依ルモノナリ抑地方ノ自治行政ニハ集議制ヲ以テスルニ若クモノアラズ然ルニ獨リ市ニ施シテ之ヲ町村ニ適用セサル所以ノモノハ集議制ハ特任制ニ比シ頗ル錯綜ニ涉ルノ弊アリ而シテ小町村ノ行政ハカメテ簡易ノ編制ニ依ルヲ要スルヲ以テナリ且集議制ヲ行ハント欲スレハ名譽職ヲ以テ行政ニ參與ス可キ適任者ヲ多ク求メサルヲ得ス而シテ此事タル今日ノ情況ニテハ都會ノ地ニ非サレハ望ム可カラサレハナリ大町村ニ於テモ亦此集議制ヲ施行ス可キ必要アリヤ否又之ヲ施行シ得可キヤ否ハ姑ク將來ノ變遷ヲ俟テ知ル可キナリ

本制市町村行政ノ條規ハカメテ活用ノ區域ヲ廣クシ以テ各地方ノ情況ヲ斟酌スルノ餘地アラシメシコトヲ務メナリ

町村長、助役、市參事會及市長ハ皆是市町村ノ機關ニシテ國ニ直隸スル機關ニアラズ是ヲ以テ此機關ニ屬スル吏員ハ總テ市町村自ラ之ヲ選任スルヲ當然トス是各國ノ通則ニシテ其効益亦實際ノ經驗ニ著ハル、所ナレハ本制モ亦之ニ倣ヘリ(市制第五十一條、第五十八條、第五十九條、第六十條、第六十一條、町村制第五十三條、第六十二條、第六十三條、第六十四條、第六十五條)然レトモ市町村ハ又國ノ一部分ニシテ市町村ノ行政ハ一般

ノ施政ニ關係シ及ホシ從テ國家ノ利害ニ關セサルコトナシ且市町村及其吏員ニ委任スルニ國政ニ屬スル事務ヲ以テスコトアリ市制第七十四條、町村制第六十九條ノ如キ是ナリ市長ノ選任ハ市會ヨリ候補者ヲ推薦シ裁可ヲ求ムルノ例アルカ如キモ亦此理由アルニ依ル(市制第五十條)但其撰任ノ例ヲ異ニスト雖モ市長ハ均ク市ノ機關コソ一ノ市吏員ナリ法律上ヨリ其地位ヲ論スルトキハ一面ハ市ニ屬シ一面ハ國ニ隸ス猶町村長ノ町村ト國トニ兩屬スルカコトニ此資格ハ選任ノ例ヲ異ニスルカ爲メニ變更スルコトナシ其他概要ノ市町村吏員即町村長、市町村助役、収入役ハ監督監長ノ認可ヲ受ケシメ其認可ヲ得サルトキハ其撰擧ハ無効ニ屬スルカ故ニ(市制第五十二條、第五十八條)町村制自第五十九條至第六十一條)國ノ治安ヲ保持スル上ニ就テハ十分ノ權力ヲ有スルヲ得可シ又之ヲ認可スルニ方テ徒ニ其活動ヲ牽制セサランコトヲ欲シ認可ヲ拒ムニ一定ノ理由ヲ示サズ其地ノ事情ト人物トヲ參酌シテ其認可ヲ決スルヲ得セシメントス其裁決ノ權ハ專ラ地方分權ノ原則ニ準シ之ヲ郡長又ハ府縣知事ニ委任セリ然レトモ其公平ヲ失スルノ弊ヲ防カンカ爲メ若クハ偏私ノ誹ヲ免レンカ爲メニ其認可ヲ拒マントスルハ郡參事會又ハ府縣參事會ノ同意ヲ得ルヲ必要ト爲セリ又已ニ官廳ノ認可ヲ受ケシムルノ法ヲ設クルトキハ其結局ノ處分法ナカル可カラス即其撰擧遂ニ適任ノ人ヲ得スシテ已ムヲ得サルトキハ官廳ヨリ其代理者ヲ特撰シ若クハ吏員ヲ派遣シテ市町村ノ事務ヲ執ラシムルコトヲ得可シ以上ノ例規ニ依リ市町村吏員ノ撰擧ヲ以テ之ヲ市町村ニ委任スルモ國ノ治安統一ヲ保ツコトニ於テ憂フ可キノ弊ナキヲ信ス

町村ニ於テ吏員ヲ撰任スルノ權ハ之ヲ町村會若シハ總會ニ委任シ唯使丁ニ限リ之ヲ町
村長ニ委任シ(町村制第五十三條、第六十二條、第六十三條、第六十四條、第六十五條)市
ニ於テハ之ヲ市參事會ニ委任シ參事會員、委員及収入役ノ撰定ニ限リ之ヲ市會ニ委任
セリ(市制第五十一條、第五十八條、第五十九條、第六十條、第六十一條)
市町村ノ吏員ヲ撰任スルニ付テハ固ヨリ法律上ノ要件ヲ恪守セサル可カラス其要件ハ
市制第五十五條、第五十八條、第六十條、第六十一條、町村制第五十三條、第五十六條、第
六十四條、第六十五條ニ在リ其他ノ制限ハ刑法等他ノ法律ニ存ス
其他市町村吏員組織ノ大要ハ法律中ニ定ムルモノアリト雖モ各地方情況ヲ異ニスルヲ
以テ市町村ノ自主權ニ廣濶ナル餘地ヲ與フルコトヲ得可ク又之ヲ與フルヲ要スルナリ
本制ニ定ムル市町村吏員ハ左ノ如シ

一 町村長

町村長ハ町村ノ統轄者ナリ即町村ノ名ヲ以テ委任ノ強制權ヲ執行スル者トス其強制權
ノ幾部分ハ既ニ町村制中ニ制定セリト雖モ(例ヘハ町村制第一百一條ノ類)多クハ別法ヲ
以テ之ヲ設ケサル可カラス其他町村長ハ町村ノ事務ヲ管理スルノ任アリ故ニ一方ニ在
テハ町村ニ對シテ其執行ノ責任ヲ帶ヒ一方ニ在テハ法律ノ範圍内並官廳ヨリ其權限内
ニテ發シタル命令ノ範圍内ニ於テ百般ノ事項ニ涉リ町村ノ幸福ヲ増進シ安寧ヲ保護ス
ルヲ務メトス而シテ町村長ニ於テ町村會ノ議決ニ遵依ス可キ程度ハ町村制第三十三條
以下ニ詳ナリ同條記載ノ事件ニ就テハ町村長ハ議會ノ議決ニ依ラスシテ之ヲ施行スル

コト能ハサル而已ナラス猶其議事ヲ準備シ議決ヲ執行スルノ義務アリ故ニ町村會ニ於
テ法律ニ背戾スルコトナク其權限内ニテ議決シタル事項ハ假令町村ノ爲メニ不便アリ
ト認ムルモ町村長ハ之ヲ執行セサルヲ得ズ唯町村長其議決ニ對シテ大ニ意見ヲ異ニシ
公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村制第六十八條第二項第一ニ從テ議決ノ執行ヲ停
止スルノ權ヲ有ス即之ヲ停止シテ郡參事會ノ議決ヲ請フコトヲ得可ク其法律命令ニ背
キ又ハ權限ヲ越ユルモノモ亦之ニ同シ尤僅ニ利害ノ見込ヲ異ニシタルノミニテハ未ダ
以テ之ヲ停止スルノ理由ト爲スニ足ラス必公益ヲ損害スト認ムル時ニ限ル可キ蓋公益
ノ爲メニ町村長ヲシテ此停止權ヲ有セシムルハ或ハ之ヲ濫用スルノ恐ナキニ非スト雖
モ今日町村治ノ未ダ整備セサルヨリ考フルトキハ姑ク此例ヲ存スルノ已ムヲ得サルモ
ノアリ又監督官廳ヨリ町村長ニ停止ヲ命スルハ國ノ利害ニ關シ已ムヲ得サルモノニシ
テ監督官廳モ亦常ニ町村會議決ノ報告ヲ徵シテ其注意ヲ怠ラサル可シ其停止權ヲ濫用
スルノ弊ハ參事會ノ參與アルヲ以テ自ラ之ヲ防制スルコトヲ得可シ其行政裁判所へ出
訴スルノ權ヲ法律勅令ニ背戾シ及權限ヲ踰越スルノ場合ニ限リタルハ行政裁判所ハ專
ラ法律上ノ爭論ヲ判決ス可キモノニシテ公益ニ關スル事ハ一ニ利害ノ争ニ過キサレハ
ナリ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服ア
ル者ハ行政裁判所ニ出訴シ若クハ內務大臣ニ訴願スルヲ得可キコト町村制第一百九條
及第二百十條ノ規定ニ依テ明ナリ

其市町村長ノ町村事務ハ町村制第六十八條第二項第二ヨリ第九ニ列載シタル條件ハ依

ヲ明ナリ其各條件ニ關シテハ茲ニ說明ヲ要セサル可シ町村會ノ定額豫算ニ關スル職權ニ依テ町村長ノ權限ニ制限ヲ加フル所以ハ第四章ニ於テ之ヲ說明ス可シ又町村會ノ議決町村制第二百二十五條以下ニ從ヒ官ノ許可ヲ受ク可キモノハ之ヲ受クルノ前ニ施行スルヲ得サルコト固ヨリ言テ俟タス且時宜ニ依リテハ監督官廳ノ懲戒權ヲ以テ之ヲ強制スルヲ得可シ

町村制第六十九條ニ列記シタル事務ニ關シテハ町村長ハ全ク前述ノ場合ト異ナリタル地位ヲ有スルモノトス已ニ前章ニ記述シタル如ク國ハ町村ヲシテ國政ニ關スル事務ニ參與セシムルコトアル可シ之ヲ參與セシムルノ法ニアリ國政ニ屬スル事務ヲ以テ町村ニ委任シ其自治權ヲ以テ之ヲ處辨セシムルモノアリ又其事務ヲ町村ニ委任セスシテ直接ニ町村長其他町村ノ吏員ヲ指定シテ之ヲ委任スルモノアリ此區別ノ緊要ナル點ハ第一ノ例ニ據レハ斯ル事件ノ議決モ亦町村會ノ職權ニ歸シ町村長若クハ當該吏員ハ此事件ニ關シ町村會ニ對シテ責任ヲ帶ヒ且常ニ其監視ヲ受クルモノトシ第二ノ例ニ據レハ町村長ハ直接ニ官命ニ依テ事務ニ從事シ町村會ト相關セズ此事務ニ關スル指揮命令ハ直ニ所屬官廳ヨリ之ヲ受ケ特ニ其官廳ニ對シテ責任ヲ帶フルモノトス元來甲乙二例ヲ比較スルトキハ互ニ得失アリト雖モ今日ノ情況ニ照シ事務ノ舉行ヲ期スルコト付テハ乙法ヲ行フニ如カス故ニ本制ハ乙法ヲ採リテ之ヲ第六十九條ニ明言セリ但細則ニ沙ルモノハ別法ニ讓ラントス且此乙法ヲ行フニ至テハ其委任ノ職務ニ付キ生スル所ノ費用ハ何レノ負擔ナルカヲ明言セサルヲ得ス依テ同條末項ニ之ヲ揭ク其他町村固有ノ事務ニ

要スル費用ハ町村ノ自ラ負擔ス可キコト言テ俟タスシテ明ナリ

二 町村助役

助役ハ各町村ニ一名ヲ置ク通例トス然レトモ各地方ノ需要ニ應ジテ或ハ之ヲ增加ス可キコトアリ之ヲ町村條例ノ定ムル所ニ任セリ(町村制第五十二條)助役ノ町村長ニ屬スルハ共ニ集議體ヲ爲スニアラス町村役場ノ事務ハ皆町村長ノ專決ニ在リ其責任モ亦町村長一人ニ屬ス故ニ助役ハ其補助員ニシテ一ニ町村長ノ指揮ニ從ヒ之ヲ輔佐スルモノトス唯町村長故障アリテ之ヲ代理スル場合及委任ヲ受ケテ事務ヲ專任スル場合ニ限リ自ラ其責任ヲ負フモノトス但事務ヲ委任スルニハ町村會ノ同意ヲ得ルヲ要シ(町村制第七十條)其町村長ニ委任ノ事務ニ係ルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クルヲ要ス(町村制第六十九條)

三 市參事會

市ニ於テハ市長及助役ヲ置クコト町村ノ制ニ同クシテ別ニ名譽職參事會員若干名ヲ置キ合セテ集議體ヲ組織シ之ヲ市參事會トス是町村ノ制ト異ナル所ナリ助役及名譽職參事會員ノ定員ハ市制第四十九條ニ之ヲ定ムト雖モ市ノ情況ニ依リ増減ヲ要スルトキハ市條例ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得可シ(市制第四十九條)市長ハ一箇ノ決議權ヲ有シ員數相半スル時ハ專決スルコトヲ得此集議會ノ職務ハ全ク町村長ノ職務ト其例ヲ同クス(市制第六十四條)其詳細ノ說明ハ茲ニ要セサル可シ其處務規程ハ本制ニ於テ多ク設クルヲ要セス(市制自第六十五條至第六十八條)其細目ニ至テハ內務省令ヲ以テ之ヲ定

第二類 市制町村制附理由

ムルコトアル可シ

市長ハ市ノ固有ノ事務ヲ處理スルト委任ノ處理スルト各別段ノ地位ヲ占ムルモノトス
即チ市ノ固有ノ事務ニ就テハ參事會ノ議事ヲ統理シ之ヲ準備シ議決ヲ執行シ時ニ臨テ
ハ決議ノ執行ヲ停止シ(市制第六十五條)外部ニ對シテ市ヲ代表スルモノニシテ唯急施
ヲ要スル場合ニ限り議決ヲ俟タズシテ專行スルコトヲ得可シ(市制第六十九條)然レハ
市制第七十四條ニ列載スル委任ノ事務ニ就テハ參事會ノ參與ヲ受ケスシテ專行スルモ
ノトス此區別アルハ即前述ノ乙法ヲ取リ之ヲ市ニ委任セシメテ特ニ市長ニ委任シタル
ニ依ル

市助役及其他ノ參事會員ハ會中ニ在テハ市長ト同一ノ議權ヲ有スト雖モ議事外ニ在テ
ハ町村助役ノ町村長ニ於ケルト同ク市長ニ對シテ補助員ノ地位ニ在ルモノトス(市制
第六十九條第七十四條第二項)殊ニ都府ノ地ニ於テハ分業ノ必要ナル可キヲ以テ事務
ヲ分チ參事會員ニ專任セシムルコト最緊要ナリトス此需要ニ應セシカ爲メ本制ハ之ヲ
市條例ノ適宜定ムル所ニ讓リ(市制第六十九條第三項)以テ各地方ノ便ニ從ハントス

四 委員

委員ヲ設クルハ市町村人民ヲシテ自治ノ制ニ習熟セシメンカ爲メニ最效益アリ委員
ルトキハ多數ノ公民ヲシテ市町村ノ公益ノ爲メニ力ヲ竭スコトヲ得セシメ自治ノ效用
ヲ擧クルコトヲ得可シ何トナレハ市町村公民ハ特リ會議又ハ參事會ニ加ハルノミナラ
ス委員ノ列ニ入りテ市町村ノ行政ニ參與シ之ニ依テ自ラ實務ノ經驗ヲ積ミ能ク施政ノ

難易ヲ了知スルコト得ヘシ又地方ノ事情ヲ表白スルノ機會ヲ得テ大ニ專務吏員ノ短處
ヲ補フコトヲ得可シ蓋シ委員ハ自治ノ制ニ於テ緊要ナル地位ヲ占ムル者ニシテ本制施
行ノ際委員ノ設ケヲ促シテ市町村公民ヲシテ之ニ參與セシムルコトヲ務ム可シ委員ノ
廢置ハ固ヨリ市會町村會ノ決議ニ在リ其組織及職務ハ市町村條例ノ定ムル所ニ在リト
雖モ町村長及市參事會ハ正系ノ行政機關ニシテ委員ハ其一部分ニ參與スルニ過キサル
ハ委員ハ町村長若クハ市參事會ニ從屬シ概テ市長若クハ町村長ヲ以テ委員長ト爲シ參
事會員ヲ以テ多ク之ニ加ヘ市會町村會議長モ亦成ル可ク此委員ニ列セシムルコトヲ要
ス市町村會ノ議員ニシテ行政ノ事務ニ加ハルトキハ能ク施政ノ緩急利害ヲ辨識シ行政
吏員ト互ニ協同シテ事務ヲ擔任スルノ慣習ヲ生シ自ラ代議機關ト行政機關トノ軋轢ヲ
防制スルコトヲ得可シ

五 區長

區域廣濶又ハ人口稠密ノ地ハ施政ノ便ヲ計ラシカ爲メ之ヲ數區ニ分ツノ必要アル可シ
故ニ本制ハ市町村ニ區ヲ劃設スルコトヲ許シ之ニ區長及代理者ナル行政ノ機關ヲ設置
セリ此機關ハ其市町村ノ行政廳ニ隸屬スルモノニシテ其指揮命令ヲ奉シテ事務ヲ區内
ニ執行スルモノトス其委任事務ノ範圍ハ土地ノ情況ト市町村行政廳ノ酌量ニ在ルモノ
ニシテ豫メ之ヲ定メスト雖モ區長ハ名譽職ニシテ別ニ區ノ附屬員ナル者アルニアラサ
レハ(三府ヲ除ク)ノ外實際此事情ヲ斟酌セサル可カラズ要スルニ區ハ市町村内別ニ特
立シタル一ノ自治體タルニ非ス區長モ亦其固有ノ職權アルニ非スシテ單ニ町村長市參

第二類 市制町村制附理由

事會ノ事務ヲ補助執行スルノ便ニ供フルニ過キス故ニ區長ハ市町村ノ機關ニシテ區ノ機關ニ非ス區ハ法人ノ權利ヲ有セズ、財産ヲ所有セズ、歲計豫算ヲ設ケス又議會若クハ其他ノ機關ヲ存スルコトナシ蓋區ヲ設クルトキハ施政ノ周到ナルヲ得可ク、一町村内ノ各部ニ於テ利害ノ軋轢スルヲ調和シ、市町村費賦課ノ不平衡ヲ矯メ又能ク行政ノ勞費ヲ節畧スルヲ得可シ要スルニ區長ヲ設クルニ更ニ自治ノ眞元素ヲ市町村制中ニ加フルモノニシテ舊制ノ伍長組長等ノ例ヲ襲用セルナリ但從前ノ區内ニ存スル戶長ノ類ト混ス可カラス又區ニシテ從來固有ノ財産アルノ時例ハ第五章ノ說明ニ詳述ス可シ

六 其他ノ市町村吏員

以上市町村吏員ノ外収入役アリ(市制第五十八條町村制第六十二條)其職掌ハ市町村有財産ト連帶シテ説明ス可シ又書記其他技術上ニ要スル吏員アリ又使丁ナル者アリ機械的ニ使用スル者トス此等ノ吏員ヲ置キ相當ノ給料ヲ與フルハ市町村ノ義務トス(市制第五十六條町村制第六十三條)

町村ニ於テハ書記其他ノ吏員ヲ置キ俸給ヲ支出スルノ義務アリト雖モ本制ハ小町村ノ爲メ一ノ便法ヲ設ケ町村長ニ一定ノ書記料ヲ給シテ其便宜ニ從ヒ書記ノ事務ヲ保擔スルヲ許サントス此便法ヲ設ケ及其書記料ノ額ヲ定ムルハ町村會ノ職權ニ在ル可キモノトス(町村制第六十三條第一項)若シ町村長ニ於テ其金額ニ不足アリト爲ストキハ町村制第七十八條ニ依リ之ヲ郡參事會ニ申立ツルコトヲ得可シ其他ノ細目ハ今之ヲ制定セズ蓋書記料ヲ給與スルトキハ町村長ニ於テハ自ラ其事務費ヲ節約スルヲ得可シ監督官

廳モ亦能ク是ニ注意シ公務上支障ナキ限リハ町村ニ說示シテ繁雜ヲ省キ冗費ヲ減セシコトヲ務メサル可カラス要スルニ本制ハ分權ノ主義ニ依リ名譽職ヲ設ケ從テ從來ノ町村費ヲ節減セシコトヲ期スト雖モ若シ市町村ニ於テ度外ノ節約ヲ行ヒ依テ公益ヲ害スルニ至ラントスルトキハ監督官廳ニ於テハ則チ之ニ干涉スルノ道アリ

市ハ勿論其他大ナル町村ニ於テハ文化ノ進ムニ從ヒ高等ノ技術員(法律顧問、土木工師、建築技師、衛生技師等ノ類)ヲ使用ス可キ必要ヲ生スルニ至ル可シ之ヲ使用スルニハ或ハ通常雇入ノ契約ヲ以テシ或ハ市町村吏員ト爲スコトアル可シ又時宜ニ依リ之ヲ有給ノ助役トシテ任用スルノ便アリ本制ハ此件ニ關シテハ全ク市町村ノ自由ニ任セントス尤警察學事等ノ爲メニ特別ノ人員ヲ置クニ付テハ別段ノ法規ヲ要ス可シト雖モ皆是別法ヲ以テ定ム可キモノナリ

市町村ノ公務ニ任スル者ハ名譽職ト專務職トノ二種ニ分ツト雖モ本制ニ於テ主トシテ名譽職ヲ擴張シタル理由ハ上ニ之ヲ論述シタルカ如シ又本制ニ於テ名譽職ト爲ス可キコトヲ規定シタル場合ニ於テハ市町村ハ必之ニ遵依ス可シ決シテ有給職ト爲スヲ得ス然レトモ小町村ニ於テ名譽職ニ屬スルモノト雖モ大市町村ニ在テハ專務吏員ヲ置クヲ要スルコトアリ專務職トハ特別ノ技術若クハ學問上ノ養成ヲ要スル職務並專務繁多ニシテ本業ノ餘暇ヲ以テ無給ニテ負擔セシムルコト能ハサル職務ナリ此ノ如キ職務ハ有給吏員ト爲スヲ常例ト爲セリ此條理ノ範圍内ニ於テ市町村ハ自己ノ便宜ニ依リ有給吏員若クハ無給吏員ヲ置ク可キモノトス

第二類 市制町村制附理由

今本制ニ於テハ市長市助役市町村收入制及市町村屬員使丁ハ皆專務吏員ト爲ス可キ者トス町村長町村助役ハ名譽職ト爲スチ原則トスト雖モ町村ノ情況ニ依テ之ヲ有給ノ專務職ト爲スチ得セシム(町村制第五十五條第五十六條)市參事會員(市長助役ヲ除ク)委員區長ハ名譽職トス但三府ノ區長ハ有給吏員ト爲スコトアル可シ

專務吏員及名譽職吏員ハ共ニ市町村吏員ナリ本制ニ於テ其區別ヲ爲カハルモノハ總テ此兩種ニ適用スルモノトス又市町村吏員タル者ハ其何レノ種類ニ屬スルニ拘ラズ法律ニ準據シテ所屬ノ官廳及市町村廳ニ對シテ從順ナル可ク均シク懲戒法ニ服從ス可シ其懲戒ヲ行フハ町村長市參事會(町村制第六十八條第二項第五、市制第六十四條第二項第五)及監督官廳(郡長、府縣知事)ノ任トス(町村制第二百二十八條市制第二百二十四條)懲戒ノ罰トシテ本制ハ左ノ三種ヲ設ク

- 一 譴責
- 二 過怠金
- 三 解職

譴責又ハ過怠金ニ處スルハ當該吏員ノ專決ニ屬シ其處分ニ對スル訴願モ均ク當該吏員ノ裁決ニ任シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得セシム是專ラ懲戒權ノ執行ヲ嚴肅ナラシムル所以ナリ獨リ解職ノ處分ニ對シテハ大ニ保護ヲ加ヘサル可カラズ(但隨時解職シ得可キ吏員ハ懲戒裁判ノ法ニ依ラス解職スルヲ得セシム)故ニ本制ハ解職ノ理由ヲ指定セルノミナラス(但行狀ヲ紊亂シ廉耻ヲ失フトハ公務上ニ止マ

ラス私行ニ關スルコトモ含蓄スルモノナリ)郡參事會府縣參事會ナル集議體ノ裁決ニ任セリ(市制第二百二十四條町村制第二百二十八條)

專務吏員及名譽職吏員トモ職務上大率チ同一ノ權利義務ヲ有スト雖モ深ク其性質ニ就テ考フルトキハ互ニ相異ナル所アリ專務職ヲ辭スルハ吏員ノ隨意ニ在リト雖モ名譽職ハ公民ノ義務トシテ之レニ應セサルヲ得ス其已ニ擔當シタル職務ヲ繼續スルノ義務有ト否トニ付テモ亦此差別アリ(市制第八條、第五十五條第三項、町村制第八條、第五十七條)又市制第五十六條、第五十八條及町村制第五十八條、第六十二條ノ制限ノ如キハ專務吏員ニ非サレハ負擔セシムルコトヲ得ス市制第五十九條、町村制第六十三條ニ記載シタル吏員ハ其任用ノ時此等ノ關係ヲ約定スルヲ可トス有給職ニ任用スルニ其市町村ノ公民タル者ニ限ラサルハ徒ニ撰擇ノ區域ヲ減縮セサランカ爲メナリト雖モ高等ノ有給吏員ニハ其職ニ就クト同時ニ於テ其市町村ノ公民權ニ付與スルコト當然ナリ(市制第五十三條、第五十八條、町村制第五十六條第二項第六十二條)專務吏員ハ一身ノ全力ヲ擧ケテ市町村ノ爲メニ盡スコキヲ以テ相當ノ給料ヲ受クルハ元ヨリ至當ナリト雖モ名譽ノ爲メニ就職スル公民ニハ給料ヲ給セス(市制町村制第七十五條)尤市町村ノ公務ノ爲メニ要スル實費ハ之ヲ辨償セサルヲ得ス唯其名譽職ノ事務頗ル繁忙ニシテ本業ヲ妨ケラル、トキハ多少ノ報酬ヲ與フルハ當然ナリ其額ハ固ヨリ勤勞ニ相當セサル可カラス此規則ハ町村長(町村制第五十五條第二項)ハ勿論村助役及名譽職市參事會員ニシテ市町村事務ヲ分任スル者(市制第六十九條第二項、町村制第五十五條第二項)ノ爲メニ

之ヲ設シ其報酬額ハ市町村會之ヲ議定シ(市制町村制第七十五條)其額ニ關スル爭論ハ市制町村制第七十八條ニ依テ處分シ司法裁判ヲ求ムルヲ許サス

有給市町村吏員ノ財産上ノ要求ハ上ニ記載シタル理由アルニ依リ其職重ケレハ從テ其給料ニ關シテ官廳ノ干涉ヲ要スルコト多シトス尤給料額ハ元來市町村ノ自ラ定ムル所ニ任シ條例ヲ設ケテ之ヲ一定シ又ハ選任ノ前ニ方テ議會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム可シ然レトモ監督官廳ハ斯ク市町村ノ定ムル給料ヲ以テ多キニ過キ又ハ不足アリト爲ストキハ認可ヲ拒ミ所屬ノ參事會ヲシテ之ヲ斷定セシムルノ權利アリ

有給市町村吏員ニハ退職料ヲ給スルヲ當然トス然レモ市町村吏員ニ對シテ官吏ノ恩給令ヲ適用スルコトヲ得ス是其地位ノ異ナルノミナラス市町村吏員ハ定期ヲ以テ撰任セラルレ任期限ノ後ハ再選若クハ再任ヲ受クルコト非レハ其職ニ在ラサルヲ以テナリ若シ其吏員任期限後再選若クハ再任セラレサルトキハ遽ニ糊口ノ道ヲ失フニ至ル可シ故ニ此結果ヲ防クニ非サレハ一方ニ在テハ有力ノ人進テ市町村ノ職ニ就クコトヲ屑シトセサル可ク一方ニ在テハ再選ニ依テ生計ヲ求ムルカ如キ輩ヲシテ常ニ市町村會ノ鼻息ヲ窺ヒ以テ公益ヲ忘レシムルコトヲナシトセス加フルニ市町村ノ職務ハ具等増給ノ途少キヲ以テ其退職料ヲ給スルハ官吏ヨリ厚クスルヲ至當トス然レモ目下一定ノ法律ヲ以テ之ヲ定メシヨリハ寧ロ市町村ノ條例ヲ以テ之ヲ設定セシムルノ便ナルコト若カサルナリ有給ト無給トヲ論ゼス凡市町村吏員ノ職務上ノ收入ハ市町村ノ負擔タルコト疑テ容レヌト雖モ之カ明文ヲ揭クルモ亦無用ニアラサル可シ(市制町村制第八十條)

市町村ト吏員トノ間ニ起ル給料及退職料ノ爭論ハ司法裁判ニ付セス市制町村制第七十八條ニ依テ處分ス可キナリ其保護ハ此方法ヲ以テ足レリトス

結局ニ至テ猶注意ス可キコトアリ抑退職料ノ規則ヲ設ケルトキハ市町村ノ負擔ヲ加重スルノ恐アリト雖モ他國ノ實験ニ據レハ決シテ多額ノ負擔ヲ爲スモノニアラス市町村ニ於テハ多クハ適任ノ吏員ヲ再選シ吏員モ亦再撰テ受ケサルトキハ必他ノ地位ヲ求メサル者アラサル可シ故ニ實際退職料ヲ支出スルノ場合ハ甚少カル可キナリ又一方ヨリ論スルトキハ市町村ノ盛衰ハ有爲ノ人材ヲ得ルノ多少ニ關シ有爲ノ人材ヲ得ルト得サルトハ其生計ヲ安全ナラシムルト否トニ關スルモノニシテ市町村自治ノ權ヲ得ルニ於テハ退職料負擔ノ如キハ之ヲ重シト謂フ可カラズ況ヤ有給ノ町村長助役ヲ設ケサル町村ニ於テハ此負擔ヲ受クルノ場合少キニ於テチヤ又況ヤ名譽職ヲ設ケルニ於テハ行政ノ費用大ニ減少ス可キニ於テチヤ蓋市町村ノ繁榮ハ斯ノ如キ法アリテ始メテ將來ニ期望ス可キナリ

市制町村制第四章 市町村有財産ノ管理

市町村ニ於テ自ラ其事業ヲ執行スルニ付テハ必之ニ要スル所ノ資金ナカル可カラス故ニ各市町村固有ノ經濟ヲ立テ以テ必要ノ費用ヲ支辨スルノ道ヲ設ク可シ即市町村ハ財產權ヲ有スルコト概テ一個人ト同一ナリ然レトモ細ニ觀察スルトキハ其一個人又ハ私立組合ノ類ト相異ナルモノハ市町村ノ事業及支出ノ大半ハ法律規則ニ依テ定マリ市町村民ニ對シ其義務トシテ負擔セシムルコトヲ得ルノ一點ニ在リ蓋市町村ノ經濟ハ之ヲ

汎論スルトキハノ一個人ト同一ノ權利ヲ有スルモ市町村ハ自ラ其經濟ヲ管理スルノ專權アリト限フ可シ而シテ之ニ二様ノ制限アリ第一市町村ノ資力ハ大ニ國家ノ消長ニ關係アルヲ以テ政府ハ須ク此點ニ注意セサル可カラズ第二政府ハ市町村ノ經濟ヲ以テ國ノ財政ニ抵觸セサラシメ之カ爲メニ國ノ財源ヲ涸竭セサランコトヲ務メサル可カラズ故ニ市町村ノ財政ヲ以テ立法ノ範圍ニ入レ立法權ヲ以テ市町村ノ財政ニ關スル法規ヲ設ケテ之ヲ恪遵セシム可キ而已ナラス其經濟上ノ處分苟モ國ノ利害ニ關涉スルモノハ皆政府ノ許可ヲ得セシメントス

以上ノ論點ニ關スル規定ハ市制第四章及第六章并町村制第四章及第七章ニ載ス抑市町村ノ經濟ニ對シ政府ノ干涉スル所ノ程度ハ自治制度ヲ論スル者ノ視ル所ニ依テ各異ナル所アル可シト雖モ要スルニ市町村ノ行政ニ對シ官廳ノ監視ヲ重シテ之ヲ拘束スルニ過クルトキハ其弊ヤ遂ニ市町村ノ便宜ヲ妨ケ其自ラ進テ幸福ヲ求ムルノ道ヲ阻碍スルヲ免レサラントス然レトモ一方ヨリ見ルトキハ自ラ從來ノ慣行アリテ遽ニ之ヲ變シ難キモノアリ故ニ漸チ以テ市町村ノ自主ヲ擴張スルチ是ナリトス此點ニ於テハ本制ハ最慎重ヲ加ヘ今日ノ情勢ニ照シテ適度ヲ得タリトスル所ヲ以テ制定セリ

市町村ノ法人タルハ已ニ法律ノ認ムル所ナレハ市町村ノ財產ヲ所有スルノ權利ヲ有ス可キコト固ヨリ疑ナク容レヌ而シテ市町村財產ニ二種ノ別アリ甲市町村ノ費用ヲ支辨スルカ爲メニ消費スルモノアリ例ヘハ土地家屋等ノ貸渡料營業ノ所得市町村稅及手数料等ノ如キ是ナリ又基本財産ト稱スルモノアリ基本財産ハ其入額ヲ使用スルニ止マリ其

原物ヲ消耗セサルモノトス蓋此區別ヲ立ツルハ市町村ノ資力ヲ維持スルカ爲メニ極メテ緊要ナルモノニシテ國家ハ特ニ市町村ノ基本財産ヲ保護シテ其濫費ヲ防カサル可カラズ且ツ經常歲入ノ外ニ臨時ノ收入例ヘハ寄附金數ノ如キハ成ル可ク經常歲費ニ充テシメサルヲ要ス唯寄附者ニ於テ寄附金支出ノ目的ヲ定メタルカ或ハ非常ノ水害若クハ凶荒等ノ爲メ經常ノ收入ヲ以テ其費途ニ充ツルニ足ラサルカ如キノ場合ハ固ヨリ別段ナリト雖モ是亦上司ノ許可ヲ受クルヲ要スト爲スハ其經濟上ノ處分ヲ重スル所以ナリ

(市制第八十一條、第百二十三條第二、町村制第八十一條、第百二十七條第二)(乙)凡市町村ノ財產ハ市町村一般ノ爲メニ使用スルコト固ヨリ言テ俟タズ故ニ特ニ是ヲ法律ニ掲載スルヲ要セスト雖モ若シ住民中其財產ニ對シテ特別ノ權利ヲ有スル者アルトキハ自ラ其證明ヲ立ツルノ義務アリ即民法上其證明ヲ認ムルニ於テハ特別ノ權利ヲ有スルモノトシ其證明ナキモノハ即一般ノ使用權アルモノトス(市町村制第八十二條)

市町村ノ所有ニ屬スル不動産ノ使用ヲ直接ニ住民ニ許スハ從來ノ實例少シトセズ故ニ其舊慣アルモノハ特ニ之ヲ存シ今ヨリ後ハ概シテ新ニ使用ヲ許スヲ禁セリ(市町村制第八十三條、第八十四條)又一方ニ於テハ使用權ニ相當スル納稅義務ヲ定メ(市町村制第八十五條)且條例ニ依リ使用者ヨリ金圓ヲ徵收スルコトヲ許セリ(市町村制第八十四條)然レトモ其使用ヲ許シタル物件ハ元來市町村ノ所有物ニシテ使用ノ權利ハ市町村住民タル資格ニ隣伴スルモノナレハ市町村ハ固ヨリ使用權ヲ制限シ若クハ取上クルノ權利ナカル可カラズ(市町村制第八十六條)但其議決ハ上司ノ許可ヲ受クルヲ

要スト爲スハ(市制第二百二十三條第四、町村制第二百二十七條第四)細民無産ノ徒ノ不利トナル可キモノヲ防カンカ爲メナリ之ヲ要スルニ以上ノ規定ハ市町村住民タル資格ニ附隨スル使用權ニノミ用フルモノニシテ民法上ノ使用權ニハ關係ナキモノトス蓋此使用權ハ民法ニ據テ論定ス可キモノニシテ其爭論モ亦司法裁判所ノ判決ニ屬ス可キモノトス而シテ前段ノ使用權ニ關スル爭論ハ市制町村制第二百五條ニ依テ處分ス可キナリ

市町村財産ノ管理ハ町村長及市參事會ノ擔任トス(町村制第六十八條、市制第六十四條)其管理上市町村會ノ議決ニ依ル可キハ町村制第三十三條、市制第三十一條及市制町村制第八十七條等ニ於テ又上司ノ許可ヲ受ク可キ條件ハ載セテ市制第二百二十三條、町村制第二十七條等ニ在リ

市町村ハ其住民ヲシテ市町村ノ爲メニ義務ヲ盡サシムルノ權利ナカル可カラズシテ此權利ナキトキハ共同ノ目的ヲ達スルコト能ハサルハ上既コ之ヲ論述セリ其義務ノ廣狹ハ市町村事業ノ範圍ニ從ハサル可カラズ其事業ハ全國ノ公益ノ爲メニスルモノアリ或ハ一市町村局部ノ公益ヨリ生スルモノアリ其全國ノ公益ニ出ツルモノハ軍事、警察、教育等ノ類ニシテ是皆別ニ規定ス可キモノトス其局部ノ公益ヨリ生スルモノ即共同事務ハ各地方ノ情況ニ從テ異同アレハ茲ニ枚舉スルニ暇アラスト雖モ農業經濟、交通事務、衛生事務等ノ如キハ其最重要ナルモノトス之ヲ要スルニ一市町村ノ公益上ニ於テ必要ナル事項ハ悉ク共同事務ニ屬ス可キナリ本制ニ於テ設ケタル委任ノ國政事務ト固有ノ事務即共同事務トノ區別ハ專ラ市町村長ノ地位ノ兩岐ニ分ル、所ニシテ且市町村ノ必

要事務ト隨意事務トノ區別ヲ立ツルノ根據トナルモノナリ即此區別ハ官權ノ及フ可キ限界ヲ立ツルニ在リテ必要事務ハ監督官廳ニ於テ強制豫算ノ權利(市制第一百八條、町村制第二百二十二條)アルモノトス而シテ必要事務トハ委任ノ國政事務ハ勿論共同事務中市町村ノ需要ニ於テ關ク可カラサルモノニ限リ必要事務ト謂フヲ得可シ市制町村制第八十八條ノ規定ハ實ニ此精神ニ出テタルモノニシテ市制第一百八條、町村制第二百二十二條ニ云フ所ノモノモ亦同シ此ノ如キ規定アルトキハ共同行政上ノ事件ニ至ルマテ市町村ノ意向ヲ顧ミシテ負擔ヲ受ケシムルコトヲ得從テ官ノ監督權ハ重キニ過クルノ恐アリト雖モ一方ヨリ考フルトキハ全ク檢束ヲ解キテ市町村ノ自由ニ任スルハ却テ將來ノ爲メ顧慮スル所アリ故ニ市町村ノ公益上已ムヲ得サルモノハ姑ク市町村會ノ意見ニ拘ラス監督官廳ノ命令ヲ以テ之ヲ決行スルノ權利ヲ存セサルヲ得ス但其處分ニ對シテハ上訴ヲ許シタルヲ以テ專制ノ弊ヲ免ル、ヲ得可シ其他必要ノ支出ハ本制市町村ノ組織ニ關スル條件中ニ含有セリ隨意事務ニ就テハ市町村ニ十分ノ自由ヲ與フト雖モ若シ過度ノ負擔ヲ爲スニ至テハ之ヲ制スルニハ市制第二百二十三條第六町村制第二百二十七條第六ノ規定ヲ適用スルヲ得可シ市町村ニ於テ其費途ヲ支辨スルカ爲メ左ノ歲入アリ

- 一 不動産、資金、營業(瓦斯局、水道等ノ類)ノ所得
- 二 市町村ノ金庫ニ收入スル過怠金、科料(市制第四十八條、第六十四條第二項第五、第九十一條、第二百二十四條、町村制第五十條、第六十八條第二項第五、第九十一條)

、第二百二十八條

三 手数料、使用料

四 市税、町村税

手数料トハ市町村吏員ノ職務上ニ於テ一箇人ノ爲メ特ニ手数料ヲ要スルカ爲メ市町村ニ
 收入スルモノヲ謂ヒ使用料トハ一箇人ニ於テ市町村ノ營造物等ヲ使用スルカ爲メ其料
 金ヲ市町村ニ收入スルモノヲ謂フ例ハ手数料トハ帳簿記入又ハ警察事務上ニ於テ特
 ニ調査ヲ爲ストキノ收入ヲ謂ヒ使用料トハ道路錢橋錢等ノ類ヲ謂フ
 手数料、使用料ノ額ハ法律勅令ニ定ムルモノ、外市町村會ノ議決ヲ以テ定ムヘキモノ
 ナリ(市制第三十一條第五、町村制第三十三條第五)尤市町村條例ヲ以テ一般ノ規定ヲ
 設ケ(市制町村制第九十一條)其他ノ慣行ニ依リ相當ノ手續ヲ以テ公告スヘキモノトス
 且若シ手数料使用料ヲ新設シ又ハ舊來ノ額ヲ増加シ又ハ其徵收ノ法ヲ變更スルトキハ
 内務大臣ノ許可ヲ受クルヲ要ス(市制第二百二十二條第二、町村制第二百二十六條第
 二)但徵收ノ法ヲ改ムルコトナリシテ唯其額ヲ減スルニ過キサルトキハ其許可ヲ受ク
 ルヲ要セス
 手数料ヲ納ムルノ義務アルハ行政上ノ手数料條スル者ニシテ使用料ヲ納ムルノ義務アル
 ハ營造物等ヲ使用スル者トス之ヲ免除スルハ市制町村制第九十七條第九十八條ノ場
 合ニ限ル可シ第九十六條ノ場合ハ町村ノ課税ヲ免除スルニ止リテ手数料使用料等ノ事
 ニ及ハサルナリ

町村税ニ關シテハ本制ハ成ルヘク現行法ヲ存スルノ精神ナリ町村税十分ニ改正セシ
 トスレハ先ツ國稅徵收法ヲ改正セサル可カラズ故ニ本制ニ於テハ現行ノ原則ニ依リ多
 少ノ修補ヲ加ヘタルニ過キス現今町村費ノ賦課目即地價割戸別割營業割等ノ如キ皆國
 稅府縣稅ニ附加シテ徵收スル者ニ外ナラズ又或ハ特別ノ町村稅アリ故ニ本制ニ定ムル
 所ノ課目ハ課目ノ現行ヲ存スルニ於テ妨ケナキモノナリ
 附加稅トハ定率ヲ以テ國稅府縣稅ニ附加スルモノニシテ納稅ノ負擔ニ偏輕偏重ノ患ナ
 ラシメンカ爲メニ其準率ヲ均一ニスルヲ例即トセリ(市制町村制第九十條)其賦課法ヲ
 定ムルハ市町村會ノ職權ニ屬ス故ニ市町村會ハ臨時ノ議決又ハ豫算議定ノ際ニ之ヲ議
 決スヘキナリ若シ此例則ノ外ニ於テ課法ヲ設ケント欲スルトキハ郡參事會(町村制第
 百二十七條第七)若シハ府縣參事會(市制第二百二十三條第七)ノ許可ヲ受クルヲ要ス
 稅率ノ定限ハ豫メ之ヲ設ケスト雖モ獨リ地租及直接國稅ニ於テハ市制第二百二十二條第
 三、町村制第二百二十六條第三ニ定メタル制限ヲ越エントスルトキハ内務大臣ノ
 許可ヲ受クルヲ要ス是レ國庫ノ財源ニ關係スル所アルヲ以テナリ就中地租ノ如キハ從
 前此定限ヲ超過スルヲ得ルハ非常特別ノ場合ニ限レリ而シテ特別許可ノ道ヲ存セサル
 カ如キハ地方ニ依テハ却テ課稅ノ平均ヲ得サルノ弊アリ是レ本制現行ノ例ヲ移シテ多
 少ノ便法ヲ開キタル所以ナリ間接稅ハ概シテ市町村ノ附加稅ヲ課スルニ便ナラス故ニ
 市制第二百二十二條第四及ヒ町村制第二百二十六條第四ニ從ヒ渾テ官ノ許可ヲ要ストセリ
 各種國稅府縣稅ノ内何レヲ直稅トシ又何レヲ課稅トス可キカハ往々疑點ヲ生スルコト

第二類 市制町村制附理由

アリ此區別ニ就テハ今内務大藏兩省ノ告示ヲ以テ之ヲ定ムルコト、セリ(市制第三百三十一條、町村制第三百三十六條)

附加税ノ特別税ニ優ル所以ノモノハ附加税ニ在テハ納税者既ニ國税又ハ府縣稅ノ賦課ヲ受クルヲ以テ別ニ其収益等ノ調査ヲ爲スヲ要セサルニ在リ唯其町村稅ハ免除セサルモ國稅府縣稅ノ賦課ヲ受ケサル者(一個人又ハ法人)ニ限り更ニ其調査ヲ要ス可ク付此場合ニ於テハ町村長若シハ市參事會ニ於テ其國稅府縣稅徵收ノ規則ニ據リ其調査ヲ爲サ、ル可カラズ特別稅ハ市制町村制第九十一條ニ從ヒ條例ヲ以テ之ヲ規定セサル可カラズ此點ニ於テハ既ニ手數料ニ就テ説明シタル所ニ同シ但特別稅ハ市町村必要ノ費用ヲ支辨スルニ附加稅ヲ以テシ猶足ラサルトキニ限り始メテ之ヲ徵收スルモノトス(市制町村制第九十條)

市町村稅ヲ納ムルノ義務ヲ負擔スル者ニ就テハ一個人ト法人トヲ區別セサル可カラズ即チ左ノ如シ

甲 一個人

凡ソ納稅義務ハ市町村ノ住民籍ニ原クモノトス(市制町村制第六條第二項)故ニ此義務ハ市町村内ニ住居ヲ定ムルト同時ニ起ルモノナリ故ニ一旦住居ヲ定メタル者ハ時々他ノ市町村ニ滞在スルコトアリト雖モ納稅義務ヲ免ルヘキニ非ス若シ之ニ反シテ住居ヲ定メスシテ一時滞在スルニ止マルモノハ未タ此義務ヲ帶ヒス唯三ヶ月以上滞在スルトキハ住居ヲ占ムルト同ク納稅ノ義務ヲ生スルモノトス(市制町村制第九十二條)又假令

ヒ市町村内ニ住居若クハ滞在セスト雖モ其市町村内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ店舖ヲ定メテ營業ヲ爲ス者ハ均ク其市町村ノ利益ヲ蒙ルニ依リ共ニ納稅ノ義務アリトス但其義務ハ一般ノ負擔ニ涉ラズシテ唯其土地家屋營業若クハ是ヨリ生スル所得ニ賦課ス可キ市町村稅ニ限りテ負擔ノ義務アルモノトス(市制町村制第九十三條)住居ト滞在トハ常ニ必ス同一ニ歸セサルヲ以テ或ハ重複ノ課稅ヲ受クルノ患ナシトセス此弊害ヲ防クカ爲ニハ則チ市制町村制第九十四條、第九十五條ノ規定アリ他國ニ於テハ往々住居ヲ定ムル市町村ニ特權ヲ與フルノ例アリト雖モ本制ハ特ニ此例ニ倣ハス要スルニ此ノ如キハ皆施行規則中ニ適宜ノ便法ヲ定ム可キコト、ス(市町村稅ノ免除ヲ受クルハ市制町村制第九十六條及第九十八條ニ掲載シタル人員ニ限リ)

乙 法人

法人ハ市制町村制第九十三條ニ從ヒ唯其所有ノ土地家屋若クハ之ニ依テ生スル所得ニ賦課スル市町村稅ニ限り納稅ス可キモノトス抑法人トハ政府、府縣(郡モ亦郡制制定ノ上ハ法人ト爲スノ見込ナリ)市町村、公共組合(例ヘハ水利土功ノ組合、社寺宗教ノ組合ノ類)慈善協會、其他民法及商法ニ從ヒ法人タル權利ヲ有ス可キ私法上ノ結社ヲ謂フ其私法上ノ結社ハ市制町村制第九十七條ノ免稅ノ部ニ入レス又官設ノ鐵道電信ノ如キハ官ノ營業ニ屬スト雖モ是等ハ特ニ國家ノ公益ノ爲ニ免稅トス(市制町村制第九十三條)私設鐵道ニ至テハ各市町村ニ於テ其收益ヲ調査スル頗ル難キヲ以テ施行規則中ニ於テ詳ニ之ヲ規定スルヲ要ス

凡ソ納稅義務者ニ課稅スルハ總テ平等ナル可キナリ唯市制町村制第八十五條ハ此例外トシテ使用ノ土地物件ニ係ル費用ヲ其使用者ニ課セリ又一市町村ノ數部若クハ數區ニ分レタルトキ其一部一區ノ專用ニ屬スル營造物ノ費用ハ其一部一區ノ負擔トセリ(市制町村制第九十九條第二項)尤其一部一區ニ特別ノ財產アルトキハ先ツ其收入ヲ以テ其費用ニ充テ猶足ラサル時特別ニ其一部一區ノ人民ニ課稅シ又ハ一般全町村稅中ニ區別ヲ立テ其準率ヲ高クシテ之ニ反シテ第九十九條第一項ノ場合ニ於テ數個人ノ專用ニ屬スル營造物ノ費用ハ必其數個人ノ負擔トセリ他人ニ賦課スルコトヲ得サルモノトス但市町村稅ハ總テノ納稅義務者ト平等ニ賦課スルヲ以テ例則ト爲スカ故ニ若シ此例則ニ違ハントスルトキハ官ノ許可ヲ受クルヲ要ス(市制第二百二十三條第八、町村制第二百二十七條第八)

各納稅者ノ稅額ヲ查定スルノ法律規則ニ依リ市制町村制第百條ノ規定ニ從ヒ町村長(町村制第六十八條第八)及市參事會(市制第六十四條第八)ノ擔任トス大ナル町村及市ニ於テハ之カ爲メ專務ノ委員ヲ設クルヲ便宜トス

社會經濟法ノ稍進歩シタル今日ニ在テハ舊時ノ夫役現品ニ代ヘテ金納法ヲ行フニ至レリ然レトモ町村費ノ課出ニ於テハ夫役現品ノ法ヲ存スルハ特ニ必要ナルノミナラス往々便利ナルモノアリ且古來ノ慣行今日ニ傳フル者其例少カラス夫役賦課ハ專ラ道階、河溝、堤防ノ修築、防火水又ハ學校、病院ノ修繕等ノ爲メニ行フモノナリ殊ニ村落ニ在テハ農隙ノ時ヲ以テ夫役ヲ課スルトキハ租稅ノ負擔ヲ輕減セシカ爲メニ大ニ便宜トス

ル所アリ農民ノ如キハ季節ニ依リ夫役ニ應スルヲ得ルノ間隙アルコト市民ト其趣チ異コス且地方道路ノ開通ヲ要スルモノ將來必少カラサル可キヲ以テ夫役賦課ノ法ヲ存スルトキハ幾許カ市町村ノ負擔ヲ輕減スルノ効アルコト必セリ依テ市制町村制第百一條ニ於テ市町村ニ許スル夫役賦課ノ法ヲ以テセリ但此点ニ於テハ今日ノ經濟ニ適應セシメシカ爲メ本制ハ本人自ラ其役ニ從事スルト適當ノ代理者ヲ出シ又ハ金額ヲ納ムルコトヲ以テ義務者ノ選擇ニ任セリ其金額ニ算出スルハ其地ノ日雇賃ニ準シ日數ヲ以テ等差ヲ立ツルヲ通例トス唯火災水害等ノ如キ急迫ノ場合ニ於テハ金納ヲ禁スルコトヲ得可シト雖モ代人ヲ出スハ本人ノ隨意ニアルモノトス

夫役ハ總テ市町村稅ヲ納ム可キ者ニ賦課シ其多寡ハ直接市町村稅ノ納額ニ準スルモノトス若シ此準率ニ依ラサルトキハ郡參事會(町村制第二百二十七條第九)及府縣參事會(市制第二百二十二條第九)ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス此場合ノ外ハ總テ市町村限リ許可ヲ受ケスシテ之ヲ賦課スルコトヲ得可シ

一般ニ夫役ヲ賦課スルト賦課セサルト及夫役ノ種類并範圍ヲ定ムルハ市町村會ノ職權(市制第三十一條第五、町村制第三十三條第五)ニ屬シ之ヲ各個人ニ割賦スルコトハ町村長(町村制第六十八條第八)及市參事會(市制第六十四條第八)ノ擔任トス
以上市町村ノ收入ハ皆公法上ノ收入ニ屬スルモノニシテ其徵收ハ市制町村制第百二條ヨリ第百五條ニ準據ス可モノトス而シテ其賦課徵收上ノ不服ハ司法裁判所ニ提出スルヲ許サス郡參事會府縣參事會ノ裁決ヲ經テ結局ノ裁決ハ行政裁判所ニ屬ス此公法上ノ

収入ハ私法上ノ収入ト相混同ス可カラス例ヘハ市町村有ノ地所ヲ一個人ニ貸渡シタルトキ其借地料ハ民法及訴訟法ニ準據シテ徴収ス可キナリ

將來市町村ノ事業漸ク發達スルニ從ヒ經常ノ歳入ヲ以テ支辨スルコト能ハサル所ノ大ニトスルコトモ亦極メテ難カル可シ故ニ經常歳入ヲ以テ支ヘ能ハサル所ノ需要ニ應ジテ外ナカル可シ即公債募集ノ方法はナリ抑公債募集ノ利益ハ收入時期ノ未タ到來セサルニ先テ豫メ歳入ヲ使用シテ以テ町村住民ノ爲メニ大ニ事業ヲ起シ其經濟及納稅力ヲ奨励シ且以テ納稅者ノ負擔ヲ輕減スルニ在ルナリ公債ノ事タル利益ノ在ル所斯ノ如シト雖モ之ニ伴フ所ノ弊害モ亦自ラ免レサルモノアリ若シ市町村ニ於テ此方法ニ依リ豫メ將來ノ歳入ヲ使用スルトキハ則其元利償却ニ充ツル所ノ金額ハ將來ノ歳入中ヨリ減却スルモノナレハ負債額ノ多寡ト償還期限ノ長短トニ從ヒ市町村ノ財政ニ影響スル所少カラス又市町村會ニ於テハ資本ノ得易キカ爲メニ輕忽ニ其市町村ノ實力ニ相當セサル其業ヲ起スノ傾向ヲ爲シ又ハ今日ニ負擔ス可キノ義務ヲ漫リニ後年ニ傳ヘントスルノ弊害ヲキコト能ハス是最モ行政官ノ注意ス可キ所ニシテ市制第百六條、第百二十二條第一及町村制第百六條、第百二十六條第一ノ規定アルハ以上ノ論旨ニ起因スルモノトス

本制ハ公債募集ノ事項ヲ逐一列舉セス唯已ムテ得サルノ必要若クハ永久ノ利益ト云フ

ヲ以テ之レカ制限ヲ立テタリ若シ此制限ニ適合スルノ證明ナキモノハ許可ヲ與フ可カラズ若シ又償還期限三年以内ニシテ許可ヲ要セサルモノハ町村制第六十八條第一市制第六十一條第一ニ依テ相當ノ處分ヲ爲ス可キナリ其必要已ムテ得サル處支出トハ舊債ヲ償還シ又ハ傳染病流行若クハ水害等不慮ノ災厄ニ遭遇シテ一時ノ窮乏救ハントスルトキ又ハ學校ヲ開設シ道路ヲ修築スル等法律上ノ義務ヲ盡サントスルカ如キ場合ヲ謂ヒ永久ノ利益トナル可キ支出トハ市町村ノ力ニ堪フ可キ事業ヲ起シ以テ市町村有財産ノ生産力若クハ住民ノ經濟力ヲ増進シ假令一時ノ負擔ヲ増スモ永遠ノ利益ヲ生ス可キ場合ヲ謂フナリ尤何レノ場合ニ於テモ一時ノ歳入ヲ以テ支辨シ能ハサル時ニ限ルモノトス但年々要スル所ノ常費ハ必經常ノ歳入ヲ以テ支辨ス可キモノニシテ公債ヲ募ルヲ得ス公債募集ニ當テハ深ク注意ヲ加ヘ成ルヘク住民ノ負擔ヲ輕クシ利息ハ時ノ相場ニ準シ隨時償還ノ約ヲ立テ、市町村ニ便利ヲ與ヘサル可カラス到底償還方法ノ確定スルニ非サレハ募集ヲ許サス又公債ハ成ル可シ市町村ノ財政ニ適宜ニ償還期限ハ長キニ過ク可カラズ故ニ本制ニ於テハ償還ハ三年以内ニ始マルモノトシ年々ノ償還歩合ヲ定メ且募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スルヲ以テ例規ト爲セリ若シ此例規ニ違ハントスルトキハ必官ノ許可ヲ要ス(市制第百二十二條第一、町村制第百二十六條第一)元來許可ヲ要セサル公債ノ種類ト雖モ右ノ例規ニ違フトキハ亦官ノ許可ヲ請フ可シ

公債ヲ起スト起サ、ルト及其方法ノ如何ハ市町村會ノ議決ニ屬ス(市制第三十一條第八、町村制第三十三條第八)唯定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メニシテ一會計年度内ニ償

還ス可キ公債ハ市ニ於テハ市會ノ議決ヲ要セス市參事會ノ意見ヲ募集スルヲ得ト雖モ
(市制第百六條第三項)町村ニ於テハ町村會ノ同意ヲ要スルコト勿論ナリ蓋斯ノ如キ公
債ハ收入支出ノ多キ市ノ如キニ在テハ自然已ム可カラサルモノニシテ其支出ノ時期ト
收入期限ト常ニ相合一セサルカ故ナリ

凡公債ヲ募集スルニ付許可ヲ受ク可キハ右ニ陳述シタル場合及會テ負債ナキニ新ニ公
債ヲ起シ又ハ舊債ヲ増額スルトキニ在リ故ニ前記ノ如キ一時ノ借入金ヲ爲シ又ハ舊債
償還ノ爲メニスル公債ニシテ其規約舊債ヨリ負擔ヲ輕クスルトキノ如キハ渾テ許可ヲ
要セス其他ハ償還期限三年以内ノモノヲ除クノ外内務大臣ノ許可ヲ受ク可シ
既ニ募集シタル公債ヲ豫定ノ目的外ニ使用セントスルトキハ市町村會ノ議決ヲ要シ且
若シ其公債ニ官許ヲ要スルトキハ許可ヲ受ク可キコト言テ俟タス
市町村ノ財政ハ政府ノ財政ニ於ケルト均ク三個ノ要件アリ即チ

甲 定額豫算表ヲ調製スル事

乙 収支ヲ爲ス事

丙 決算報告ヲ爲ス事

以上ノ三要件ニシテ法律中ニ細目ヲ設ク可キ必要アルモノハ本制第四章第二款ニ於テ
之ヲ規定セリ

甲

財政ヲ整理シ収支ノ平衡ヲ保ツニハ定額豫算表ヲ設ケサル可カラズ本制ハ(市制町村

制第百七條)市町村ヲシテ豫算表調製ノ義務ヲ負ハシム故ニ若シ市町村ニ於テ此義務
ヲ盡サ、ルトキハ法律上ノ權力ヲ以テ之ヲ強制スルヲ得可ク若シ之ヲ議決セサルトキ
ハ府縣參事會郡參事會ノ議決ヲ以テ之ヲ補フコトヲ得可シ(市制第百十九條、町村制第
百二十三條)此義務ハ決シテ免ル可カラサルヲシテハ狹小ノ町村ト雖モ猶之ヲ負擔
セサルヲ得ス其豫算表ハ一年ノ見積ヲ以テ之ヲ設ケ其會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同
クセリ其他本制ハ豫算表調製ノ細目ヲ定メヌ要スルニ一切ノ収支及收入不足ノ場合ニ
方リ支辨方法ヲ定ムルヲ以テ足レトス但財政整理上ニ於テ其市町村ノ資力ヲ酌量ス
可キ必要ノ細目ハ省令ヲ以テ之ヲ定ムルコトアル可シ

定額豫算ノ案ヲ調製スルコトハ町村長及市參事會ノ擔任ニシテ之ヲ議決スルハ市町村
會ノ職權ニ屬ス収支ヲ許可スルコトハ市町村會ノ全權ニ任セシメテ法律上ノ檢束ヲ設
クルモノアリ即當然支出ス可キモノヲ否決シタルトキハ監督官廳ニ於テ強制豫算ヲ令
スルノ權(市制第百十八條、町村制第百二十二條)アリ又其議決ノ越權ニ涉リ又ハ公益
ヲ害スルモノハ其議決ヲ停止スルノ權(市制第六十四條第一、町村制第六十八條第一)
アリ事項ニ依リテハ官ノ許可ヲ要スルカ故ニ(市制第百二十二條、第百二十三條第五第
六、町村制第百二十六條、第百二十七條第五第六)市町村住民ノ爲メニ過度ノ負擔ヲ制
止スルノ方ハ十分備ハレリト謂フ可シ故ニ豫算表ハ市町村會ノ議決スル所ニ依リ其全
體ニ於テ許可ヲ受クルヲ要セス唯右ニ記載シタル場合ニ限リテ許可ヲ受クルヲ要スル
ノミ

凡定額豫算表ハ二様ノ効力アリ即一方ニ於テハ理事者ヲシテ豫定ノ収支ヲ爲スノ權利ヲ得セシメ一方ニ於テハ除越ス可カラサルノ制限ヲ負ハシムルモノナリ殊ニ豫算外ノ支出豫算超過ノ支出若クハ費目ノ流用ヲ爲スニ當テハ更ニ市町村會ノ議決ヲ經可キモノトス此場合ニ於テ市町村會ハ當初豫算ヲ議定スルト同一ノ規定ニ從テ之ヲ議決ス可キナリ其追加豫算若クハ豫算ノ變更ヲ議決スルニ當リ其事項タル官ノ許可ヲ要スルトキハ均シ其許可ヲ受ク可キコトトス豫備費ヲ設ク可キト否ト及其額ノ如何ハ市町村會ノ議定ニ在リト雖モ已ニ之ヲ設ケタルトキハ市制町村制第九條ノ制限ヲ除クノ外町村長及市參事會ノ之ヲ使用スルニ任ス但其決算報告ヲ爲ス可キハ固ヨリナリトス

乙

市町村収支ノ事務ハ之ヲ官吏ニ委任セシメテ之ヲ市町村ノ吏員即収入役ヲ置テ之ニ委任ス是多ク各國ニ行ハル、所ノ實例ニシテ其吏員ハ市町村ニ於テ之ヲ選任シ有給吏員ト爲セリ要スルニ本制ノ旨趣ハ収支命令者ト實地ノ出納者トヲ分離獨立セシメント欲スルニ在リ故ニ収入役ノ事務ヲ町村長ニ委任スルハ本制ノ敢テ希望スル所ニ非スモ此ノ如キ場合ハ極メテ罕ナル可シ若シ町村ノ情況ニ依リ別ニ有給ノ収入役ヲ置クヲ要セサルトキハ寮口之ヲ助役ニ委任スルヲ可トス又比隣ノ小町村ハ町村制第百十六條ニ從ヒ共同シテ収入役一名ヲ置クモ亦便宜ニ任ス

収支命令權ハ町村長若クハ市參事會及監督官廳ニ屬ス収支命令ハ書面ヲ以テセサル可ラス収支命令ヲ受ケスニシテ爲シタル支拂ハ市町村ニ於テ之ヲ認定スルヲ要セス抑収支命令ト實地ノ出納トヲ分離スルハ支拂前ニ於テ其豫算ニ違フ所ナキヤテ監査スルニ便ナルカ爲メナリ元來決算報告ヲ爲スハ即此目的ニ外ナラズト雖モ既ニ支拂後ニ係ルヲ以テ其監査ハ往々時機ニ後ル、ノ感アリ故ニ本制ハ(市制町村制第百十條)収入役ニ負ハシムルニ其命令ノ正否ヲ査スルノ義務ヲ以テシ其命令若シ定額豫算又ハ追加豫算若クハ豫算變更ノ決議ニ適合セス又豫備費ヨリ支拂フ可キトキ該費目ノ支出ニ關スル規定ヲ遵守セサルニ於テハ之ヲ支出スルヲ得サルモノトス此義務ハ収入役ノ賠償責任ト懲戒處分ノ制裁ヲ以テ十分ニ之ヲ盡サシムルヲ得可シ

若シ町村長ニ収入役ノ事務ヲ擔任セシムルトキハ収支命令ト支拂トノ別ハ自ラ消滅シ隨テ上ニ記載シタル監査ノ法モ亦之レナキニ至ル可シ

収入役ヲシテ右ノ義務ヲ行ヒ易カラシメシカ爲メ定額豫算表ハ勿論追加豫算若クハ豫算變更ノ議決ハ必之ヲ収入役ニ通報セサル可カラズ其豫算表及臨時ノ決議ハ併セテ簿記ノ標準ト爲ルモノナリ本制ハ簿記ノ事ニ就テハ規定ヲ立ツルコトナシト雖モ簿記及一般出納事務ニ就テハ追テ訓令ヲ以テ原則ヲ示スコトアル可シ又本制ハ出納ヲ檢査スルヲ以テ市町村ノ義務ト爲セリ(市制町村制第百十一條)若シ理事者ニ於テ此義務ヲ行ハス又ハ檢査ヲ行フテ盡サハル所アルカ爲メ市町村ニ損害ヲ釀シタルトキハ市町村ニ對シテ賠償義務ヲ負ハシム可キナリ此賠償義務ノ外懲戒ヲ加ヘ得可キハ言ヲ俟タス

丙

決算報告ノ目的ハ二アリ左ノ如シ

第二類 市制町村制附理由

- 一 計算ノ當否及計算ト収支命令ト適合スル否ヤヲ審査スル事(會計審査)
- 二 出納ト定額豫算表又ハ追加豫算若クハ豫算變更ノ議決又ハ法律命令ト適合スルヤ否ヲ査定スル事(行政審査)

會計審査ハ會計主任者(即収入役又ハ収入役ノ事務ヲ擔任スル助役若クハ町村長)ニ對シ行フモノニシテ行政審査ハ市町村ノ理事者即町村長若クハ市參事會ニ對シテ行フモノナリ其會計審査ハ先ツ(町村長但町村長ニ於テ會計ヲ兼掌スルトキハ此限ニ在ラス)及市參事會ニ於テ之ヲ行ヒ次テ市町村會ニ於テ右二様ノ目的ヲ以テ會計ヲ審査ス(市制町村制第百十二條)是故ニ収支命令者(町村長、助役、市參事會員)ニシテ市町村會ノ議員ヲ兼ヌルトキハ其議決ニ加ハルコトヲ得ス(市制第四十三條、町村制第四十五條)若シ又議長タルトキハ其議事會議長席ニ居ルコトヲ得サルモノトス(市制第百十二條、町村制第百十三條)是利害ノ互ニ抵觸スルヲ以テナリ

決算報告ノ時會計ニ不足アルトキハ市制第百二十五條若クハ町村制第百二十九條ヲ適用ス可シ

市制町村制第五章 市町村內特別ノ財産ヲ有スル市區又ハ各部ノ行政

行政ノ便利ノ爲メニ畫シタル區ト一市町村內ニ於テ獨立ノ法人タル權利ヲ有スル各部トノ區別アルハ固ヨリ言ヲ待タズ本制ハ一市町村ノ統一ヲ尙フモノニシテ一市町村內ニ獨立スル小組織ヲ存續シ又ハ造成スルコトヲ欲スルコトヲ然レトモ強テ此原則ヲ斷行セントスルトキハ一地方ニ於テ正當ニ享有スル利益ヲ傷害スルノ恐レアリ故ニ概

シテ此旨趣ニ依テ論ス可カラサルモノアリ大市町村ニ於テハ現今既ニ特別ノ財産ヲ有スル部落アリ現今ノ小町村ヲ合併スルトキハ更ニ又此ノ如キ部落ヲ現出ス可シ其部落ハ即獨立ノ權利ヲ存スルモノト謂フ可シ又他ノ一方ヨリ論スルトキハ市制町村制第十九條ノ原則ニ依リ其部落ハ義務ヲ負擔スルコトアリト雖モ之レカ爲メ直ニ別段ノ組織ヲ要スルコトナカル可シ其特別財産又ハ營造物ノ管理ハ之ヲ其全市町村ノ理事者タル町村長又ハ市參事會ニ委任スルモ妨ケナシ(市制第百十四條、町村制第百十五條)若シ區長ヲ置クトキハ町村長又ハ市參事會ニ於テ區長ニ指揮シテ其管理ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得可シ尤其一部ノ權利ヲ傷害ス可カラサルハ言ヲ俟タズ本制ニ於テ其一部ノ出納及會計ノ事務ヲ分別ス可キモノトスルハ即是カ爲メナリ議會ノ職掌ヲ論スルハ(市制自第三十條至第三十五條、町村制自第三十二條至第三十七條)特別事務ト雖モ總テ之ヲ市町村會ニ委任スルモ妨ケナキ而已ナラス却テ希望ス可キ所ナリ然レトモ地方ニ依リテハ全市町村ト其各部落トノ利害ハ互ニ相抵觸スルコト往々之レアリ其甚キニ至テハ多數ノ爲メニ壓抑ヲ蒙ルコトアリ依テ其一部限リノ選舉ヲ以テ特別ノ議會ヲ起シ以テ其議事ヲ委任スルコトヲ得可シ其之ヲ起スノ利害ニ就テハ一般ノ原則ヲ設ケ難キカ故ニ姑ク條例ノ規定ニ任セサル可カラズ但此條例ハ固ヨリ普通ノ規定ニ依ル可クシテ特別ノモノニ非スト雖モ其之ヲ設ケ並其事項ヲ定ムルハ市町村會ノ議決ニ任セシメテ之ヲ郡若クハ府縣參事會ニ委任セリ何トナレハ利害ノ相抵觸スルカ爲メ偏頗ノ度置アラシムコトヲ恐ルレハナリ唯市町村會ノ意見ヲ徵ス可キハ勿論ナリ要スルニ區

會ハ市町村會又ハ區内人民ノ情願ニ依リ之ヲ設クルヲ當然トス
區會ノ構成ハ本制ニ規定シタル市町村會ノ組織ニ依準シ條例中ニ之ヲ定ム可キモノト
ス區會ノ職掌ハ市町村會ノ職掌ニ同シ唯其特別事件ニ限ルノミ

町村制第六章 村町組合

本制ノ希望スル如ク有力ノ町村ヲ造成シ又郡ヲ以テ自治体ト爲ストキハ其他別ニ區畫
ヲ設クルノ必要ナカル可キナリ殊ニ一事件アル毎ニ特別ノ聯合ヲ設クルヲ要セサル可
シ若シ漫ニ聯合ヲ設クルトキハ行政事務簡明ナラス其組織錯綜ヲ極メ費用モ亦隨テ増
加スルヲ免レサルハ英國ノ實例ヲ以テ證スルニ足ル可シ獨リ水利土功ノ聯合又ハ小町
村ニ於テ學校ノ聯合ヲ設クルカ如キハ万止ムヲ得サルモノニシテ皆別法ヲ以テ規定セ
サル可カラズ然レトモ其別法ノ發布セサル間ハ本制ニ於テ豫メ之カ方法ヲ設ケサル可
カラス又此必要アルノ外往々町村組合ヲ設クルノ活路ヲ示ス可キモノアリ即本制ニ於
テハ關係町村ノ協議ヲ以テ其組合ヲ爲スノ目的、組合會議ノ組織、事務管理ノ方法及費
用ノ支辨方法等ヲ定ムルトキハ(町村制第十六條第一項、第十七條第一項)監督官
廳即郡長ノ許可ヲ得テ組合ヲ成スコトヲ許セリ町村ニ於テ相當ノ資力ヲ有セサルトキ
組合ヲ爲サシムルヲ必要ト爲スカ如キ是ナリ此ノ如キ場合アルトキハ町村制第四條ニ
於テ合併ス可キコトヲ規定スト雖モ事情ニ依リテハ合併ヲ施ス可カラズ又ハ之ヲ不便
ト爲スコトナシトセハ例ヘハ該町村ノ互ニ相遠隔スルノ如キ又ハ古來ノ慣習ニ於テ調
和ヲ得サルカ如キノ類アリ此ノ如キニ至テハ其町村ノ異議アルコトモ拘ラズ事務共同ノ

爲メ組合ヲ成サシムルノ權力ナカル可カラズ其組合ヲ成ストキハ第四條ノ場合ニ異ニ
シテ其各町村ノ獨立ヲ存シ又別ニ町村長及町村會若クハ町村總會ヲ有ス可キ理ナリ然
レトモ其組合ヲ成ス所ノ共同事務ノ多寡及種類ハ其組合ニ依テ互ニ異ナルモノトス抑
協議ニ依ラズシテ組合ヲ設クルハ町村ノ獨立權ヲ傷クルノ恐レアルニ依リ郡參事會ノ
議決ニ任スルヲ妥當ナリトス(町村制第十六條第二項)果シテ其共同事務ノ區域ヲ定
メ強制ヲ以テ組合ヲ成サシメタルトキハ議會ノ組織事務管理ノ方法費用支辨ノ方法就
中分擔ノ方法ニ至テハ先ツ關係町村ニ於テ之ヲ協議スルヲ要ス若シ其協議調ハサルニ
及テハ郡參事會ニ於テ之ヲ議決スルノ外ナシ

組合議會ノ組織、事務管理ノ方法、費用支辨ノ方法殊ニ分擔ノ割合ハ本制ニ於テ豫メ之
ヲ規定セズ實際ノ場合ニ於テ便宜其方法ヲ制ス可シ故ニ組合ハ特別ノ議會ヲ設ケ或ハ
各町村會ヲ合シテ會議ヲ開キ或ハ互撰ノ委員ヲ以テ議會ヲ組織シ或ハ各町村會別個ニ
會議ヲ爲シ其各議會ノ一致ヲ以テ全組合ノ議決ト爲スノ類各其ノ宜キニ從フ可シ又町
村長ノ如キモ組合ニ一ノ町村長ヲ置キ且之ヲ永久獨立トシ或ハ各町村長ノ交番ト爲ス
ヲ得可シ又組合ノ費用ハ或ハ特別ノ組合費トシテ之ヲ各個人ニ賦課シ或ハ之ヲ各町村
ニ賦課シ以テ其賦課徴収ノ法ヲ各町村ノ便宜ニ任スルヲ得可シ各町村分擔ノ割合ハ利
害ノ輕重、土地ノ廣狹、人口ノ多寡及納稅力ノ厚薄ヲ以テ標準ト爲ス可シ但其納稅力ノ
詮定方ニ至テハ又之ヲ一定スルコト能ハサル可シ以上ノ各事項ニ關シ本制ハ同ク實地
宜キニ從フヲ許セリ故ニ各地方ニ於テ其便ト爲ス所ヲ採擇ス可シ組合町村ハ之ヲ解シ

第二類 市制町村制附理由

ノ議決ヲ爲スヲ得ト雖モ郡長ノ許可ヲ得ルヲ要ス(町村制第百十八條)

市制第六章町村制第七章 市町村行政ノ監督

監督ノ目的及方法ハ本説明中各處ニ之ヲ論セリ故ニ復々之ヲ贅セス唯茲ニ其要點ヲ概括セントス

(第一)監督ノ目的ハ左ノ如シ

一 法律、有効ノ命令及官廳ヨリ其權限内ニテ爲メタル處分ヲ遵守スルヤ否ヲ監視スル事

二 事務ノ錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視シ時宜ニ依テハ強制ヲ施ス事(市制第百十七條、町村制第百二十一條)

三 公益ノ妨害ヲ防キ殊ニ市町村ノ實力ヲ保持スル事
以上ノ目的ヲ達スルカ爲メニハ左ノ方法アリ

一 市町村ノ重役ヲ認可シ又ハ臨時町村長助役ヲ撰任スル事(市制第五十條、第五十一條、第五十二條、町村制第五十九條、第六十條、第六十一條、第六十二條)

二 議決ヲ許可スル事(市制第百二十二條、第百二十三條、町村制第百二十六條、第百二十七條)

三 行政事務ノ報告ヲ爲カシメ書類帳簿ヲ査閲シ事務ノ現況ヲ視察シ並出納ヲ檢閲スル事(市制第百十七條、町村制第百二十一條)

四 強制豫算ヲ命スル事(市制第百十八條、町村制第百二十二條)

五 上班ノ參事會ニ於テ代テ議決ヲ爲ス事(市制第百十九條、町村制第百二十三條)

六 市町村會及市參事會ノ議決ヲ停止スル事(市制第六十四條第一、第六十五條、町村制第六十八條第一)

七 懲戒處分ヲ行フ事(市制第百二十四條、第百二十五條、町村制第百二十八條、第百二十九條)

八 市町村會ヲ解散スル事(市制第百二十條、町村制第百二十四條)
(第二)監督官廳ハ左ノ如シ

町村ニ對シテハ

- 一 郡長
- 二 知事
- 三 內務大臣

市ニ對シテハ

- 一 知事
- 二 內務大臣

法律ニ明文アル場合ニ於テハ郡長若シハ知事ハ郡參事會若シハ府縣參事會ノ同意ヲ求ムルヲ要ス但參事會ヲ開設スルマテハ郡長知事ノ專決ニ任ス(市制第百二十七條、町村制第百三十條)

市町村吏員ノ處分若クハ議決ニ對スル訴願ニ就テハ先ツ市町村ノ事務ト市制第七十四條、町村制第六十九條ニ記載シタル事務トノ間ニ區別ヲ立テサル可カラス市制第七十四條、町村制第六十九條ニ記載シタル事務ニ關シテ訴願ヲ許スト否トハ一般ノ法律規則ニ從フモノトス之ニ反シテ市町村ノ事務ニ關シテハ此法律ニ明文アル場合ニ限レリ

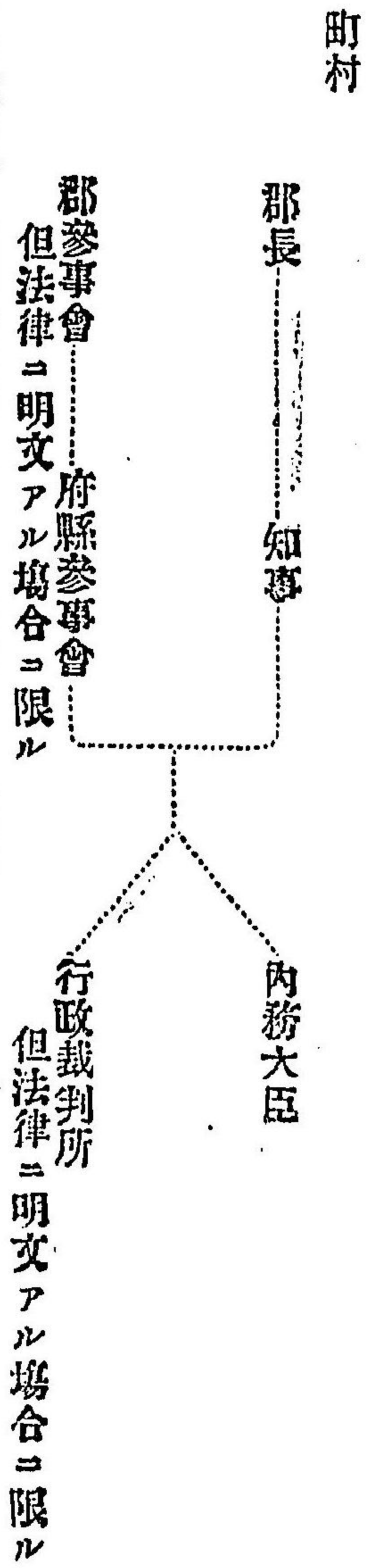
(市制第八條第四項、第二十九條、第三十五條、第六十四條第二項、第七十八條、第一百五條、第二百二十四條、町村制第八條第四項、第二十九條、第三十七條、第六十八條第二項、第七十八條、第二百五條、第二百二十八條)

本制ハ訴願ノ必要ナル場合ヲ列載シ悉シタルモノトス又監督官廳ハ自己ノ發意ニ依リ其職權ヲ以テ監督權ヲ行フヲ得ルノミナラス人ノ告知ニ依テ亦之ヲ行フコトヲ得可シ而シテ其告知ハ本制ニ所謂訴願ノ種類ニアラサレハ期限ヲ定メス又前キノ處分若クハ議決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得サルナリ(市制第十六條第二項、第五項、町村制第二十條第二項、第五項)市村町ノ行政事務ニ關シ郡長若クハ府縣知事ノ第一次又ハ第二次ニ於テ爲シタル處分若クハ裁決ニ對シテハ其參事會ノ同意ヲ得ルト否トニ拘ラス一般ニ訴願ヲ爲スヲ許セリ特ニ法律ニ明文アル場合ニ限リテ之ヲ許サルモノトス(市制第十六條第一項、町村制第二十條第一項)若シ其處分又ハ裁決郡長ヨリ發シタルモノナルトキハ之ニ對スル訴願ハ知事之ヲ裁決シ郡參事會ヨリ發シタルモノナリキハ府縣參事會之ヲ裁決ス知事及府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ其ニ內務大臣ニ訴願スルモノトス而シテ權利ノ消長ニ關スル結局ノ裁決ハ之ヲ行政裁判所ニ委任スルヲ妥當ト爲スハ上來屢々之ヲ説明セリ但權利ノ爭論ハ一般ニ行政訴訟ヲ許スコトヲスシテ之ヲ許ス可キノ必要アル場合ニ限リ特ニ之レカ明文ヲ掲ク故ニ其明文ナキ場合ニ於テハ結局ノ裁決ハ常ニ內務大臣ニ屬スルモノトス而シテ行政訴訟ヲ許シタル場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルヲ許サス最上官衙ノ裁決ヲ以テ法司ノ審判ニ付スルヲ欲セサル

カ故ナリ但本制ニ於テ行政裁判所ノ權限ヲ規定シタルハ市町村ノ行政事務ニ關スル事ニ止マリ其他ノ事務ニ涉ル權限ハ他日別法ヲ以テ定ム可キコトトス又目下行政裁判所ノ設ケナキヲ以テ之ヲ開設スルマテノ間ハ內閣ニ於テ其職務ヲ擔任ス可キコト止ムヲ得サルナリ(市制第二百二十七條、町村制第三百十條)

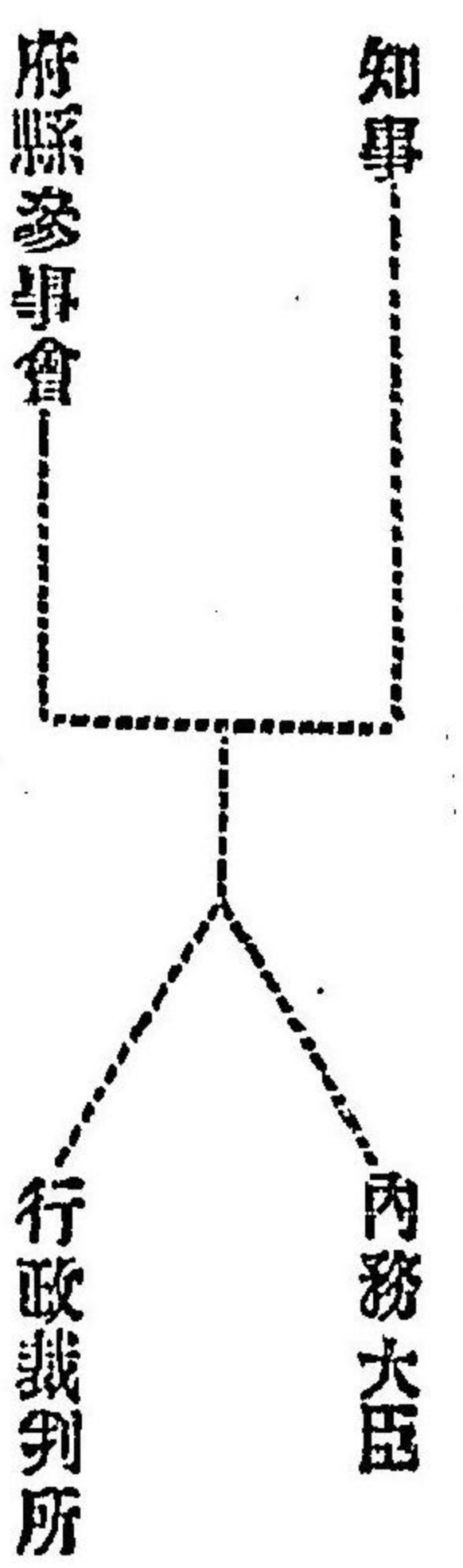
以上記述スル所ノ要旨ハ則左ノ如シ
(第一)市町村ノ行政事務ニ關セサル事件ニ對スル訴願及其順序ハ一般ノ法律規則ニ從フモノトス

(第二)市町村ノ行政事務ニ關スト雖モ市町村吏員ノ處分若クハ裁決ニ對シテハ本制ニ明文ヲ提ケタル場合ニ限リ訴願ヲ許シ之ニ反シテ監督官廳又ハ郡府縣參事會ノ處分若クハ裁決ニ對シテハ一般ニ訴願ヲ許ス其訴願ノ順序ハ左圖ノ如シ



第二類 市制町村制附理由

市



但法律ニ明文アル場合ニ限ル 但法律ニ明文アル場合ニ限ル
 前圖ノ順序ハ必履行セサル可カラサルモノニシテ内務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ
 出訴セントスルニハ必其前段ノ順序ヲ經由シタル後ニ在ル可キモノトス

○市制町村制中直接税及間接税ノ區別

明治二十一年七月十三日
 大藏省告示第九十五号

本年法律第一號市制第三百三十二條町村制第三百三十六條直接税間接税ノ類別ハ左ノ諸税
 ナリテ直接税トシ其他ハ間接税トス但府縣區町村ニ於テ特ニ徵收スルモノハ府縣知事
 ノ稟申ヲ以テ之ヲ定メ其直接トスヘキモノハ府縣知事ヲシテ管内ニ告示セシム

- 國 税
- 地 租 所得税
- 地方税
- 地租制 戸數制 家屋税 營業税 雜種税
- 區町村費
- 地價制 段別制 戸別制 家屋制 營業制

○市制及町村制實施ニ際シ新任市町村長ニ事務引繼

方 二十一年八月十八日
 内務省令第四号

- 第一條 市制及町村制實施ニ際シ新任市町村長ニ事務引繼了ノ日ニ至ル迄ハ區長戸
 長區書記役場筆生等ニ於テ從前之通事務取扱ヲ爲スヘシ
- 第二條 前條事務取扱中地方税支辨ニ係ル吏員ノ給料旅費并ニ區役所戸長役場ノ經費
 ハ總テ該年度ノ豫算ニ據リ地方税又ハ町村費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ
- 第三條 市制及町村制施行ノ期日ヲ定メタル前條ノ地方税又ハ町村費ニ關シ未ダ該
 年度ノ豫算ヲ議定セス又ハ議定シタル豫算ノ不足アルニ於テハ從前ノ通府縣知事戸
 長ニ於テ府縣會町村會ノ議決ヲ取リ前條費目必要ノ豫算ヲ定ムヘシ
- 第四條 市制及町村制施行ノ日ヨリ市町村稅徵收ニ至ルマテ市町村必要ノ費目ハ第二
 條ノ費用ヲ除クノ外區長戸長ニ於テ其ノ豫算ヲ設ケ區町村會ノ議決ヲ經テ假徵收ヲ
 ナスヘシ但新市町村ト舊區町村會區域ト符合セザル場合ニ於テハ各區町村會ニ於テ
 區々ノ豫算ヲ設ケサル爲メ府縣知事ニ於テ其標準ヲ示スヲ得
- 前項ノ費用ハ區町村會ノ議決ニヨリ現在セル區町村費又ハ共有金ヲ一時使用シ又ハ
 一時ノ借入金ヲ以テ其費用ニ充ツルヲ得
- 第五條 區長戸長ニ於テ取扱タル一切ノ金穀并ニ會計帳簿ハ其ノ金穀ノ種類及ヒ所屬
 年度ヲ區別シタル明細書ヲ制シ之ヲ市町村長ニ引繼クヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇
 以上ノ市町村ニ分屬シタルハ第四條ノ金額ハ事務引繼前ニ支拂タルモノヲ除クノ
 外人口反別ヲ標準トシテ適宜各部分ニ配付シ其他ハ人口反別ノ最モ多キ部分ノ分屬

第二類 市制及町村制附理由

シタル市町村長ヲ以テ主擔トシ其市町村長ニ引繼キ主擔市町村長ハ第七條但書ノ精算ヲ了シタル上其所屬外ノ部分ノ分屬シタル各市町村ニ屬スヘキモノハ更ニ之ヲ其市町村長ニ引繼クヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ帳簿ノ類ニシテ分割スヘカラサルモノアルハ更ニ引繼クテヲ要セス但閱覽ノ便ヲ妨クヘカラス

第六條 第四條第一項ニ依リ假徵收ヲナシタルモノハ追テ市町村會ニ於テ該年度ノ收支豫算ヲ議決シタル上市町村稅各納人ニ對シ差引徵收ヲ爲スヘシ

同條第二項ニ依リタルハ新ニ徵收シタル市町村稅ヲ以テ返償ヲ爲スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルハ最初配付ヲ受ケタル割合ニ應シ各市町村長ニ於テ之ヲ徵收シ主擔市町村長ニ於テ全額ヲ取纏メテ其返償處分ヲ爲スヘシ

第七條 區長戸長ニ於テ未タ精算ヲ了セサル區町村費ハ其引繼ヲ受ケタル市町村長ニ於テ之ヲ精算ヲ作り市町村會ニ報告スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルハ主擔市町村長ニ於テ精算ヲ作り主擔市町村長ハ其市町村會ニ報告シ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ニ於テハ主擔市町村長ヨリ之ヲ其各市町村長ニ送付シテ其市町村會ニ報告セシムヘシ

第八條 前條精算ノ場合ニ於テ殘餘金アルハ市町村長ニ於テ舊區町村ニ割戻チナス可シ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルハ該年度區町村費實收入ノ割合ニ依リ主擔市町村長ニ於テ割戻ノ高チ定メ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ノ分ハ其市町村長ニ配付シ各其割戻チナスヘシ

第九條 第七條精算ノ場合ニ於テ不足金ヲ生シタルハ市町村會ノ決議ヲ經テ舊區町村ヨリ追徵補充スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルハ主擔市町村長ニ於テ該年度區町村費實收入ノ割合ニ依リ其補充豫算ヲ作り其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ノ分ハ其市町村長ニ送付シ各市町村會ノ決議ヲ經テ其舊區町村ノ部分ヨリ追徵補充スヘシ

第十條 不納ニ屬シタル區町村費ニシテ精算報告後ニ於テ追徵シタルモノハ各市町村ノ臨時收入トナスヘシ

第十一條 從前郡部ト經濟ヲ與ニセサル區若クハ郡部内ノ市街地ニ市制ヲ施行スルハ該市ハ地方稅目申郡區廳舎建築修繕費并郡吏員給料旅費及廳中諸費ノ負擔ニ任スヘカラサルヲ以テ該費ハ市制施行ノ後ハ市ニ賦課セサルモノトス但第二條ノ諸費ニ係ルモノハ此限ニアラス

○市制施行地方指定 二十二年二月二日 內務省告示第一號
明治二十一年法律第一號市制第二百二十六條ニ據リ市制施行ノ地左之通指定ス

東京府管下	東京	京都府管下	京都
大坂府管下	大坂 堺	神奈川縣管下	橫濱
兵庫縣管下	神戸 姫路	長崎縣管下	長崎
新潟縣管下	新潟	茨木縣管下	水戸
三重縣管下	津	愛知縣管下	名古屋

第二類 市制及町村制附理由

二十二年三月
 內務省告示
 第十號
 以テ佐賀ヲ
 市制施行地
 トス

靜岡縣管下 靜岡 宮城縣管下 仙臺
 駿手縣管下 盛岡 青森縣管下 弘前
 山形縣管下 山形 秋田縣管下 秋田
 福井縣管下 福井 石川縣管下 金澤
 富山縣管下 富山 高岡 松江
 岡山縣管下 岡山 廣島縣管下 廣島
 山口縣管下 赤間關 和歌山縣管下 和歌山
 德島縣管下 德島 香川縣管下 高松
 愛媛縣管下 松山 高知縣管下 高知
 福岡縣管下 福岡 久留米 熊本縣管下 熊本
 鹿兒島縣管下 鹿兒島 佐賀縣管下 佐賀

○町村ヲ施行セサル島嶼
 朕町村制ヲ施行セサル島嶼指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 御名 御璽
 明治二十二年一月十六日
 內閣總理大臣伯爵黑田清隆
 內務大臣伯爵松方正義

勅令第一號(官報一月十七日)
 町村制第三百三十二條ニ依リ町村制ヲ施行セサル島嶼左ノ通指定ス
 東京府管下 小笠原島 伊豆七島

長崎縣管下 對馬國
 島根縣管下 隱岐國
 鹿兒島縣管下 大隅國大島郡
 大島 德ノ島 喜界島 沖永良部島 與論島
 薩摩國川邊郡 硫黃島 黑島 竹島 口之島 臥蛇島 平島 中之島 惡石島 諏訪ノ瀬島 寶島

○町村制ヲ施行セサル島嶼ノ戸長以下給料旅費並
 浦役場費
 朕町村制ヲ施行セサル島嶼ノ戸長以下給料旅費並浦役場費ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 御名 御璽
 明治二十二年一月十六日
 內閣總理大臣伯爵黑田清隆
 內務大臣伯爵松方正義
 大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二號(官報一月十七日)

第二類 市制及町村制附理由

町村制ヲ施行セサル嶋嶼ハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ムル迄本府縣ニ於テ町村制施行ノ後ニ要スル戸長以下給料旅費並浦役場費ハ其町村ノ負擔トス但東京府管轄小笠原島伊豆七嶋ハ従前ノ通國庫ヨリ支給ス

○東京市區改正土地建物處分規則

朕東京市區改正土地建物處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年一月二十八日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆
內務大臣伯爵松方正義

勅令第五號 (官報一月二十九日)

東京市區改正土地建物處分規則

第一條 市區改正ニ要スル官有地ハ無料ニテ供用セシメ其地ニ屬スル官有ノ建物植物等ハ無料ニテ交付スヘシ但地方稅ノ經濟ニ屬スルモノハ民有ニ準ス

民有地及其地ニ屬スル民有ノ建物植物又ハ官有地ニ在ル民有ノ建物植物等ハ東京府知事其所有者ト協議ノ上相當ノ代價又ハ移轉料ヲ償却スヘシ

若シ協議調ハサルトキハ雙方ヨリ評價人各一人ヲ出シ評價セシメ東京府知事之ニ意見ヲ付シ內務大臣ノ決ヲ請ヒ之ヲ定ムヘシ

第二條 市區改正ノ爲メ民有地買上ノ場合ニ於テ一宅地ヲ爲ヌニ足ラサル殘餘ヲ生スルモノハ併セテ之ヲ買上クヘシ

第三條 市區改正ニ關シ不用ニ歸シタル土地一宅地ヲ爲ヌニ足ルモノニシテ幾ニ公用

土地買上規則又ハ本則第一條ニ依リ買上タルモノハ原價ヲ以テ特ニ舊所有者ニ拂下ヘシ若シ舊所有者之ヲ買受ルコトヲ欲セサルカ又ハ舊所有者ナキモノハ直ニ公賣ニ付スヘシ

前項ノ土地一宅地ヲ爲ヌニ足ラサルモノハ其接續地ノ所有者之ヲ買受クヘキモノトス若シ其所有者之ヲ買受ルコトヲ欲セサルトキハ東京府知事ハ第一條ニ依リ其接續地及建物植物等ヲ買上クヘシ

前條及本條ニ一宅地ト稱スルモノハ市街ノ狀況ニ依リ東京府知事之ヲ定ム

第四條 東京府知事ハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ市區改正ニ要スル土地ニ屬スル建物新築増築改築ノ制限ヲ規定シ之ヲ告示スヘシ

其制限內ト雖モ新築増築改築セント欲スル者ハ豫メ東京府知事ノ認可ヲ受クヘシ東京府知事ハ設計着手ノ都合ニ依リ之ヲ認可セサルコトヲ得

若シ之ヲ認可セサルトキハ新築増築改築者ハ其土地及其地ニ屬スル建物植物等ノ代價又ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其土地自己ノ所有ニアラサルトキハ通知ヲ以テ其土地賃借ノ契約ヲ解クコトヲ得

若シ制限ニ違ヒ又ハ東京府知事ノ認可ヲ受スシテ新築増築改築ヲナシタル者ハ土地買上ノ際其新築増築改築ニ係ル建物ノ代價又ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得ス

第五條 土地建物植物等ノ賣却代金ハ市區改正ノ費用ニ充ツヘシ

第二類 市制及町村制附理由

○市町村歳入出豫算表式

二十二年三月一日
内務省令第三二號

明治二十一年法律第一號市制町村制ニ依リ市町村歳入出豫算表式左ノ通相定ム

市町村歳入出豫算表式

某府(縣)某市 某郡某町(村)某町村組合 明治何年度歳入出總計豫算

歳入

一金

歳入豫算高

歳出

一金

經常費豫算高

一金

臨時費豫算高

合計金(臨時費ノ豫算ナキト)

歳入出差引

歳入
歳出
残金

歳入出差引残金及歳出ノ精算殘金ハ翌年度繰越金ニ編入スルヲ通例ト爲スト雖モ若シ該殘金又ハ歳入豫算ニ對スル實収額ノ増減金額等特ニ其處分ヲ要スルハ豫メ其方法ヲ議定シ本案ニ列揭スヘシ例ヘハ殘金ノ處分ニ付テハ其殘金總額ノ何歩ハ基本財産何歩ハ豫備費何歩ハ翌年度繰越金ニ編入スヘシト掲記シ又豫算ニ對スル實収ノ増減ニ付テハ何收入何税ノ増額ハ何收入何税ノ實收減額ヲ補填シ猶殘金アルトキハ何々(基本財産、豫備費、翌年度繰越金等)ニ編入スヘシト掲記スルノ類

某府(縣)某市 某郡某町(村)某町村組合 明治何年度歳入出豫算表

科	目	前年度豫算額	本年度豫算額	附	記
第一款	歳入				
一					
二					
三					
第二款	歳出				
一					
二					
三					
第三款	雑収入				
一					
二					
三					
第四款	前年度繰越金				

科 目	前年度豫算額	本年度豫算額	附 記	歳 出		
				一 地 價 割	二 習 察 割	三 戸 別 割 (家 屋 割)
第五款(市)町村税						
一 地 價 割						
二 習 察 割						
三 戸 別 割 (家 屋 割)						
合 計						
経 常 費						
第一款 役所(役場)費						
一						
二						
三						
第二款 會議費						
一						
二						
三						
第三款 土木費						
三						

科 目	前年度豫算額	本年度豫算額	附 記	歳 出		
				一 地 價 割	二 習 察 割	三 戸 別 割 (家 屋 割)
第四款 教育費						
一						
二						
三						
第五款 衛生費						
一						
二						
三						
第六款 救助費						
一						
二						
三						
第七款 警備費						
一						

- 額附記欄内ニハ各其事由ノ梗概ヲ記入スヘシ例ヘハ歳入ノ部財産ヨリ生スル收入ニ在テハ貸地料、藏敷料、貸金利子、(科目)何圓(金額)某所字何^{宅地}原野貸地料一箇月何圓ツ、某所土藏幾棟一棟ニ付何圓、共有金貸附元金何千圓八年幾割此利金何圓何百圓八月幾割此利金何圓、(附記)歳出ノ部役所役場費ニ在テハ市町村長給料、助役給料委員報酬、(科目)何圓(金額)年俸何圓幾人、月給何圓幾人、一箇年何圓ノ割何箇月分、(附記)ト記載スルノ類
- 三 財産ヨリ生スル收入ノ款ニハ動産、不動産ノ所得及瓦斯水道ノ如キ工事ノ所得ヲモ編入スヘシ
- 四 雑收入ノ款ニハ加入金、渡附貸、橋梁錢、不用品賣拂代、竹木拂代、遺忘金、科料金、賠償金、其他ノ收入ニシテ他ノ各款ニ属セサル諸收入ヲ編入スヘシ
- 五 市町村税中地價割ニ付テハ地租ニ對スル歩合、營業割戸別割及家屋割ニ付テハ地方稅營業稅雜種稅戸數割又ハ家屋稅ニ對スル歩合ヲ掲載スヘシ
- 六 市町村特別稅ヲ設クルトキハ戸別割又ハ家屋割ノ次ニ之ヲ掲載スヘシ
- 七 諸稅及負擔ノ款ニハ市町村有地所ノ地租又ハ地租割及郡費負擔等ノ類ヲ編入スヘシ
- 八 雜支出ノ款ニハ火災保險料、山番給、墓地費等他ノ各款ニ属セサル諸支出ヲ編入スヘシ
- 九 雜收入又ハ雜支出ニ編入シ難キ收支アル等別ニ一款ヲ設クルノ必要アルトキハ適宜之ヲ設クルコトヲ得

- 十 歳入歳出科目中其節目數多ニ涉ルモノハ適宜ニ項目ヲ設クルヲ得例ヘハ役場費中ニ給料雜給需用費ノ項目ヲ設ケ尙其細節ヲ編次スル如シ
- 十一 上級ノ經濟^{國庫地方}稅ノ類ヨリ補助金アルカ若クハ人民ヨリ寄付金アルトキハ歳入ノ部ニ在テハ前年度繰越金ノ次各其一款ヲ設ケ歳出ノ部ニ在テハ該當費目ノ金額欄内ニ内金何圓何補助又ハ寄付金ト附記スヘシ
- 十二 豫備費ヲ置クトキハ雜支出ノ次ニ其一款ヲ設ケヘシ若シ精算殘餘ヲ生スルトキハ順次之ヲ次年度ニ繰越スコトヲ得
- 十三 瓦斯燈水道等ノ類ニシテ別ニ豫算ヲ設クルヲ必要トスルトキハ適宜之ヲ調整スルコトヲ得
- 十四 町村組合ニ在テハ分擔法ニ依リ歳入科目第五款町村稅ノ款ニ於テ左ノ如ク掲載スルモ妨ケナシ

第五款 町村稅	
某町ノ負擔	
一 地價割	
二 營業割	
三 戸別割	
某村ノ負擔	

第二類 市制及町村制附理由

一	地價割
二	營業割
三	戸別割

○市町村長ヲシテ國稅ヲ徵收セシム

朕市町村長ヲシテ國稅ノ徵收ヲ爲サシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年三月十三日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第三十三號

左ニ掲クル國稅ハ明治二十二年(三月)法律第九號國稅徵收法第二條第二項ニ依リ市町村長ヲシテ之ヲ徵收スヘシ

- 一 所得稅
- 一 酒造稅則附則自家用料酒釀札料
- 一 菓子稅中製造稅製酒營業稅卸賣營業稅小賣營業稅
- 一 烟草稅中製造營業稅仲買營業稅小賣營業稅
- 一 賣藥稅中營業稅
- 一 船稅
- 一 車稅

- 一 牛馬買賣免許稅
- 一 銃獵免許稅

○市町村制施行ニ付諸鑑札訂正ノ件

二十二年三月十六日大藏省訓令第九号府縣沖繩ヲ除ク

市町村制施行ノ爲メ國稅諸規則ニ關スル營業其他ノ鑑札ニ異動ヲ生シタルモノハ朱書訂正ニ止メ書換ヲ爲スニ及ハス尤モ稅務取扱上差支無之モノハ其儘據置市町村改正事務ノ都合ヲ見計ヒ漸次ニ訂正スヘキ義ト心得ヘシ但訂正スルモノハ鑑札料ヲ徵收スヘカラス

○市制中三府ニ特例ヲ設ケラル

朕市制中東京市京都市大坂市ニ特例ヲ設ケルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治廿二年三月二十二日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆
内務大臣伯爵松方正義

法律第十二號

- 第一條 東京市京都市大坂市ニ於テハ市長及助役ヲ置カス市長ノ職務ハ府知事之ヲ行ヒ助役ノ職務ハ書記官之ヲ行フ
- 第二條 東京市京都市大坂市ノ市參事會ハ府知事書記官及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第三條 東京市京都市大坂市ニ於テハ收入役書記其他ノ附屬員ヲ置カス府廳ノ官吏其

第二類 市制及町村制附理由

職務ヲ行フ

第四條 東京市京都市大坂市ニ於テハ從來ノ區ヲ存シ每區ニ區長一名及書記ヲ置キ有給吏員ト爲シ市參事會之ヲ選任ス但書記ノ人員ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 東京市京都市大坂市ニ於テハ區長代理者ヲ置カヌ區長事故アルトキハ上席書記之ヲ代理ス

第六條 東京市京都市大坂市ニ於テハ府知事ハ區長ヲシテ其區内ニ關スル國ノ行政及府ノ行政及并收入役ノ事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第七條 東京市京都市大坂市ニ於テ區ノ廢置分合ヲ要スルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 東京市京都市大坂市ニ於テハ區ヲ以テ市會議員選舉區ト爲ス

○市町村制ニ關スル行政裁判手續
朕市制第百二十七條及町村制第百三十條ニ據レル行政裁判手續ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年六月四日

内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
內務大臣 伯爵松方正義
司法大臣 伯爵山田顯義

法律第十六號

明治二十一年(四月)法律第一號市制第百二十七條及町村制第百三十條ニ依リ當分ノ内

内閣ニ於テ行フヘキ行政裁判ハ現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ受理審問セシメ内閣ノ裁定ヲ經テ判決ヲ言渡サシム

參觀 ●市制町村制施行地ニ關スル件 明治二十二年六月 藏省令第七號

市制施行ノ地ニ於テハ所得稅法施行ニ關シ府縣知事大臣ノ認可ヲ受ケ若干名ノ臨時取調員ヲ置キ所得稅調査ニ關スル下開ヲ爲サシムルコトヲ得

市制施行ノ地ニ於テハ賭稅ニ關スル當省令達告示中郡區長又ハ郡區役所トアルハ府縣知事又ハ府縣廳、郡區及郡區役所所轄トアルハ市京都市京都市大坂市ハ區、戶長又ハ戶長役場トアルハ市長又ハ市役所ト心得ヘシ

町村制施行ノ地ニ於テハ賭稅ニ關スル當省令達告示中戶長又ハ戶長役場トアルハ町村長又ハ町村役場ト心得ヘシ

市制町村制施行ノ地ニ於テハ賭稅ノ檢印ヲ請ハント欲スルハ市ニ於テハ府縣知事ニ町村ニ於テハ郡長ニ申出ヘシ

參觀 ●市町村ヲシテ徵收セシムル國稅ノ件 明治二十二年五月二十四日大藏省 訓令第三十八號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

明治二十二年(三月)敕令第三十三號(百五十二ニ參看)ニ依リ市町村ヲシテ徵收セシムル國稅ハ市町村ニ於テ適宜一人別徵稅元帳ヲ備ヘ置之ニ據リ收徵ノ手續ヲ爲サシムヘシ

但所得稅菓子稅及ヒ鹽稅收入ノ賭稅ヲ除ク外一入別ノ賦稅額ニ異動ヲ生シタルハ其時々市町村へ通スヘシ

第三類 褒章勳位恩給救助

第七章 褒章條例

明治十四年十二月七日
第六拾三號布告

褒章條例別紙ノ通相定來明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
右奉 勅旨布告候事

別紙

褒章條例

第一條 凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助セシ者又ハ德行卓絶ナル者孝子順孫節婦義僕ノ類又ハ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者疏河築堤修路墾田ノ業或ハ貧院學校設立ノ類ヲ云フヲ表彰スル爲メ左ノ三種ノ褒章ヲ定ム

紅綬褒章

右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助セシ者ニ賜フモノトス

綠綬褒章

右德行卓絶ナル者ニ賜フモノトス

藍綬褒章

右公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者ニ賜フモノトス

第二條 奇特ノ實行アリト雖モ褒章ヲ賜フヘキ場合ニ至ラサルモノハ褒狀ヲ與フコトアルヘシ

第三條 已ニ褒章ヲ賜ハリタルモノ再度以上同様ノ實行アリテ褒章ヲ賜フヘキトキハ

第三類 褒章勳位恩給救助

其都度飾版一箇ヲ賜與シ其章ノ綬ニ附加セシメ以テ標識トス
 第四條 褒章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ及ヒ徽號トナスヲ得然レトモ重罪ノ刑ニ處
 セラレタル片ハ之ヲ沒收シ其未タ授與セサル前同上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ之ヲ
 授與セス

(褒章ノ圖畧之)

佩用式

一褒章ハ左肋ノ邊ヘ佩フヘシ

但勳章及從軍記章ヲ有スル者ハ其章ノ左ヘ列シ帶フヘシ

○褒章ト金銀木杯若クハ金圓賜與

明治十六年一月四日
 勳令第十六號

明治十四年^{十二月}第六十三號布告褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者又ハ公益ノ爲メニ金
 穀財産等ヲ寄付シタル者ハ金銀木杯若クハ金圓ヲ賜ヒ又ハ褒章ト金銀木杯金圓ヲ併セ
 賜フコトアルヘシ
 右奉 勅旨布告候事

○黃綬褒章臨時制定

二十年五月二十日布告
 勳令第十六號

朕黃綬褒章臨時制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年五月二十三日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

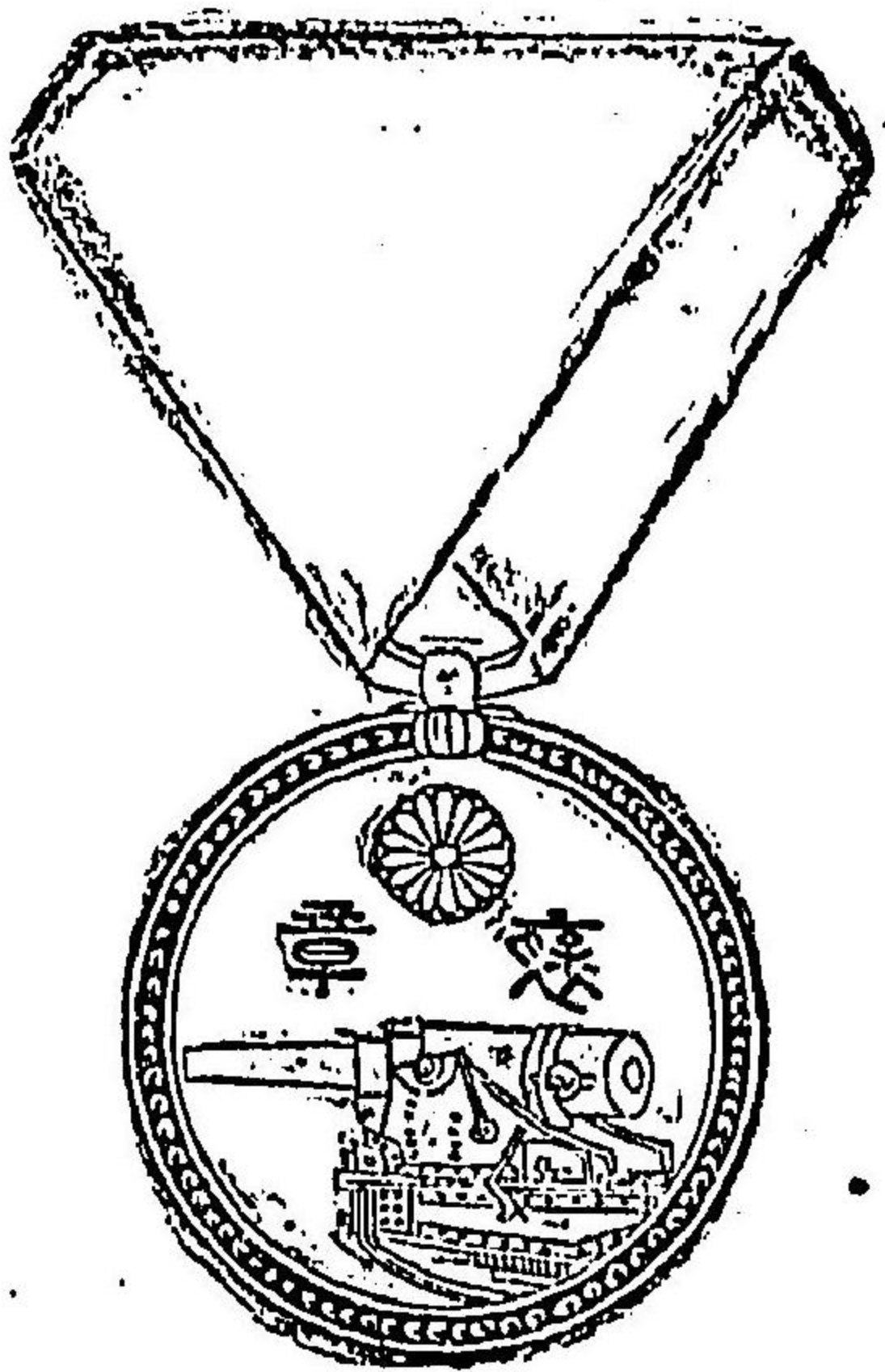
勳令第十六號

第一條 私財ヲ獻納シ防海ノ事業ヲ贊成スルモノニ授與スル爲メ黃綬褒章ヲ制定シ分
 テ金章銀章ノ二種トス

第二條 黃綬褒章ヲ佩用シ又ハ沒收スルノ事項ハ明治十四年^{十二月}第六十三號褒章條例
 ニ據ル

第三條 黃綬褒章ノ圖式左ノ如シ

章	綬
金及銀圓形表面ニ菊ノ徽章褒章ノ二字大砲ノ圖裏面ニ贊成防海事業ノ六字ヲ鑄出ス	橙黃色



○褒章條例取扱手續ヲ定ム

明治十四年十二月七日
 第三百三號官省院使府縣へ達

今般第六十三號ヲ以褒章條例布告候ニ付取扱手續左ノ通相定候條此旨相達候事

第三類 褒章勳位恩給救助

三

但明治八年七月第百二十一號達ハ右條例施行ノ日ヨリ廢止候事

第一條 凡ソ褒章ヲ賜フヘキ者アルトキハ其管轄長官ヨリ内務卿又ハ農商務卿ニ具申シ内務卿又ハ農商務卿ハ其當否ヲ審査スヘシ

但官吏職務上ニ於テ人命ヲ救助シ又ハ公益ヲ興シタルハ褒賞ヲ賜フノ限ニアラス
第二條 内務卿又ハ農商務卿ニ於テ褒賞ヲ賜フヘキモノト思量スルトキハ之ヲ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ賞勳局總裁ハ其申牒ニ據リ勅委任官并ニ從六位以上及ヒ勳六等以上ノ者及ヒ華族ノ戶主ニハ褒章ヲ直授シ其他ノ者ハ内務卿又ハ農商務卿ヲ經由シ其管轄長官ヲシテ之ヲ傳達セシムヘシ

但外國人ニ危難救助ノ褒章ヲ賜フヘキトキハ外務卿ヨリ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ授與ノキモ亦同卿ヲ經由シテ之ヲ傳達セシムヘシ其公私備ニ係ル者ハ本條ニ同シ
第三條 褒狀ハ管轄長官ヨリ與フルモノトス然レモ勅委任官并ニ從六位以上及ヒ勳六等以上ノ者及ヒ華族ノ戶主ハ内務卿又ハ農商務卿ニ具申スヘシ内務卿又ハ農商務卿ハ之ヲ太政官ニ上申シ太政官ニ於テ之ヲ賜フヘシ

○金銀木杯金圓賜與手續

明治十六年三月二十六日
第拾七號官省院使府縣へ達

本年第壹號布告ノ旨ニ依リ金銀木盃又ハ金圓賜與手續別紙ノ通相定候條此旨相達候事
金銀木盃金圓賜與手續

第一條 褒賞ヲ賜フヘキ者ニ金銀木盃又ハ金圓ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ併セ賜フトキハ其等差左ノ如シ

定例

- 第一等 木盃三組品格ヲ三等ニ分ツ又ハ金拾圓ヨリ多カラス六圓ヨリ少カラス
- 第二等 木盃三組品格ヲ三等ニ分ツ又ハ金五圓ヨリ多カラス貳圓五拾錢ヨリ少カラス
- 第三等 木盃壹個品格ヲ三等ニ分ツ又ハ金貳圓ヨリ多カラス壹圓ヨリ少カラス

特例

- 第一等 金杯壹個又ハ三組又ハ金圓
 - 第二等 銀杯壹個又ハ三組又ハ金圓
- 第二條 公益ノ爲メニ金銀財產等ヲ寄附シタル者ニ金銀木杯ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ併セ賜フトキハ其等差左ノ如シ

褒狀

- 拾圓未滿 但壹圓未滿ハ褒詞ヲ以テ褒狀ニ換フルコトアルヘシ十七年第三十二號公達ヲ以テ但書追加
- 拾圓以上百圓未滿 大杯壹個
- 但五拾圓未滿ハ拾圓毎ニ五拾圓以上ハ貳拾五圓毎ニ品格ニ等差アリ
- 百圓以上五百圓未滿 木杯三組
- 但三百圓未滿ハ五拾圓毎ニ三百圓以上ハ百圓毎ニ品格ニ等差アリ
- 五百圓以上二千圓未滿 銀杯壹個

第三類 褒章勳位恩給救助

但千圓毎ニ品格等差アリ

五千圓以上壹萬圓未満

金杯壹個

但二千五百圓毎ニ品格等差アリ

壹萬圓以上

銀杯三組

第三條 金銀杯又ハ特別金圓又ハ褒章ト金杯又ハ金圓ヲ併セ賜フ事項ハ賞勳局總裁之ヲ管理スルモノトス

褒狀又ハ木杯又ハ定例金圓ノミヲ賜フハ警視總監府縣知事管理施行スルモノトス

但勲章任官并從六位以上及ヒ勳六等以上ノ者及ヒ華族ノ戶主ニ賜フヘキトキハ第

四條ニ準據スヘシ

第四條 金銀杯又ハ特別金圓又ハ褒章ト金銀木杯又ハ金圓ヲ併セ賜フヘキ者アルハ警視總監府縣知事ヨリ内務大臣又ハ農商務大臣ニ具申シ内務大臣又ハ農商務大臣ハ之ヲ審査シ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ

賞勳局總裁ハ其申牒ニ據テ勲章任官從六位以上及ヒ勳六等以上ノ者及ヒ華族ノ戶主ニハ之ヲ直接シ其他ノ者ハ内務大臣又ハ農商務大臣ヲ經由シ警視總監府縣知事ヲシテ之ヲ傳達セシム

第五條 金銀木杯又ハ金圓又ハ褒狀ヲ受クヘキ者ニシテ其未タ授與セサル前重罪ノ刑ニ處セラレタルハ之ヲ授與セス

同指令

褒章舉行處分方ノ義ニ付農商務省ヨリ太政官ヘ伺

明治十四年十二月第百三號公達褒章取扱手續第一條ニルソ褒章ヲ賜フヘキ者アルトキハ其管轄長官ヨリ主務卿ニ具申云々又第三條ニ褒狀ハ管轄長官ヨリ與フルモノトス云々ト有之然處難破船ニ係ル人命救助ナルモノハ甲船困難ノ際同所航行中ノ乙船船長水夫若クハ乘客又ハ該地元人民ト同心協力シテ救援スル等其場合一ニシテ足ラス今其褒賞ヲ救助者各自ノ管轄長官ニ於テ稟行スルモノトセハ處分上或ハ多少ノ煩雜モ可有之歟仍テ是等ハ遭難救援ノ事實ヲ詳悉シタル地方長官ニ於テ賞與取計不申候テハ實際支障候存候得共右公達中管轄長官ノ指定方明文無之ニ付此段爲念相伺候前陳ノ通相心得可然ヤ至急仰允裁候也

賞譽等ノ儀ニ付兵庫縣ヨリ農商務省ヘ伺

右甲號五人ノ者本年四月十三日明石沖合岸鹿ノ瀬ヘ漁業稼キ出テ烈風ノ起ルニ遭シ船難ニ及ヒ各自船底ニ取付キ漂流セシテ乙號之者ヲ視認メ危難ヲ顧ミテ該船ニ漕キ付ケ右五人ヲ我カ船中ニ引揚ケ歸路ニ向フ處何分風濤猛烈ニシテ進退自由ナラス其末該船モ亦轉覆ニ及ヒ候ヨリ各船体ニ取付居候モ屢々激浪ノ爲掀翻セラレ内五名ハ終ニ流亡致シ殘ル三人必死ノ處丙號二名ノ者亦危難ヲ顧ミテ漕キ付來リ右三人ヲ自分船ニ救揚ケシモ既ニ船等破壞ニ及ヒ進退困難處幸ニシテ藤江村近傍ヘ漂着シ多人數來リ救ニ逢ヒ初テ萬死ヲ免レ候始末即チ別紙(略ス)山下松太郎外三名及ヒ堀江千太郎外一名具狀ノ通ニ有之依テ審按候處右乙者ハ甲者ヲ救援シ其末自分モ非常ノ難ヲ受ケシ者ナレハ褒章條例第一條ニ照スヘキハ勿論ニ有之而シテ丙者モ自己ノ危難ナルニ拘ハラヌ乙者甲者ヲ救援セシハ乙者ノ次キナル者ニシテ自チ優劣ハ有之候得共到底條例第一條ニ外ナラサル者ト相考候ニ付褒賞方可然御詮議相成度候將又右ニ付爰ニ懸然ナルハ乙號中山下木三兵衛外一名ノ流亡者ナリ彼レ若シ甲者ヲ救援セス全カシ歸路ニ向ハシメハ其性命ヲ全フスルヤモ計ル可カラス然ルニ多人數ヲ救援シ我カ狭小ナル船ニ打乗セ候ヨリ一層ノ艱難ニ陥リ終ニ水死ノ厄ヲ招キシ者ノ如ク相見ヘ全ク他ヲ救援シタルカ爲メ一命ヲ擲チシ者ト見做サハルヲ得ス果シテ然ラハ今其存命者ハ多少ノ賞譽ヲ得テ不幸ナル死者ニ何等追賞無之事實頗ル權衡ヲ得サル者ニ付是亦相當ノ追賞有之候

第三類 褒章勳位恩給救助

致度尤右ノ如キハ適當ナル成規無之候得共客年十二月第六十七號公達ニ照シ一般人民ニシテ巡查同様ノ勳ヲナシタル者ト見做シ重傷死ニ至ル者ニ準シ吊祭扶助料ヲ下賜相成可然乎右等ノ如キハ後來儘可有之儀トモ相考候ニ付テハ何分ノ御詮議有之度右具狀旁御裁令ヲ仰候也

指令 十六年十一月三十日

具申之趣人命救助ノ爲メ溺死者處分ノ儀何之通

●人命救助者褒賞取扱之儀ニ付山口縣ヨリ農商務省ヘ伺 十六年十二月一日

爰ニ(甲縣)甲某アリ乙縣所管ノ海上渡航中暴風ノ爲メ難船ニ罹リタルヲ(丙縣)乙某之ヲ救援シ(乙縣)ヘハ救助被救助者ヨリ何等ノ届出モナサス直ニ(丁縣)ヘ甲某ヲ揚陸セシメタリ依テ被救者甲某ヨリ避難救助セラレタル頭末ヲ届出タリ然ルニ元來人命救助者ノ褒賞ハ避難所々轄ノ縣廳ニ於テ取扱ヘキ者ト雖前陳ノ場合ニ在テハ避難所ハ乙縣ニ屬スルモ他ニ何等ノ關係モ無之却テ避難救助ノ頭末取調方差支候條右褒賞ハ丁縣ニ於テ取扱候儀ト相心得可然哉此段相伺候也

指令 何之通 十七年一月廿四日

第八章 勳章 八年四月十日 第五十四號布告

今般勳章別冊之通被定候條此旨布告候事

(別冊)

[括弧内朱字]

〔朕惟フニ凡ソ國家ニ功ヲ立テ績ヲ顯ス者宜ク之ヲ褒賞シ以テ之ニ酬ユヘシ仍テ勳等ノ賞牌典ヲ定メ人々ヲシテ寵異表彰スル所アルヲ知ラシメントス汝有司其斯旨ヲ體セヨ〕

〔明治八年二月〕

勳等賞牌

勳等ハ勳績及功勞アル者ヲ賞スル爲メニ設クル所ノ階級ニシテ位階ト異ナル故ニ各種ノ勳章ヲ佩用セシム

勳等ヲ分ツテ八級ト爲ス

勳一等

右ニ叙スル者ハ一等勳章ヲ賜フ

勳二等

右ニ叙スル者ハ二等勳章ヲ賜フ

勳三等

右ニ叙スル者ハ三等勳章ヲ賜フ

勳四等

右ニ叙スル者ハ四等勳章ヲ賜フ

勳五等

右ニ叙スル者ハ五等勳章ヲ賜フ

勳六等

右ニ叙スル者ハ六等勳章ヲ賜フ

勳七等

右ニ叙スル者ハ七等勳章ヲ賜フ

勳八等

第九編 褒章勳位恩給救助

綬幅一寸 緑白織

(圖面略之)

○叙位條例

二十年五月六日布告
勅令第十號

朕叙位條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年五月四日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第十號

叙位條例

- 第一條 凡ソ位ハ華族勅奏任官及國家ニ勳功アル者又ハ表彰スヘキ効績アル者ヲ叙ス
- 第二條 凡ソ位ハ正一位ヨリ從八位ニ至ル十六階トス
- 第三條 凡ソ位ハ從四位以上ハ勅授トシ宮内大臣之ヲ奉ス正五位以下ハ奏授トシ宮内大臣之ヲ宣ス
- 第四條 凡ソ位ハ懲戒ニ因リ返上セシムルカ又ハ刑法ニ因リ公權ヲ剝奪セラルノ外終身之ヲ有スルヲ得
- 第五條 凡ソ位ハ從四位以上ハ爵ニ准シ禮遇ヲ享ク其准例左ノ如シ

公	爵	侯	爵	伯	爵	子	爵	男	爵
從一位	正一位	從二位	正二位	從三位	正三位	從四位	正四位		

第六條 爵位ヲ併有スル者ハ高キニ從テ禮遇ヲ享ク

第九章

外國勳章佩用願規則

十八年十一月廿一日
第三十五號布告

明治十一年(六月)第拾五號布告外國勳章佩用免許願手續左ノ通改正ス

外國勳章佩用願規則

- 第一條 外國ノ勳章ヲ受領シ之ヲ佩用セントスル者ハ賞勳局總裁へ願出免許狀ヲ受ケヘシ
- 第二條 佩用願書ニハ勳章勳記其他關係書類ヲ添ヘ勅奏任官ハ直チニ賞勳局總裁へ華族ハ宮内卿判任官以下ハ本屬長官士族平民ハ管轄廳ヲ經テ賞勳局總裁へ差出スヘシ
- 第三條 外國ノ勳章ヲ佩用スル者死亡シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ遺族又ハ親戚ヨリ華族ハ宮内卿士族平民ハ管轄廳ヲ經テ賞勳局へ届出ヘシ
- 第四條 外國ノ記章從軍記章人命救助記章博覽會記章ノ類ヲ受領シ之ヲ佩用セントスル者ハ總テ此規則ニ準據スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○勳章等級製式及大勳位菊花章頸飾製式

二十一年一月
勅令第一號

朕各種之勳章等級製式及大勳位菊花章頸飾ノ製式ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
一寶冠章

第三類 褒章勳位恩給救助

勳一等ヨリ勳五等ニ至ル婦人ノ勳勞アル者ニ賜フ
章 寶冠ト竹櫻ノ形ヲ以テ飾ル
綬 地黃色雙線紅色

一勳一等旭日桐花大綬章

旭日大綬章ノ上級トス勳勞アル者ニ賜フ

章 旭日ト桐花ノ形ヲ以テ飾ル

綬 地紅色雙線白色

一瑞寶章

勳一等ヨリ勳八等ニ至ル勳勞アル者ニ賜フ

章 鏡珠ノ形ヲ以テ飾ル

綬 地淡藍色雙線橙黃色

一大勳位菊花章頸飾

頸飾ハ大勳位ニ叙セシ者ニ特別之ヲ賜フ

菊花菊葉ノ形ト明治二字古篆文ヲ以テ飾ル

○各種ノ勳章及大勳位菊花章頸飾ノ圖樣

明治二十一年(一月)勅令第一號各種ノ勳章及大勳位菊花章頸飾ノ圖樣左ノ如シ

各種勳章及大勳位菊花章頸飾ノ圖樣

勳一等寶冠章			同副章		
章	鈕	綬	章	鈕	綬
寶冠金地藍色佛珠其間渡紅色佛花	桐	幅二寸六分	金徑二寸二分	蝶	幅一寸二分
寶冠金地藍色佛珠其間渡紅色佛花	花紫色佛珠依葉綠色佛	織地黃雙線紅	鳳金地藍色佛珠其間渡紅色佛花	羽白色佛珠依	織地黃雙線紅
勳二等寶冠章			勳三等寶冠章		
章	鈕	綬	章	鈕	綬
寶冠金地藍色佛珠其間渡紅色佛花	牡丹	幅一寸二分	寶冠金地藍色佛珠其間渡紅色佛花	蝶	幅一寸二分
寶冠金地藍色佛珠其間渡紅色佛花	花白色佛珠依葉綠色佛	織地黃雙線紅	寶冠金地藍色佛珠其間渡紅色佛花	羽白色佛珠依	織地黃雙線紅
勳四等寶冠章			勳五等寶冠章		
章	鈕	綬	章	鈕	綬
寶冠金地藍色佛珠其間渡紅色佛花	花紫色佛珠依	幅一寸二分	寶冠金地藍色佛珠其間渡紅色佛花	杏	幅一寸二分
寶冠金地藍色佛珠其間渡紅色佛花	花紫色佛珠依	織地黃雙線紅	寶冠金地藍色佛珠其間渡紅色佛花	葉綠色佛珠依	織地黃雙線紅

勳一等旭日桐花大綬章		同副章	
章	金日章徑二寸五分 日赤色佛蘇依光線二重 紅白色佛蘇依桐花紫色 佛蘇依	章	金日章徑三寸 日赤色佛蘇依光線二重 紅白色佛蘇依桐花紫色 佛蘇依
鈕	金五七桐 花紫色佛蘇依葉綠色佛 蘇依		
綬	幅三寸五分 織地紅雙線白		
勳一等瑞寶章		勳二等瑞寶章	
章	金徑二寸二分 鏡銀地藍色佛蘇依連珠 紅白色佛蘇依金四條光線 白色佛蘇依	章	金徑一寸五分 鏡銀地藍色佛蘇依連珠 紅白色佛蘇依金四條光線 白色佛蘇依
綬	幅三寸三分 織地淡藍雙線橙黃	章	勳一等瑞寶章 副章同式
勳三等瑞寶章		勳四等瑞寶章	
章	金徑一寸八分 鏡銀地藍色佛蘇依連珠 紅白色佛蘇依金四條光線 白色佛蘇依	章	金徑一寸五分 鏡銀地藍色佛蘇依連珠 紅白色佛蘇依金四條光線 白色佛蘇依
綬	幅一寸二分 織地淡藍雙線橙黃	綬	幅一寸二分 彩花ナ付着ニ織地淡藍 雙線橙黃
勳五等瑞寶章		勳六等瑞寶章	
章	銀徑一寸五分 鏡銀地藍色佛蘇依連珠 紅白色佛蘇依金銀四條光線 白色佛蘇依	章	銀徑一寸三分 鏡銀地藍色佛蘇依連珠 紅白色佛蘇依銀四條光線 白色佛蘇依
綬	幅一寸二分 織地淡藍雙線橙黃	綬	幅一寸二分 織地淡藍雙線橙黃
勳七等瑞寶章		勳八等瑞寶章	
章	金徑一寸二分 鏡銀連珠金	章	銀徑一寸二分 鏡銀連珠銀
綬	幅一寸二分 花地淡藍雙線橙黃	綬	幅一寸二分 織地淡藍雙線橙黃

大勳位菊花章頸飾	
中央	圓形徑一寸三分 菊金葉綠色佛蘇依
連環	橢圓長徑九分
一ハ古家明ノ字一ハ治 ノ字各金一ハ菊花金葉 綠色佛蘇依	

(圖式略ス)

勳章佩用式 二十一年十一月十六日 勅令第七十六號

朕勳章佩用式ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年十一月十六日

勳令第七十六號 (官報十一月十七日)

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

勳章佩用式

第一條 大勳位菊花章

菊花章ハ頸飾ヲ以テ喉下ニ佩ヒ其副章ヲ左肋ニ佩フ大綬ヲ以テ佩フル時ハ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ハ左肋ニ佩フ

第二條 寶冠章

第三類 襲章勳位恩給救助

一 勳一等寶冠章ハ大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ
 二 勳二等寶冠章以下ハ結蝶狀ノ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第三條 旭日章
 一 勳一等旭日桐花章並旭日章ハ大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ
 二 勳二等旭日章ハ右肋ニ佩ヒ其副章ヲ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ
 三 勳三等旭日章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ
 四 勳四等勳五等勳六等旭日章勳七等勳八等桐葉章ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第四條 瑞寶章

一 勳一等瑞寶章ハ大綬ヲ以テ左肩ヨリ右脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ
 二 勳二等瑞寶章ハ右肋ニ佩フ
 三 勳三等瑞寶章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ
 四 勳四等瑞寶章以下ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ
 第五條 別種ノ勳章ハ之ヲ併佩ス其大綬章ハ之ヲ併佩セズ

勳章記章佩用心得

第一款 一等勳章ヲ有スル者更ニ別種ノ一等勳章ヲ受ケタル時ハ旭日桐花章ト旭日章トハ同後ニ受ケタル一等勳章ノ正章并ニ其副章ト前ニ受ケタル一等勳章ノ副章トヲ併佩スヘシ
明治二十二年二月七日 勳章局告示第一號

第二款 二等以下ノ勳章ヲ有スル者更ニ同種上級ノ勳章ヲ受ケタル時ハ其下級ノ勳章ヲ佩フルコトヲ止ム別種ノ同級若クハ上級ノ勳章ヲ受ケタル時ハ之ヲ併佩スヘシ

第三款 二等勳章若クハ一等ノ副章兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノノ位置ニ付テ其上位ニ列佩スヘシ

第四款 三等勳章兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノノ位置ノ上ニ佩フヘシ

第五款 四等勳章以下兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノノ位置ノ右ニ佩ヒ其從軍記章若クハ褒章ヲ有スル者ハ之ヲ勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ
 第六款 勳章ハ男子ハ大禮服及ヒ通常禮服(燕尾服)着用ノ時佩フヘシ從軍記章及ヒ褒章ヲ有スル者亦同シ
 通常禮服用ノ時ハ大綬章ヲ上衣ノ下ニ佩ヒ其副章ヲ上衣ノ上ヘ其位置ニ佩フ又大綬章ヲ胸衣ノ下襯衣ノ上ニ佩ヒ副章ヲ上衣ノ上ヘ其位置ニ佩フルコトアリ時宜ニ依リ大綬章ヲ省キ其副章ノミヲ佩フルコトアルヘシ

第七款 勳章ハ婦人ハ大中小禮服用ノ時佩フヘシ
 一等勳章ヲ有スル者大禮服ニハ大綬章及ヒ副章ヲ佩フ中小禮服ニハ時宜ニ依リ大綬章ヲ省キ副章ノミヲ佩フルコトアルヘシ又通常禮服ニハ時宜ニ依リ副章ノミヲ佩フルコトアルヘシ

第三類 褒章勳位恩給救助

二等以下ノ勳章ヲ有スル者ハ通常禮服用ノ時ニ於テモ時宜ニ依リ之ヲ佩フルコトアルヘシ

外國勳章記章

第八款 外國勳章佩用方ハ各彼ノ規則ニ依ル

第九款 我勳章ヲ有スル者我勳章ヲ佩ヒスシテ彼ノ勳章ノミヲ佩フヘカラス

第十款 彼我ノ大綬章ヲ有スル者ハ彼ノ大綬章ヲ佩ヒス之ニ属スル副章ノミヲ我副章ノ位置ノ下若クハ次ニ列佩スヘシ

但外交ノ時宜ニ依リ彼ノ大綬章及ヒ其副章ヲ佩フル時ハ我大綬章ヲ省キ我副章ハ併佩スヘシ

第十一款 彼我ノ綬ヲ用ヒサル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ下若クハ次ニ列佩スヘシ

第十二款 彼我ノ喉下ニ佩フル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ下ニ佩フヘシ

第十三款 彼我ノ左肋ニ佩フル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

第十四款 彼ノ左肋ニ佩フル勳章ヲ我從軍記章及ヒ褒章ト併佩スル時ハ我從軍記章及ヒ褒章ヲ彼ノ勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

第十五款 彼ノ記章ト我從軍記章及ヒ褒章ト併佩スル時ハ之ヲ我從軍記章及ヒ褒章ノ

位置ノ左ニ列佩スヘシ

○略章略綬佩用心得

二十二年二月十二日 賞勳局告示第二號

一各種勳章ノ略章(凡ソ徑曲尺五六分著若クハ其以下ノ大サニシテ勳章ノ形ト彩色トヲ備ヘタル略小勳章ヲ謂フ)ハ通常禮服用ノ時或ル場合

ニ於テ連鎖或ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩用スルヲ得外國勳章ノ略章モ亦同シ

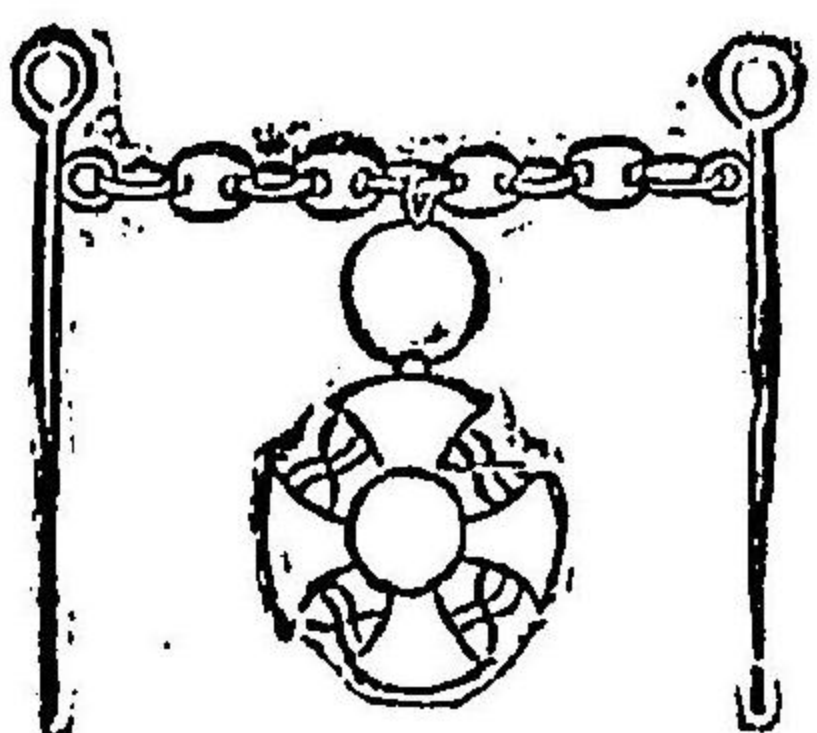
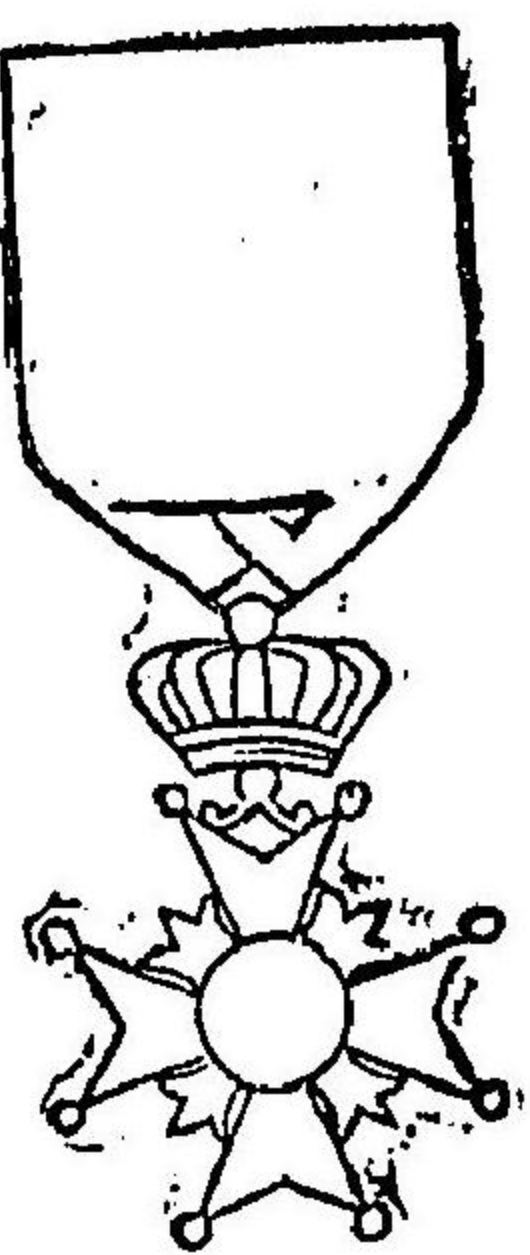
二略綬ハ通常禮服用通常服用ノ節左襟見返シノ鈕孔ニ掛ケ佩フヘシ

三略綬ハ別種二箇以上ノ勳章ヲ有スル者各其綬ト同色ナル絹ヲ以テ二箇若クハ數箇合併ノモノヲ製シ之ヲ佩用スルヲ得又内外數種ノ勳章ヲ有スル者ハ内外數箇合併ノ略綬ヲ製シ之ヲ佩用スルコトヲ得

四我略綬ヲ佩ヒテ外國ノ勳章ヲ佩フルコトナシ

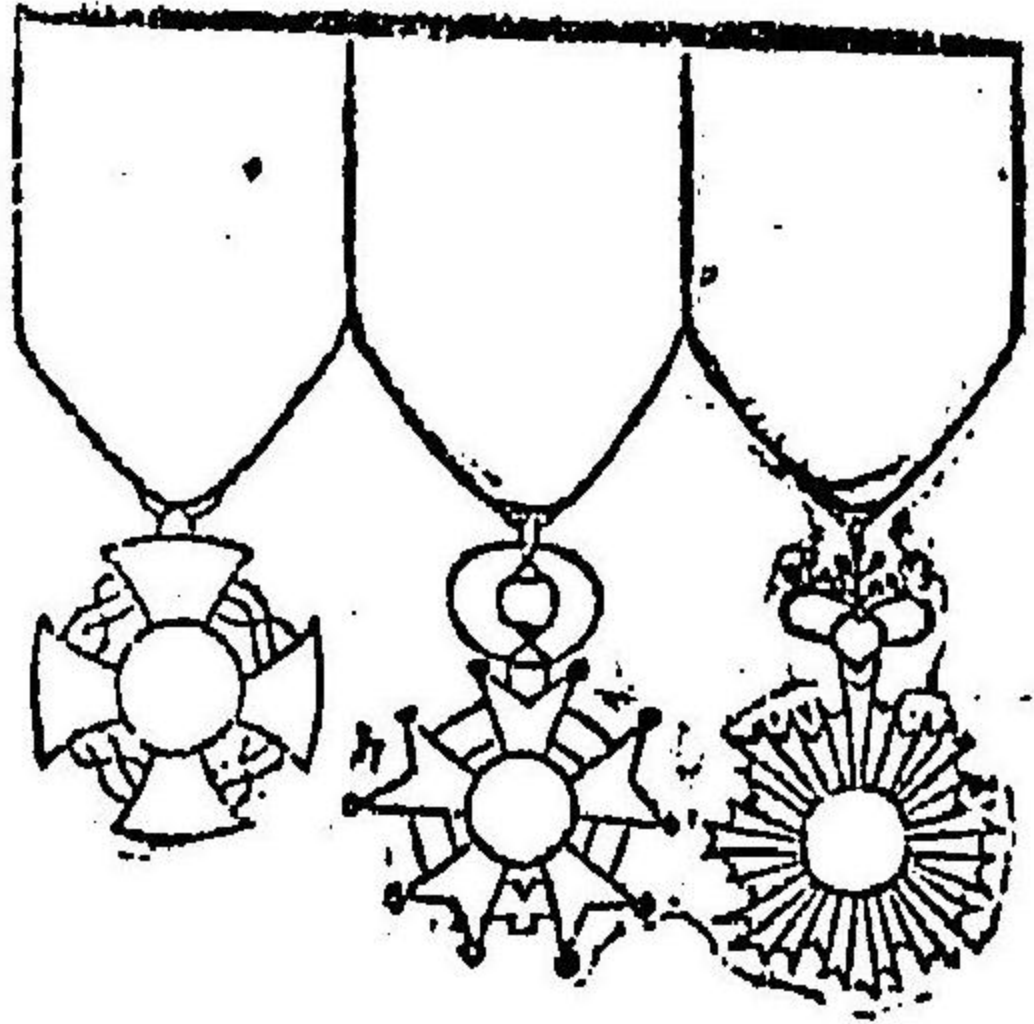
略章ヲ小綬ニテ佩ル圖

略章ヲ連鎖ニテ佩ル圖



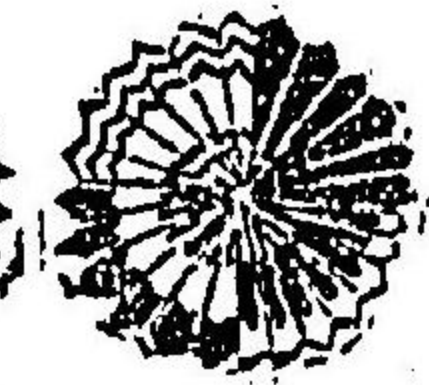
零章ヲ小綬ニテ聯佩スル圖

零章ヲ鏈鎖ニテ聯佩スル圖

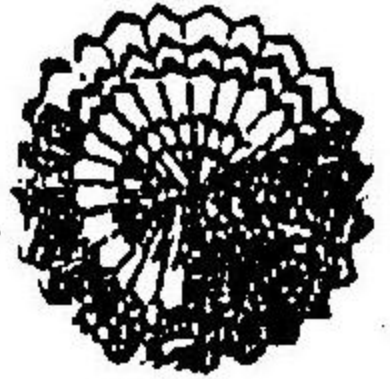


二種以上ノ零綬ヲ合併シタル□

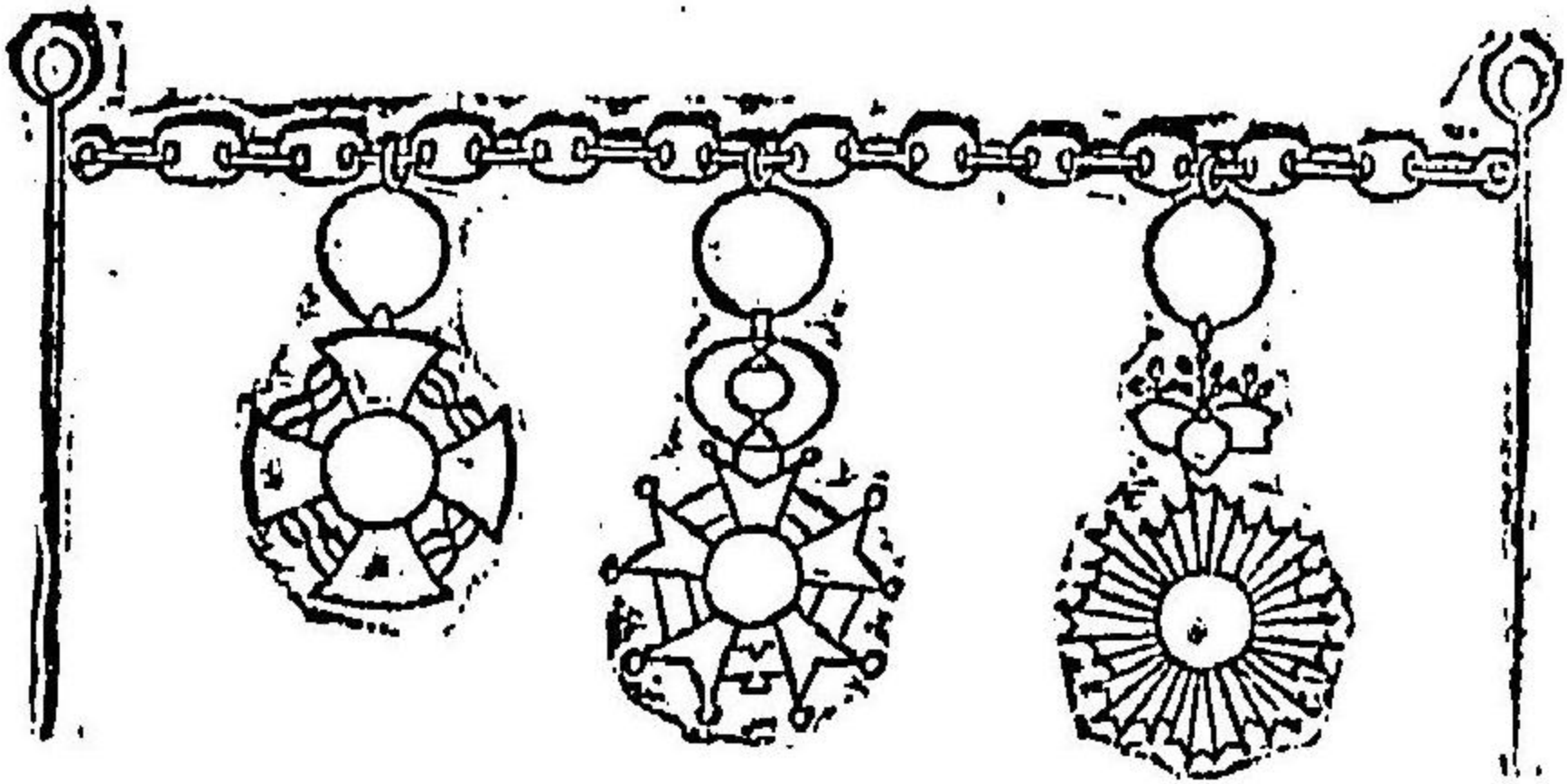
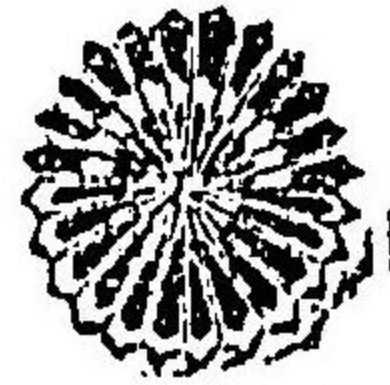
四種合併



三種合併



二種合併



第十章

勳章年金褫奪外國勳章佩用免許狀沒收

十六年六月廿九日
第十二號布告

勳章ヲ有スル者其榮譽ヲ汚辱スルノ所爲アル時ハ勳章及年金ヲ褫奪ス外國勳章ハ其佩
用免許狀ヲ沒收ス

勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留若クハ保釋費付セラレタル時ハ勳章ヲ佩用ス
ルコトヲ得ヌ又之ニ屬スル禮遇特權及年金ヲ受クルコトヲ得ヌ
右奉 勅旨布告候事

勳章年金褫奪及停止取扱手續改正ス

十九年七月一日
閣令第十九號各府廳

明治十六年(九月)第三十九號達勳章年金褫奪及停止取扱手續改正スルコト左ノ如シ
勳章年金褫奪及停止取扱手續

第一條 勳章ヲ有スル者左ノ項目ニ觸ル、トキハ榮譽ヲ汚辱シタル者トス

第一項 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者

但輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者ハ其所犯ノ情狀ニヨル

第二項 賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

第三項 懲戒例及免黜條例ニヨリ免官セラレタル者

第四項 素行修マラス帶勳者タルノ面目ヲ汚ス者

第二條 第一條第一項ニ觸ル、者輕罪ヲ犯シタル者ナルトキハ裁判確定ノ後裁判管轄
長官ヨリ司法大臣又ハ陸海軍大臣ヲ經由シテ宣告書寫ヲ添ヘ其旨ヲ賞勳局總裁ヘ具

第三類 褒章勳位恩給救助

申スヘシ其重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ普通刑法第三十一條第三十二條陸軍刑法第二十八條第二十九條海軍刑法第十七條ニ依リ處分ス

第三條 第一條第二項第三項第四項ニ觸ル、者アルトキハ所轄長官又ハ地方官ヨリ其情狀ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第四條 賞勳局總裁ハ其具申ヲ審査シ重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ直ニ上奏シ其輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ第一條第二項第三項第四項ニ觸ル、者ハ鑑定官ノ會議ニ於テ其褫奪ノ當否ヲ論定シ褫奪スヘキ者ハ奏請ス

第五條 褫奪ノ裁可アリタルトキハ賞勳局總裁ハ褫奪狀ヲ作り褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヲ經由シテ本人ヘ傳達セシム

第六條 褫奪ニ及ハサルトキハ賞勳局總裁ヨリ褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヘ通知スヘシ

第七條 勳位進級セシ者ナルトキハ前級ノ勳章勳記ヲモ褫奪スヘシ年金票モ亦同シ

第八條 褫奪シタル勳章勳記年金票ハ褫奪ヲ行ヒタル官廳ヨリ賞勳局ヘ還納スヘシ但其重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ係ルトキハ其宣告書寫ヲ添フヘシ

第九條 勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留セラレタルトキハ其年月日及事由ヲ裁判管轄長ヨリ司法大臣又ハ陸海軍大臣ヲ經由シテ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ但公訴權消滅シタルトキ若クハ放免ノ言渡ヲ爲シタルトキハ亦其事狀ヲ詳記シテ之ヲ申告スヘシ

第十條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ其訴ヲ受ケスト雖モ現ニ拘留セラレタルトキハ檢察官ヨ

リ前條ノ手續ニ從ヒ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

外國勳章佩用免許狀ヲ沒收スルトキモ亦總テ此手續ニ準據スヘシ

○勳章還納
朕勳章還納ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御 爾玉
明治二十二年三月二十一日 內閣總理大臣伯耆黒田清隆

勳令第三十八號
勳等進叙シ同種ノ上級勳章ヲ受ケタル者ハ其下級ノ勳章ヲ賞勳局ヘ還納スヘシ但勳記ハ還納スルノ限ニアラス

○勳章還納手續
勳章還納手續ヲ定ムルコト左ノ如シ
勳令第三十八號
閣令第九號
二十二年三月二十一日

勳章還納手續
第一條 同種上級ノ勳章ヲ授與セラレタル者ハ一週間以内ニ其下級ノ勳章ヲ賞勳局ヘ還納スヘシ

第二條 同種上級ノ勳章ヲ賞勳局ノ送達ニヨリ受領シタル者ハ直ニ其領票ト共ニ下級ノ勳章ヲ同局ヘ差出スヘシ

官廳ヲ經テ受領シタル者ハ其官廳ヘ差出シ官廳ハ之ヲ賞勳局ヘ送付スヘシ

第三條 外國人ノ勳等進級シ同種上級勳章ヲ受ケタル者モ亦此手續ニ從ヒ下級ノ勳章ヲ還納スヘシ其外國ニ在ル者ハ最寄我公使館又ハ領事館ヘ差出スヘシ

第四條 公使館又ハ領事館ニ於テ前條勳章ヲ領收シタルトキハ外務省ヘ送付シ同省ハ之ヲ賞勳局ヘ送付スヘシ

第五條 勳章還納ニ關スル費用ハ受章者ノ自辨トス又官廳ヨリ賞勳局ヘ送付スルモノハ其官廳ニ於テ支辨スヘシ

附則

一從前同種勳章ニ進叙シタル者ハ東京ハ二週間以內各地方ハ三十日以內ニ下級ノ勳章ヲ還納スヘシ我國在留ノ外國人亦同シ其外國ニ在ル者ハ手續第五條ニ依ルヘシ但進級者既ニ死亡シタルトキハ本文ノ限ニアラス

第十一章 官吏恩給令

十七年一月四日
第一號官省院廳府縣へ達

官吏恩給令左ノ通相定候條此旨相達候事
官吏恩給令

第一條 官吏恩給ハ文官勅任官奏任官判任官其本官奉職ノ年數及ヒ其年齡ニ依リ退官後之ヲ支給ス但出仕ハ本文ニ準ス

第二條 恩給ハ官吏滿十五年以上奉職シ年齡六十歳ニ至リテ退官ヲ許シタル者又ハ年齡六十歳ニ至ラスト雖モ滿十五年以上奉職シタル後廢官廢職若クハ不治ノ疾病ニ罹

リ其職ニ堪ヘサル確證アル者ニ終身之ヲ給ス

大臣(參議各省卿)元老院議長(參事院議長)ハ滿二年以上奉職シタルノ後退官スル時ハ特旨ヲ以テ終身恩給ヲ支給スルコトアル可シ

第三條 在職滿十五年以內ト雖モ公務ニ依リ不治ノ病ニ罹リ又ハ重傷ヲ負ヒ其職ニ堪ヘス退官セシメタル者亦終身恩給ヲ支給ス

第四條 公務ニ依リ重傷ヲ負ヒ若クハ不治ノ病ニ罹リ開業醫ノ診斷書ヲ具ヘテ其職ニ堪ヘサル旨ヲ證明スルコトヲ得ル時ハ其退官ヲ許シ在職年數ニ拘ハラズ終身恩給ヲ支給ス

第三條及ヒ前項ノ場合ニ於テ盲聾或ハ一肢以上ノ用ヲ失ヒ不治ノ症ニ罹リタル者ハ其退官ヲ命シタルト又ハ退官ヲ許シタルトニ拘ハラズ其情狀ニ依リ特旨ヲ以テ現官相當恩給ノ外ニ猶其最下金額十分ノ七迄ヲ増給スルコトアル可シ

開業醫ノ診斷書ニ就キ疑フヘキモノアルトキハ本屬長官ハ更ニ醫員ヲ派遣シ其診斷ニ依リ事實ノ當否ヲ判定ス可シ

第五條 恩給ハ退官現時ノ俸額ニ依ル其給額ハ奉職滿十五年ニシテ俸給年額ノ四分ノ一即チ二百四十分ノ六十トシ爾後滿一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿三十五年ニ至リ二百四十分ノ八十即チ俸給年額ノ三分ノ一ニ至ツテ止ム但非職中退官スル者ト雖モ恩給ハ在職俸給ノ年額ニ照シテ之ヲ支給ス

第三類 褒章勳位恩給救助

第二條ノ第二項并ニ第三條第四條ニ掲クル所ノ十五年未滿ノ奉職者ニ恩給ヲ支給スルコトアルトキハ其給額ハ俸給年額二百四十分ノ六十二當ルノ額ヲ以テス

進級後一年未滿ニシテ退官シタル者ハ前官ノ俸給ニ依リ恩給ヲ支給ス但公務ニ起因スル傷病疾病ノ爲メ退官シタル者ハ此限ニ在ラス

第六條 奉職滿十五年ニ超ル者ト雖モ年齢未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退官ヲ請フ者又ハ服務紀律ニ違ヒタル者ノ諭旨退官及ヒ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官セシ者ハ恩給ヲ支給セス

第七條 奉職年數ノ計算ハ明治四年八月ヨリ起算ス其以後任官ノ者ハ其拜命ノ日ヨリ起算ス但年齢二十歳未滿ノ奉職年數ハ算入セス

明治四年八月以前ヨリ奉職シタル者ハ明治四年七月ノ現官等ニ對スル月俸ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一個年ニ當テ其年數ニ應スルノ金額ヲ以テ別ニ一時賜金トシテ給與ス十七年第三十五號達ヲ以テ(金額ヲ以テテ)ノ下(恩給支給ノ際)ノ六字ヲ刪ル

第八條 武官ヨリ文官ニ轉シ若クハ退官後再ヒ任官シタル者ハ前官後官ノ奉職年數ヲ通算ス但御用滯在中ノ年月及ヒ嘗テ滿年賜金若クハ退官一時賜金ヲ受ケタル者ノ前官年數ハ算入セス

第九條 恩給ヲ受ケル者再ヒ官ニ就キ爾後退官ノ節其俸額前官ヨリ少キトキハ仍ホ前官ノ俸額ニ依リ恩給ヲ支給ス

第十條 勅授任官奉職中既ニ恩給ヲ受ケ可キ期ニ至リタル者及ヒ其退官恩給ヲ受ケル者死去セシトキ又ハ其期ニ至ラスト雖モ公務ニ依リ死去セシトキハ其情狀ニ依リ特旨ヲ以テ其寡婦ニ扶助料トシテ死者生存中ノ恩給年額四分ノ二以內ヲ終身支給スルコトアル可シ寡婦ナケレハ其繼嗣ノ孤兒男女并ニ實子養子ヲ問ハス滿二十歳ニ至ル迄之ヲ給スルコトアル可シ但寡婦ハ其本夫ノ在官中ニ入籍シタル者ニ限ル

判任官ハ公務ニ依リ死去セシトキニ限り其情狀ニ依リ特旨ヲ以テ本條及第十二條第十三條第十四條ニ準スルコトアルヘシ但其扶助料ハ轉給セス十八年七月第四十一號達ヲ以テ本項ヲ改正ス

第十一條 寡婦復籍若クハ再嫁シ又ハ死去シタルトキハ其扶助料ハ更ニ繼嗣ノ孤兒十歳未滿ニ給スノ者ニ給ス

扶助料ヲ受ケル孤兒既ニ嫁娶シ若クハ官廳ヘ奉職シ俸給ヲ受ケ又ハ諸官立學校ノ官費生徒ニ爲リタルトキハ其扶助料ヲ給セス

第十二條 扶助料ヲ受ケ可キ寡婦孤兒ナク又ハ扶助料ヲ受ケタル寡婦復籍若クハ再嫁シテ孤兒ナク尙ホ從來死者ニ依リテ生活セル父母又ハ祖父母アリテ他ニ之ヲ奉養スルノ子孫ナキトキハ其情狀ニ依リ特旨ヲ以テ寡婦ニ相當セル扶助料三分ノ二以內ヲ終身支給スルコトアル可シ

第十三條 其扶助料ハ父母祖父母共ニ存在スルトキハ先ツ之ヲ父ニ給シ其父死没若ク

ハ其恩典ヲ失フコトアレハ轉シテ之ヲ母ニ給ス以下其母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ順次此例ニ依リ之ヲ轉給ス可シ但父及ヒ祖父ハ年齡五十歳以上其未滿ハ癡疾又ハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者母又及祖母ハ夫ナキ者孰レモ本人死歿ノ際年齡五十歳以上ニシテ其戶籍ニ在リシ者ニ限ル

第十四條 扶助料ヲ受ク可キ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ從來死者ニ依リ生活セ
ル二十歳未滿又ハ二十歳以上ト雖モ癡疾不具ノ兄弟姉妹アリテ之ヲ救育スルノ親族
ナキ者ハ其情狀ニ依リ特旨ヲ以テ寡婦ニ相當セル扶助料一箇年分ヨリ少カラス五箇
年分ヨリ多カラス額ヲ一時限リ支給スルコトアル可シ

第十五條 恩給ハ在官者退官ノ翌月ヨリ支給ス扶助料ハ恩給ヲ受ケ又ハ受ク可キ者死
去ノ翌月ヨリ支給ス其轉給スル者亦同シ

第十六條 恩給及ヒ扶助料ノ給否ハ本屬長官若クハ其所管地方長官ノ證明ニ依リ恩給
局ノ審査ヲ經テ太政大臣之ヲ裁定ス

恩給及ヒ扶助料ノ給與ニ關シ若シ穩當ナラサル處アルコトヲ覺知シタル者ハ之ヲ其
本屬長官若クハ地方長官ニ請願シ而シテ猶ホ穩當ノ指令ヲ得サルトキハ本人ヨリ直
ニ之ヲ太政官恩給局ニ請願スルコトヲ得但之ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ許サス

第十七條 恩給若クハ扶助料ヲ給スル本人ニハ太政官ヨリ其證書ヲ下付ス
第十八條 恩給ヲ受クル者公權ヲ剝奪セラレタルトキハ至ク之ヲ止メ又左ノ各項ニ該
ルトキハ其時間ノミ之ヲ停ム

一 公權ヲ停止セラレタル時

二 再ヒ官ニ就キ俸給ヲ受クル時

三 事故アリテ日本人タルノ分限ヲ失フ時

四 政府ノ許可ナクシテ日本國外ニ出タル時

第十九條 扶助料ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラルトキ又ハ第十八條ノ第三項若
クハ第四項ニ該ルトキハ之ヲ止ム

第二十條 恩給ヲ支給ス可キ退官者アルトキハ本屬長官ハ本人ノ履歷書其傷疾疾病ニ
起因スルモノハ其證書ヲ具シ且事實ヲ證明シテ之ヲ太政官へ進達シ以テ恩給ノ下付
ヲ請求ス可シ

第二十一條 扶助料ヲ願ハントスル者ハ本人主名ヲ以テ親族二名 後見人アレハ其親族ナ
キトキハ同郷ノ戶主二名連署セシ願書ニ其戶籍ノ寫ノ恩給若クハ扶助料給與ノ證書アル者ハ其證書 又公務ニ依リ
死亡セル者ハ其原因症候等照査ニ供ス可キ證據書ヲ添ヘ之ヲ所管地方廳ニ出願ス可
シ地方長官ハ其事實ヲ證明シテ之ヲ太政官ニ進達シ以テ扶助料ノ下付ヲ請求ス可シ
但一箇年經過ノ後出願スル者ハ之ヲ受理セス

第二十二條 恩給若クハ扶助料ノ支給ヲ止ムルトキハ恩給局ヨリ所管地方廳ニ達シ二
週日以内ニ其給與ノ證書ヲ收メシム又恩給若クハ扶助料ヲ受クル者死去又ハ除籍シ
扶助料ヲ繼受スル者ナキトキハ遺族若クハ親族ヨリ其死亡又ハ除籍ノ證書ヲ添ヘ一
箇月以内ニ之ヲ所管地方廳ニ届出テ該長官ハ事由ヲ具シ其證書ト共ニ之ヲ恩給局ニ

進達ス可シ

第二十三條 恩給及ヒ扶助料ノ金額ハ毎年六月十二月ニ於テ其前半年分半年ニ滿タサルモノ八月ヲ以テ計算ス
ナ大藏省ヨリ本人所在ノ地方廳ヲ經由シテ之ヲ交付ス

第二十四條 恩給若クハ扶助料ノ金額ヲ受領セントスル者ハ其證書及ヒ本人生存證書
ヲ表證シ別ニ受領證書ヲ差出ス可シ

第二十五條 恩給若クハ扶助料ヲ受クル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスルトキハ金額
交付期月ノ三箇月前ニ其所在ノ地方廳ニ願出可シ若シ其期ヲ過クル者ハ仍ホ元所在
地ニ於テ之ヲ交付ス

第二十六條 恩給並ニ扶助料ハ一箇年以上其受領ヲ請求セサルトキハ其時間ノ金額ハ
支給セズ

第二十七條 恩給並ニ扶助料ニ關スル願書ハ郡區長戸長證書ハ戸長ノ與印ヲ要ス
第二十八條 盜難若クハ水火災災等ニテ恩給若クハ扶助料給與ノ證書ヲ失ヒタルトキハ
速ニ所管地方廳ヲ經テ恩給局ニ其旨届出可シ

第二十九條 官吏滿五年以上奉職ノ者十一年未滿ニシテ退官セシ時ハ現俸給三ヶ月分
ヲ給シ其滿十一年以上十五年未滿ニシテ同上ノ者ニハ現俸給四ヶ月分ヲ給ス但恩給
ヲ受ル者并ニ自己ノ便宜ニ依リ退官ヲ請フ者又ハ服務紀律ニ違ヒタル者ノ諭旨退官
及懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官セシ者ニハ總テ之ヲ給セス同上達ヲ以テ本
條以下ヲ追加ス

第三十條 官吏在官中死去ノ者ハ現俸給三ヶ月分ヲ給ス

○官吏恩給令附則

明治十八年三月廿七日
太政官第十五號

官省院廳府縣

○大政官第拾五號

官吏恩給令附則左之通相定候條此旨相達候事

官吏恩給令附則

第一條 本令第二條第三條及第四條ニ該ル者退官スルキハ同時ニ其恩給願書第一及證
書式及證
據書類ヲ本局長官ニ差出スヘシ但廢官廢職ニ係ル者ハ其事務ノ引繼ヲ受ケタル長官
ニ之ヲ差出スヘシ

第二條 本令第十條第十一條第十二條第十三條及ヒ第十四條ニ該ル者ハ其扶助料願書第二
書式及證
據書類ヲ本籍地方長官ニ差出スヘシ

第三條 恩給願書若クハ扶助料願書ヲ受領セシ長官ハ查服ノ上轉給願書ヲ除クノ外其
計算書第三
書式ヲ製シ本令第二十條ニ據リ該書ヲ大政官ニ進達スヘシ

第四條 恩給願書ニ添フヘキ證據書類ハ左ノ如シ

- 一 履歷書
 - 二 戶籍寫
 - 三 診斷書頁邊若クハ福
病者ニ要ス
 - 四 見證證書第四
書式 公務ニ依リ負傷
シタル者ニ要ス
- 第五條 本令第四條ニ掲グル最下金額十分ノ七迄ノ増給差等ハ左ノ如シ
- 一 二肢ヲ亡シ或ハ兩眼ヲ盲スルモノ 十分ノ七

第三類 褒章勳位恩給救助

- 二 前項ニ等シキ傷痕或ハ疾病ヲ受シモノ 十分ノ六
 - 三 一肢ヲ亡シ或ハ全ク二肢ノ用ヲ失フ者 十分ノ五
 - 四 前項ニ等シキ傷痕或ハ疾病ヲ受シ者 十分ノ四
 - 五 全ク一肢ノ用ヲ失フ者 十分ノ三
 - 六 前項ニ等シキ傷痕或ハ疾病ヲ受シモノ 十分ノ二
- 第六條 本令第三條ニ掲クル公務ニ依リ不治ノ病ニ罹リ又ハ重傷ヲ負フトハ一肢以上ノ用ヲ失ヒ或ハ失フニ等シキ者ニ限ル
- 第七條 公務ニ依リ不治ノ病ニ罹リ又ハ重傷ヲ受ケタル者仍ホ重症ニ趨キシト左ノ期限内ニ出願スレハ査覈ノ上更ニ増加恩給ヲ下賜スヘシ
- 一 一肢ノ用ヲ失ヒ或ハ一肢ノ用ヲ失フニ等シキ者ハ二箇年
 - 二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者及之ニ等シキモノハ三箇年
- 第八條 前條ニ當該シ増加恩給ヲ願ハントスル者ハ其願書^{第五}ニ診斷書及恩給證書ヲ添ヘ之ヲ本籍地方長官ニ差出スヘシ
- 第九條 年齢六十歳未満ト雖モ滿十五年以上奉職シ服務紀律違反ノ故ニ非スシテ諭旨退官ノモノ若クハ非職期滿免官ノ者ハ本令第二條廢官廢廳ノ例ニ依ル
- 第十條 官吏滿五年以上奉職ノ後本官ヲ免シ直ニ御用掛或ハ准官吏等ニ採用ノ者ハ其際恩給或ハ本令第二十九條ノ一時賜金ヲ給セス其御用掛或ハ准官吏退職ノトキニ於

- テ前官ニ對スル恩給若クハ一時賜金ヲ下賜ス但御用掛或ハ准官吏奉職中自己ノ便宜ニ依リ其職ヲ辭スル者及服務紀律ニ違ヒ諭旨退職ノ者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免職ノ者ハ恩給或ハ一時賜金支給ノ限ニ在ラス
- 第十一條 奉職年數八月ヲ以テ計算スヘシ但退官同月内ニ再任セシモノハ其月ヲ二箇月算スルヲ得ス
- 第十二條 非職中ノ年月ハ奉職年數ニ算入スヘシ但官吏非職條例第七條ニ該ル者ニシテ非職俸ヲ受ケサルノ年月ハ之ヲ除算ス
- 第十三條 本令第七條第二項ニ掲クル月俸トハ明治四年六月東京淺草米麩ノ平均相場ニ依リ當時ノ官祿一箇月分ニ相當スル金額ヲ云フ
- 第十四條 本令第二十九條及第三十條ノ一時賜金ハ非職中退官或ハ死去スルモノト雖モ其本俸額ニ照シテ之ヲ支給ス
- 第十五條 自己ノ便宜ニ依リ退官シタル者又ハ服務紀律ニ違ヒ諭旨退官ノ者及懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官ノ者再ヒ任官スルコトアルモ其前官年數ハ之ヲ通算セ
- 第十六條 公務ニ依リ死去ノ者アルモ其事實ヲ保證シタル書面^{見証人アレハ其證書ヲ添ヘ}及履歷書又恩給ヲ受クルノ期ニ達シタルモノ死去セシトハ其履歷書ヲ本局長官ヨリ遺族ニ下付スヘシ
- 第十七條 扶助料願書ニ添フヘキ證據書類ハ左ノ如シ

- 一 死者履歷書 在官中死去シタ
ルトキニ要ス
- 二 戸籍寫
- 三 恩給證書 轉給ノト
キニ要ス
- 四 醫師ノ死亡届書若クハ檢案書 公務ニ依リ死去
シタルハニ要ス
- 五 本屬長官保證書 公務ニ依リ死去シ
タルトキニ要ス
- 第十八條 本令第十三條及第十四條ニ掲クル廢疾又ハ不具ノ者扶助料ヲ願ハントスル
并ハ前條書類ノ外仍ホ其診斷書ヲ添フヘシ
- 第十九條 本令第十條ニ掲クル恩給年額四分ノ二以内ノ差等ハ公務ニ依リ死去セシモ
ノ、寡婦ニハ四分ノ二其他ノ寡婦ニハ四分ノ一トス
- 第二十條 本令第十條ニ掲クル恩給ヲ受ケヘキ期ニ至ルトハ奉職滿十五年以上ヲ云フ
- 第二十一條 扶助料ヲ受ケタル寡婦其支給ヲ止メラル、并ハ轉シテ之ヲ繼嗣ノ孤兒ニ
給ス
- 第二十二條 扶助料ヲ受ケタル寡婦死去シテ孤兒ナク又ハ扶助料ヲ受ケタル孤兒死去
シ仍ホ其亡夫或ハ亡父ノ父母又ハ祖父母アル并ハ本令第十二條ノ例ニ依ル
- 第二十三條 本令第十三條ニ掲クル母及祖母廢疾又ハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハ
ス他ニ之ヲ奉養スル者ナキトキハ同條但書父及祖父ノ例ニ依ル
- 第二十四條 恩給或ハ扶助料ノ出願ヲ許可セシトキ恩給許可令ハ本屬長官ヲ經テ直ニ
本人ニ下付シ扶助料許可令ハ内務省ニ交付シ内務省ハ本籍地方廳ヲ經テ之ヲ本人ニ

下付ス

- 恩給證書ハ總テ内務省ニ交付シ内務省ハ本籍地方廳ヲ經テ之ヲ本人ニ下付ス
- 第二十五條 本令第十六條第二項ニ掲クル請願ノ期限ハ恩給證書受領ノ日ヨリ三箇月
トス其期限ヲ過ルモノハ受理セス
- 第二十六條 本籍地方廳ニ於テ本令第二十五條ノ出願ヲ許可シタル并ハ直チニ大藏省
ニ届出テ且本人移住ノ地方廳ニ通牒スヘシ
- 第二十七條 恩給ヲ受クル者賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルトキハ本令第
十八條第一項ニ準シ扶助料ヲ受クル者同上ノ并ハ本令第十九條ニ準ス
- 第二十八條 恩給若クハ扶助料ヲ受ケタルモノ本令第十一條第二項第十八條第三項第
四項ニ該ル并ハ其本籍地方廳ヨリ直ニ恩給局ニ届出ツヘシ
- 本令第十八條ニ掲クル再ヒ官ニ就キ俸給ヲ受クル并ハ准官吏以上ヲ云フ
- 第二十九條 恩給若クハ扶助料ヲ下賜シ又ハ其支給ヲ止メ若クハ停メタル時ハ恩給局
ヨリ之ヲ大藏省及會計検査院ニ通牒スヘシ
- 官吏恩給令附則諸書式
第一書式甲

恩給願書

某 儀
何年何月間奉職罷在候處(年齢六十歳以上ノ老體ト相成退)

第三類 褒章勳位恩給救助

△應官應免
官ノ者ハ元
官ノ名スヘシ
ナシ

官出願候ニ付御許可ノ上ハ何々相當ノ恩給下賜度證據書
類相添此段奉願候也

年月日

△

本屬長官宛

官氏名印

第一書式乙

恩給願書

何年月間奉職罷在候處何年月何日何地ニ於テ何服務
中何ニ依リ何ノ部ニ何ノ傷痕ヲ負ヒ何々爾來治療仕候得
共遂ニ何々何々退官相願候ニ付御許可ノ上ハ相當ノ恩給
(相當ノ恩給并ニ増加恩給下賜度證據書類相添此段奉願候
也

年月日

官氏名印

本屬長官宛

第二書式甲

扶助料願書

夫(父)氏名儀

明治何年月何月ヨリ恩給下賜相成居候處何年月何月間奉職罷
在候處何年月何月死亡仕候ニ付某ハ相當ノ扶助料下賜度證
據書類相添此段奉願候也

年月日

何府(縣)國郡(區)町(村)番地

何族(平民)

故何某寡婦(孤兒)

同 親族(後見人) 氏 名 印

同 親族 氏 名 印

地方長官宛 戶長 氏 名 印

郡(區)長 氏 名 印

名 印

第二書式乙

扶助料願書

何年月月間奉職罷在候處何年月何日何地ニ於テ何服務
夫(父)官某儀

第三類 褒章勳位恩給救助

中何ニ依リ何ノ部ニ何ノ傷痕ヲ負ヒ何々何年何月何日死亡仕候就テハ某ハ相當ノ扶助料下賜度證據書類相添此段奉願候也

年月日

何府(縣)國郡(區)町(村)番地

何族(平民)

故何某寡婦(孤兒)

氏

名印

同親族(後見人)

氏

名印

同親族

氏

名印

地方長官宛

戶長

氏

名印

郡(區)長

氏

名印

第二書式丙

扶助料願書

故官氏名寡婦

某 儀

明治何年何月ヨリ扶助料下賜相成居候處何年何月何日(復籍)再婚(何々)仕候ニ付更ニ某ハ扶助料轉給相成度證據書類相添此段奉願候也

年月日

何府(縣)國郡(區)町(村)番地

故何某孤兒

氏

名

同親族(后見人)

氏

名印

同親族

氏

名印

地方長官宛

戶長

氏

名印

郡(區)長

氏

名印

第三書式

恩給計算書

官氏名

明治何年何月

何年何月生

何年何箇月

何年

何月

何日

任何官

何年

何月

何日

退官

何年何箇月

明治四年八月以前ノ任官ハ四月以前ノ任官ニ記ス

第三類 褒章勳位恩給救助

陸海軍武官ヨリ文官ヲ兼任スル者(武官ニシテ文官ノ職ヲ兼スル者モ同シ)武官現役十一年以上(十一年以上ニハ從軍年ヲ合算ス)未滿ニシテ退官若クハ死亡スル時ハ陸海軍恩給令ニ依リ恩給ヲ支給シ其現役滿十五年(從軍年ヲ合算ス)以上ノ者ニハ本兼官ノ内恩給額ノ多キ方ニ就テ之ヲ支給スルトキハ官吏恩給例第五條ニ因ル

文官ノ恩給ヲ受ケ若クハ之ヲ受クヘキ權ヲ有シテ死歿シタルモノト雖モ其寡婦孤兒扶助料ハ總テ陸海軍恩給令ニ依ル
右相違候事

○年金恩給ノ支拂令達ヲ得タル後受給者轉任シ年

金恩給及扶助料ヲ受クル者受領地ヲ轉シタルト

キ交付方 十九年十二月十四日
大藏省訓令第五十八號

年金恩給諸條ノ支拂方令達ヲ得タル後受給者若シ管下隔地ヘ轉住ノ爲メ既ニ指定セシ支拂所ヨリ遠隔ナルトキ又年金恩給及扶助料ヲ受ルモノ出願期限後受領地ヲ轉シ他管下ニ轉住ノモノアルハ本年當省訓令第三十五號ニ準シ受取人ニ交付セシムルヲ得

○文官傷痍疾病等差例

明治十八年三月廿七日
太政官第十六號

官省院廳府縣

官吏恩給令附則第五條傷痍疾病等差例左ノ通相定候條右ニ據リ取調候儀ト可心得此旨相違候事

明治十八年三月廿七日

太政大臣公爵三條實美

文官傷痍疾病等差例

公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用ヲ失フニ等シキ不治ノ症トナリ官吏恩給令附則第五條ニ掲グル各項ニ該當スルモノニ等差ヲ付スルノ概子左ノ如シ

- 第一條 偏眼ヲ盲スル者至鼻ヲ失スル者ハ共ニ第五項トシ之ニ偏耳ノ官能ヲ併セ瘵スル者ハ第四項トス
- 第二條 兩耳ヲ聾スル者ハ第四項トス
- 第三條 偏眼兩耳ノ官能ヲ併セ瘵スル者(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トス
- 第四條 一眼ヲ失ヒ他ノ一眼昏昧シ儘ニ自己ノ用ヲ辨スルヲ得ル者ハ第二項トス
- 第五條 咀嚼言語ノ兩機ヲ併セ瘵スルモノハ(輕重ヲ酌量シテ)第一項或ハ第二項トス
- 第六條 咀嚼ノ用ヲ瘵スルモノハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トシ幾分ノ障礙アルモノハ第五項其輕キ者ハ第六項トス
- 第七條 精神亡失或ハ錯亂シテ常ニ看護ヲ要スルモノハ第一項トス
- 第八條 癡呆若クハ健忘症ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサルモノハ(輕重ヲ酌量シテ)第三項若クハ第五項トス
- 第九條 神經痛ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサルモノハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第十條 言語ノ機能ヲ瘵スルモノハ第三項トシ言語ノ機能ヲ妨ケラレタルモノハ(輕

重ヲ酌量シテ第五項或ハ第六項トス

第十一條 胃腸膀胱等ニ瘻管ヲ遺ス者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トス

第十二條 腸歇爾尻亞ヲ遺ス者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

第十三條 陰莖或ハ罌丸ヲ全失スルモノハ第三項トス

第十四條 陰莖ヲ半失スルモノ偏辜丸ヲ失スルモノハ共ニ第六項トス

第十五條 頸項背腰諸筋運用ヲ妨クルモノハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

第十六條 一肢ヲ失ヒ且他肢ノ用ヲ全廢スルモノハ第一項トス

第十七條 一上肢ヲ失フ者ハ肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間何レノ部位ヲ論セス第三項トス

ス

第十八條 肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間關節作用ヲ廢スルモ全肢ノ用ヲ廢スルニ至ラサルモノハ第六項トス

ルモノハ第六項トス

第十九條 一手ニ於テ四指以上ヲ失スルモノハ第四項トシ五指癒着若クハ強硬等ノ爲メニ把握採摘ノ用ヲ廢スルモノハ第五項トス

第二十條 一手ニ於テ四指或ハ五指ノ各一部ヲ失スルモ尙把握ノ用ヲ爲シ得ルモノハ第六項トス

第六項トス

第二十一條 一手ニ於テ拇指示指ヲ併セ失スル者或ハ拇指示指ヲ除キ他ノ三指ヲ失スルモノハ第六項トス

第二十二條 一下肢ヲ失スルモノハ股關節ヨリ踝關節ニ至ルノ間何レノ部位ヲ論セ

ス第三項トス

ス第三項トス

第二十三條 股關節ヨリ踝關節ニ至ル間ノ作用ヲ妨ケラレタルモノハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

テ)第五項或ハ第六項トス

第二十四條 跗骨ヨリ蹠骨ニ至ルノ部ヲ失スルモノハ何レノ部位ヲ論セス第四項トス

第二十五條 一足ニ於テ五指ヲ失スルモノハ第五項トシ第一指ヲ併セ三指ヲ失スルモノハ第六項トス

ノハ第六項トス

第二十六條 不治病ノ爲メ常ニ看護ヲ要スルモノハ(輕重ヲ酌量シテ)第一項或ハ第二項トス

項トス

第二十七條 不治病前項ヨリ輕キモ歩行スル能ハサルモノハ第三項トス

第二十八條 不治病前項ヨリ輕キモ自己ノ用辨ニ妨碍アルモノハ第四項トス

第二十九條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ヲ爲シ難キモノハ第五項トス

第三十條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ニ妨ケアルモノハ第六項トス

○恩給扶助料ヲ受ル者受領地轉換轉籍等ノ取扱順

序ヲ定ム

十八年九月二日

內務省甲第二十八號府縣へ達

陸海軍恩給令并官吏恩給令ニ依リ恩給若クハ扶助料ヲ受ル者其受領地轉換又ハ轉籍等ノ取扱順序左ノ通相定候條此旨相達候事

但明治十二年六月内務大藏兩省乙第三十號達ハ廢止ス

一 恩給若クハ扶助料ヲ受ル者成規ニ從ヒ其受領地ヲ轉換セントスルトキ現授受ノ管廳ニ於テ其願ヲ受タル節ハ開屆タル上速ニ其旨轉換先キノ管廳ヘ通知スヘシ又轉換先キ管廳ニ於テ其願ヲ受タル節ハ現授受ノ管廳ヘ照會ノ上開屆クヘシ

一 寄留地管廳ニ於テ恩給若クハ扶助料ヲ受ル者其受領ノ權利消絶(死亡者ヲ除ク)ニ至リ又ハ轉籍及改姓名等ノ如キ本人ニ異動ヲ生スルトキハ其旨直ニ本籍戸長ヨリ本管廳ヘ届出其管廳ハ之ヲ速ニ寄留地ノ管廳ヘ通知スヘシ

一 前各項ニ係ルモノハ其處分ヲ爲シタル管廳ヨリ其族籍姓名金額及開屆并異動届出ノ年月日等ヲ詳記シ速ニ内務大藏兩省ヘ届出ヘシ

一 明治八年第四十八號公達陸軍武官傷痍扶助概則并同年第四百四十八號公達海軍退隱令ニ依リ退隱料及扶助料ヲ受ル者モ右同様取扱ヘシ

第十二章 褒賞

○賞與取調書式ヲ改正ス

十八年十二月十八日 内務省甲第三十八號警視廳府縣ヘ達

明治十七年一月内務農商務兩省乙第壹號達賞與取調書式左ノ通改正候條此旨相達候事

明治何年自一月賞與施行表

事	賞	金			杯	木	金	圓	狀
		三組	一箇	三組					
褒	章								
飾	版								
三	組								
一	箇								
三	組								
一	箇								
甲	乙								
甲	乙								
甲	乙								
甲	乙								
褒	詞								

人名救助											
總行ノ者											
公益ヲ起ス者											
金毀寄附											
合箇											
計寄附金額											
總人員											
計寄附金額											
右之通候也											
年月日											
警視廳											
府知事											
令											
姓											
名											
印											

第十三章 恤救規則

明治七年十二月八日 第百六拾貳號府縣ヘ達

濟貧恤窮ハ人民相互ノ情誼ニ因テ其方法ヲ設ヘキ等ニ候得共目下難差置無告ノ窮民ハ自今各地ノ遠近ニヨリ五十日以内ノ分左ノ規則ニ照シ取計置委曲内務省ヘ可伺出此旨相達候事

恤救規則

一 極貧ノ者獨身ニテ癡疾ニ罹リ産業ヲ營ム能ハサル者ニハ一ヶ年米一石八斗ノ積ヲ以

テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖凡餘ノ家人七十一年以上十五年以下ニテ其身癡疾ニ罹リ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一同獨身ニテ七十一年以上ノ者重病或ハ老衰シテ産業ヲ營ム能ハサル者ニハ一ケ年米一石八斗ノ積ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖凡餘ノ家人七十一年以上十五年以下ニテ其身重病或ハ老衰シテ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一同獨身ニシテ疾病ニ罹リ産業ヲ營ム能ハサル者ニハ一日米男ハ三合 女ハ二合ノ割ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖凡餘ノ家人七十一年以上十五年以下ニテ其身病ニ罹リ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一同獨身ニテ十三年以下ノ者ニハ一ケ年米七斗ノ積ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖凡餘ノ家人七十一年以上十五年以下ニテ其身窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一救助米ハ該地前月ノ下米相場ヲ以テ石代下ケ渡スヘキ事

○三子出產困窮ニシテ孳養行届兼候向養育料給與

方

明治六年三月三日 第七拾九號附拓使府縣へ題 三子出產ノ者其家困窮ニテ孳養行届兼候向ハ以來養育料トシテ一時金五圓給與致シ候

間地方官ニ於テ速ニ施行致シ追テ請取方大藏省へ可申出候事

○救助筋申請ノ砌調査稟議箇條

明治八年七月三日 内務省乙第八拾五號府縣へ題

窮民恤救ノ儀ニ付テハ昨七年第百六十二號ヲ以テ御達ノ趣モ有之候處爾後右等ノ者共救助筋申請ノ砌ハ左ノ箇條ニ照シ篤ト調査ノ上可伺出此旨心得トシテ相達候事

第一條 恤救規則ニヨル可キモノハ獨身老幼癡疾疾病等ニテ何等ノ業モ爲ス能ハス事

實赤貧ニシテ曾テ他ニ保育スル者モ無之至ク無告ノ窮民而已ニ限ルヘシ然ルニ唯年齡癡疾等ノ名義ニヨリ救助伺出ツル等ノ儀コレアリテハ恤救規則ノ趣旨ニモ乖戾可致ニ付假令七十一年以上又ハ癡疾ノ者タリ凡其業ニヨリテハ生産ノ道可相立者ナシト

セサレハ篤ト現場ノ實況ヲ査定シ具ニ不得已者而已具狀イタスヘシ

第二條 同上ヨリ是迄其市村内或ハ隣保ノ情誼ニヨリ互ニ協救仕來ル如キハ別段官ノ給與ヲ乞ハサルヲ以テ本旨トスヘシ

第三條 同上ニヨリ互ニ協救スルト雖若シ其手當不足ニシテ其内幾分ヲ官ヨリ仰カサレハ補助スル能ハサル等ノ如キハ其幾分救助ノ次第及ヒ石數金員ニ至ル迄詳悉記載申出ヘシ

第四條 同上ニヨリ十三年以上七十年以下ノ者疾病中救助米賜ルト雖至快ノ期ヲ篤ト調査シ在薄支給等無之様注意イタスヘシ

第五條 同上ニヨリ疾病或ハ病者トノミ記載申請ノ向モ有之候得共爾後左ノ雛形ニ準シ詳悉記載別紙ニ製シ具申イタスヘシ

第三類 褒章勳位恩給救助

但規則勝書ニコレアル餘ノ家人アテハ本文雛形ニ記載スル本人名前ノ左傍ニ委許書記スヘシ

第六條 同上ニヨリ五十日以内給與シ申請ノ節何月幾日ヨリ何日分ト記載伺出ヘシ

第七條 同上ニヨリ伺濟ノ上其石割ヲ以給與セシムルハ勿論ナレト雖ハ一ヶ年一石八斗ヲ目途ニ立テ其以内ヲ以足レリトスルカ如キハ其數量實地至當ニ斟酌シ適宜ノ處分ハ不苦候間其旨精細具狀イタスヘシ

第八條 老幼癩疾疾病等ニテ獨身ニ非スト雖餘ノ家人七十年以下十五年以下タレハ本人ノミヘ獨身ニ準シ給與スヘキ成規ノ處若シ餘ノ家人癩疾疾病老幼ニテ事實難捨置情故アラハ其者共ヘモ救助セシムルヲモアルヘキニ付其旨趣ヲ以テ具狀スヘシ併シ右様ノ場合ニタイテ一家數人ノ救助ニ及フトキハ各自給與ヲ致サストモ其適度ニ斟酌シ可成丈減省ヲ見込ニ伺出可シ
(名簿雛形畧之)

○士族平民ヲ論セス救助施行方

從來有祿士族之儀ハ平民同一之救助不相成規ニ候處先般第二十號ヲ以テ金祿公債証書書入質入質買不苦旨公達相成候ニ付テハ向後士族平民ヲ論セス疎寡孤獨癩疾等之者ハ明治七年第百六十二號同八年第百二拾二號公達ニ照準夫々救助施行候儀ト可相心得此旨相達候事

○棄兒養育米被下方

明治四年六月二十日 從來棄兒教育ノ儀所預リノ分ハ養育米被下方受人有之分ハ不被下方候處自今預リ賞受ニ

不抱棄兒當歳ヨリ十五歳迄年々米七斗ツ、被下方候間實意養育可致事

○棄兒養育米被下方年限及年齢見定方

明治六年四月二十五日 棄兒養育米ノ儀辛未六月月中相達候通十五歳迄年々米七斗宛下渡候處自今滿十三年ヲ限リ被下方候條生年月日見定ノ儀ハ其所戶長等立合身體骨格等篤ト検査シ本年第三十六號布告ニ照シ年齢相定候様可致事同第三十四號布告ヲ以テ但書取消ニ依リ除ク

○棄兒養育米全月未滿端日數ノ分支給方

明治九年六月十七日 年額月額有之御手當金渡方ノ儀ニ付テハ明治七年月第十五號公達ノ趣モ有之候處棄兒養育米ノ儀ハ來ル七月一日ヨリ至月未滿端日數ノ分ハ日割ヲ以支給可致此旨相達候事但病死等ノ節渡過相成候分ハ明治八年四月兩省乙第六十三號違但書ノ通可相心得事

○寄留人へ養育米下渡方

明治十年五月十四日 棄兒養育致候寄留人へ養育米渡方ノ儀自今寄留中ハ其寄留地ノ管轄廳ヨリ可下渡此旨相達候事

○恤救米及棄兒養育米等石代金下渡方

八年四月二十九日 昨七年十二月中第百六十二號公布恤救米及棄兒養育米等都テ石代金下渡方ノ儀各廳ニ於テ本人共ヘハ三ヶ月分ヲ取束子其初月ニ后チノ兩月ヲ括シ渡方取計且疾病等ニテ日當給米ノ分ハ凡一ヶ月分ヲ其月初ノニ繰上ケ相渡候儀ハ不苦候條概算ヲ以支給シ尤本

八年第百廿三號
號通ハ十三
年第三十一
號布告ヲ以
テ廢ス

六年第百三十
號布告ハ十
六號計原方
ナリ(第七
十一號)

八年乙第
十三號省
但書ヲ以
テ
但書等ノ
恤救米及
棄兒養育
米等ノ
及分返納
ス

第二項 扶助料ヲ受ケタル者ヲ官廳ニ採用シ俸給ヲ支給シタルトキ

第三項 恩給ヲ受ケタル者ノ公權ヲ剝奪シ若シクハ停止シタルトキ

第四項 扶助料ヲ受ケタル者禁錮以上ノ刑ニ該リタルトキ

第五項 恩給若クハ扶助料ヲ受ケタルモノヲ賭博犯處分規則ニ依リ懲罰シタルトキ

第六項 恩給ヲ受ケタル者其在職中ノ行爲ニ因リ陸海軍將校免黜條例ニ依リ免官シタルトキ

第七項 官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ受ケタル者ヲ官費生徒トナシタルトキ

第五條 前條ノ場合ニ於テ大藏省ニ通知スルトキハ左ノ諸件ヲ具フヘシ

一 本人ノ族籍官氏名

一 恩給扶助料退還料等ヲ交付スル官廳名

一 一任補罷免若クハ官費生徒トナシタル年月日

一 就職ノ月日任補ノ月日ト違フトキハ其月日

一 第三項第四項第五項ニ該ルモノハ宣告文ノ寫其言渡ヲナシタル年月日

第四類 府縣會及區町村會郡區町村

第十四章 府縣會規則

明治十三年四月八日 第五號 府令

明治十一年(七月)第十八號布告府縣會規則左ノ通改正候條此旨布告候事

第一章 總則

第一條 府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス

第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ別ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナシ臨時ニ開ク者ヲ臨時會トナス

第三條 通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事縣令ヨリ之ヲ發ス

第四條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限り其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス

第五條 府縣會ノ議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事縣令其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ其事由ヲ內務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ府知事縣令ハ時宜ニ依リ之ヲ再議ニ付スルヲ得再議ノ後猶其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ內務卿ノ指揮ヲ請フコト前項ニ同シ

十四年第四號 布告ヲ以テ本項ヲ追加ス

第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書

ヲ受ケ府知事縣令ニ説明ヲ求ムルコトヲ得若シ異見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ直チ

ニ內務大藏兩卿ニ上申スルコトヲ得

出納決算ノ報告書ニ付府縣會ヨリ説明ヲ求ムルトキハ府知事縣令若クハ其代理人之

ヲ説明スヘシ十五年第六十八號布告
ヲ以テ本項ヲ追加ス

第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付建議ヲナサントスル者アラハ先ツ議會ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ直チニ内務卿ニ建議シ又ハ府知事縣令ニ建議スルヲ得

但臨時會ニ於テハ其會議ヲ要シタル事件ニ限り建議スルヲ得十五年第十號布告ヲ以テ全條但書共改正ス
第八條 府縣會ハ府知事縣令ヨリ其府縣内ニ施行スヘキ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ議ス

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得府縣會ハ議員ノ内招集ニ應セス又ハ事故ヲ告ケスシテ參會セサル者ヲ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得
府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フコトアルトキハ雙方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フヘシ此場合ニ於テ府知事縣令ハ其議事若クハ會議ヲ中止スルコトヲ得十四年第四號布告ヲ以テ本項ヲ追加ス

第二章 撰舉

第十條 府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ撰フ
每郡區議員定數ノ外補缺員トシテ十人以下ヲ増撰スルヲ得十五年第十號布告本項追加
第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ之ヲ府知事縣令ニ報告シ府知事縣令ハ之ヲ

内務卿ニ報告スヘシ

議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナシ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 書記ハ議長之ヲ選ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中ヨリ之ヲ支辨ス
第十三條 府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歳以上ノ男子ニシテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租拾圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各款ニ觸ル、者ハ議員タルコトヲ得ス

第一款 風癩白痴ノ者
第二款 舊法ニ依リ一年以上懲役國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經サル者新法ニ依リ公權ヲ剝奪及停止セラレタル者又ハ一年以上輕重禁錮ノ刑ニ處セラレ主刑滿期後五年ヲ經サル者十五年第十號布告本款改正

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者
第四款 官吏教導職及陸海軍諸卒現役ノ者同上

第五款 府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者
第十四條 議員ヲ撰舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ本籍ヲ定メ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ

但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ル、者及陸海軍軍人現役ノ者ハ撰舉人タルコトヲ得ス同上但書改正

第四類 府縣會及區町村會郡區町村

第十七號布告第十條
以テ改正ス

第十五條 議員ヲ撰舉セントスルトキハ府知事縣令ヨリ某月間ニ撰舉會ヲ開クヘキ旨ヲ布令シ郡區長ハ豫メ撰舉ノ投票ヲ爲スヘキ日ヲ定メ少クモ十五日前ニ之ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第十六條 撰舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ撰舉會中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ撰舉會ヲ開クコトヲ得

第十七條 撰舉人ハ豫メ郡區長ヨリ付與シタル投票用紙ニ自己及ヒ被撰人ノ住所姓名ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ出スヘシ其投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當撰人トシ同數ナラハ年長ヲ取り同年ナラハ闊ヲ以テ之ヲ定ム

但投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ケナシ

第十八條 投票終ルノ後郡區長ハ撰舉人名簿ニ就テ投票ノ當否ヲ查シ又被撰人名簿ニ就テ當撰人ノ當否ヲ查ス若シ法ニ於テ不適當ナル者アルカ或ハ當撰人自ラ其撰ヲ辭スルトキハ順次投票ノ多數ヲ得タル者ヲ取ル

第十九條 當撰人ノ當否ヲ査定スルノ后郡區長ハ其當撰人ヲ郡區廳ニ呼出シ當撰狀ヲ渡シ當撰人ハ請書ヲ出スヘシ

但當撰人各請書ヲ出シタル后郡區長ハ其姓名等ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第二十條 一人ニシテ數郡區ノ撰ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第二十一條 議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス第一回二年期ノ改撰ヲ

爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ公撰スヘシ

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得

第二十四條 議員中第十三條ニ掲グル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉籍スルカ其他總テ欠員アルトキハ更ニ之ニ代ル者ヲ撰舉ス(同上)(轉住)(轉籍)

但補缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ取り尙缺員アルトキハ本條未文ノ手續ニ據ル(同上但書追加)

第三章 議則

第二十五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナル并ハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十七條 府知事縣令若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ辨明スルヲ得但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但府知事縣令ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

第二十九條 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レモ人身上ニ付テ褻貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察

官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章 開閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度十一月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事縣令ヨリ之ヲ命ス會期ハ三十日以内トス但區部郡都會ヲ開ク地方ニ於テハ七日以内延期スルコトヲ得十五年第六十八號布告ヲ以テ全條ヲ改正シ十七年第八號布告ヲ以テ更ニ(毎年一度)ノ下(三月)ヲ(十一月)ト改メ十八年一月ヨリ施行セシム

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルトキ府知事縣令ハ臨時會ヲ開クコトヲ得其會期ハ七日以内トス但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ內務卿ニ報告スヘシ同上

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ府知事縣令ハ會議ヲ中止セシメ內務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ議決シ終ラサルトキハ府知事縣令ハ更ニ其議定ヲ要セス內務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得十四年第四號布告ヲ以テ本項ヲ追加シ十五年第六十八號布告ヲ以テ全條改正

議員招集ニ應セサル者半數ヲ過キ議會ヲ開クヲ得サルコトアルトキハ府知事縣令ハ其事由ヲ內務卿ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ十四年第四號布告ヲ以テ本項ヲ追加ス

第一項ノ場合ニ於テ內務卿ハ府縣會ヲ停止スルコトヲ得而シテ更ニ開會ヲ命スル迄ノ間ハ府知事縣令ニ於テ地方稅ノ經費豫算及徵收方法ヲ定メ內務卿ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得十五年第六十八號布告ヲ以テ本項ヲ追加ス

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ內務卿ハ何レノトキヲ問ハス議員ノ解散ヲ命スルコトヲ得十四年第四號布告ヲ以テ前項ノ場合ニ於テ前議員ノ未タ議定セサル議案アルトキハ後任議員ヲシテ之ヲ議定セシムヘシ同上本項追加

第三十五條 內務卿ヨリ解散ヲ命シタルトキハ其解散ヲ命シタル日ヨリ九十日以内ニ更ニ議員ヲ改撰スヘシ

第五章 常置委員以下三十四年第四十九號布告ヲ以テ追加
第三十六條 府縣會ハ其議員中五人以上七人以下ノ常置委員ヲ選任スヘシ

常置委員定數ノ外數名ヲ增選シ缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ補充スルヲ得十五年第十號布告ヲ以テ本項及次項ヲ追加ス
區部會郡都會ヲ開設シタル府縣ニ在テハ郡區各部ニ之ヲ選任スヘシ

第三十七條 常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法順序及豫備費ノ支出ニ付府知事縣令ヨリ諮問アルトキハ其意見ヲ述ブ

常置委員ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ其經費ノ豫算及徵收方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得十五年第六十八號布告ヲ以テ全條改正
第三十八條 常置委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會議ニ於テ議決シタル事件ノ要領ヲ報告シ且通常會ト臨時會トヲ論セス府知事縣令ヨリ發スヘキ議案ヲ前以テ請取リ會議ニ向テ其意見ヲ報告スヘシ

第三十九條 常置委員會議所ハ府縣廳內ニ置キ定日ニ會議スヘシ

第四十條 常置委員諮問會議ハ別ニ議案書ヲ用ユルヲ要セス十五年第十號布告ヲ以テ常置委員ノ下ニ二字ヲ加フ

第四十一條 諮問會ハ府知事縣令ヲ以テ議長トナシ其他ノ會議ハ委員中ヨリ之ヲ撰擧スヘシ同上全條改正

第四十二條 常置委員ハ半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 常置委員會議ノ議事ハ書記ヲシテ筆記セシムヘシ

第四十四條 府知事縣令ハ主務ノ僚屬ヲ委員會議ニ出シ其會議ニ係ル事件ニ付辨明ヲ爲サシムルヲ得

第四十五條 常置委員會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 常置委員ノ任期ハ二ケ年トシ議員改選毎ニ之ヲ改選ス但期限ニ至リ再選スルヲ得同上(トシ)ノ下十三字ヲ加フ

第四十七條 常置委員會議所ノ書記ハ府縣ノ屬官中ヨリ府知事縣令之ヲ選任ス同上(議長)ヲ(府知事縣令)ニ改ム

第四十八條 常置委員ハ三拾圓以上八拾圓以下ノ月手當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ府縣會ノ議決ヲ以テ定ム

第四十九條 常置委員ノ月手當旅費其他委員會議所ノ費用ハ地方稅ヨリ支給ス

○府縣會規則心得十三年九月無號

府縣會規則ノ體ニ付左ノ二件爲心得相違候事
一 本項ハ府縣會規則第十條へ追加相成候ニ付自然消滅ス
タル旨十五年三月廿九日內務省ノ伺定アルヲ以テ略ス

一 議長副議長共欠席スルトキハ議員中ニ於テ臨時假議長ヲ公選シ其日ノ會議ヲ開クモ妨ケナシ

○十三年十二月內務省乙第四十八號達

本年第四十九號ヲ以テ府縣會規則追加公布相成候ニ付左ノ條件爲心得相違候事

一 (此一項ハ同年乙第五十三號達ヲ以テ取消シ更ニ左ノ通り改正ス)

一 常置委員ハ來十四年通常會開會前ニ於テ撰任スヘシ

一 十三年度中常置委員ノ月手當又往復旅費ハ委員ヲ撰擧セシムル臨時會ニ於テ議定セシムヘシ

一 郡區經濟ヲ異ニスル府縣ニ在テハ定員内ニ於テ其郡區撰出ノ人員ヲ定ムルヲ得

一 常置委員補欠ノ爲メ相當ノ豫備員ヲ撰ヒ置クモ妨ケナシ

一 第四十一條ニ據リ議長ハ府知事縣令之ヲ務ムト雖モ本務ノ都合ニ依リ書記官之レカ代理ヲ爲スヲ得

一 第四十六條ノ通委員ノ任期ハ二ケ年タルヘシト雖モ若シ議員本分ノ任期ヲ終リタルモノハ其本分ノ任期ト共ニ委員ノ任期モ終リタルモノトス

一 常置委員會議ノ細則ハ該會ニ於テ議決シ府知事縣令認可ノ上施行ス可キモノトス

參觀 ●府縣會規則第七條(明治十三年四月第十五號)
通常會期中議員ノ内二八以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付政府ニ建議セントスル者アレハ先ツ議

會ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ直ニ内務卿ニ建議スルヲ得

參觀 ●全第十三條第二項(全前)
懲役一年以上及國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者
但滿期後七年ヲ經タル者ハ此限ニ在ラス

參觀 ●全第十四條但書(全前)
但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ關ルモノハ選舉人タルコトヲ得ス

參觀 ●全第三十一條及第三十二條(全前)
府縣會ハ毎年一度三月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事縣令ヨリ之ヲ命ジ會期ハ三十日以内トス但府知事縣令ハ會
ノ衆議ヲ取リテ其日限ヲ伸ルコトヲ得ルト雖モ其事由テ直ニ内務卿ニ報告スヘシ

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘシ事務アルトキ府知事縣令ハ會議ヲ中止セシメ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ
請フヘシ

參觀 ●全第三十七條(十三年十一月第四十九號)
常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ヲ執行スルノ方法順序ニ付毎ニ府知事縣令ノ諮問ヲ受
ケ其意見ヲ述ヘ及ヒ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急務ヲ要スル場合ニ於テ其經費ヲ議決シ追テ府縣會ニ
報告スルヲ得

參觀 ●香川縣會議員選舉及地方稅分割手續 二十一年十二月十八日 內務省令第十號香川縣愛媛縣
勅令第七十九號ヲ以テ愛媛縣ヲ分割シ香川縣ヲ置カレタルニ付テハ該縣會議員選舉及地方稅分割等ノ手續左ノ通之
レヲ定ム

第一條 縣會議員ハ各政界ノ手續ヲ爲且常置委員ヲ選舉ス可シ但議員ノ數ハ知事之レヲ定メ次同政選ヨリ會議ニ於
テ定ム可シ

第二條 地方稅ノ收出豫算ハ各更ニ會議ヲ開キ之レヲ議定ス可シ但議定前ニ於テ事務施行上費用ヲ要スルトキハ該
縣會ニ於テ議定セシ豫算ニ依リ假ニ其幾部ヲ徵收支出スルコトヲ得

第三條 前條收出豫算ヲ議定スル會議ハ各通常會トス但十三年當省乙第十二號達議員ノ任期計算ニハ算入セサルモ
ノトス

第四條 地方稅ハ土地人民引渡前日迄ニ屬スル實費ヲ引去リ其殘額ハ引渡前日迄ニ實收セシ歩合ニ依リ之ヲ分割ス
可シ

第五條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ對スル寄附ノ金穀物件ニシテ寄附者ニ於テ其費途又ハ使用ヲ指定シタルモ
ノハ該事業所屬縣ノ地方稅ニ組込ムヘシ

第六條 土地人民引渡前日迄ニ於テ地方稅ノ意納金アルトキハ一旦之レヲ除却シ精算ヲ了シ他日意納者所屬縣ニ於
テ之ヲ追徵シタルトキハ其地方稅雜收入ニ組込ム可シ

第七條 地方稅經濟ニ係ル物件ハ總テ其所在ノ縣ニ於テ之ヲ管轄スヘシ

第八條 前年度地方稅收出決算ニ至リ殘餘アルトキハ該年度各實收入ノ割合ヲ以テ分割ス可シ

第九條 前條決算ノ場合ニ於テ不足ヲ生シタルトキハ該年度各實收入ニ割合地方稅規則第五條第二項ニ依リ之レヲ
補充ス可シ但一地方ニ屬スル費額縣廳舍及監獄建築修ノ不足ハ各其所屬ノ縣ニ於テ之レヲ補充ス可シ

第十條 備蓄金ハ土地人民引渡前日迄ノ支出額ヲ引去リ其殘額ハ從來實收ノ歩合ニ依リ分割ス可シ但意納金ア
ルトキハ第六條ニ準シ處分ス可シ

第十一條 在監人ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ分割ス可シ
輕罪以下ノ未決囚ハ其裁判管轄ノ地
輕罪以下ノ已決囚ハ其裁判管轄ノ地

重罪囚ハ犯罪捕獲地等土地ニ依リ其裁判管轄ヲ定ムルモノハ其土地所屬ノ縣ニ依リ之ヲ分割ス可シ其他已決囚

第四類 府縣會 區町村會 郡區町村

ハ其選別ナ言議シタル地未決因ハ現ニ拘禁ナル地ニ依リ之ヲ分割ス可シ
不諭罪懲治人ハ其選別言議ノ地
情願懲治人ハ其情願者所在ノ地
別居留置人ハ其留置ノ監獄

第十五章 府縣會議員選舉規則

朕府縣會議員選舉規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年二月二十六日

内閣總理大臣 伯耆黒田清隆
内務大臣 伯爵松方正義

法律第六號

府縣會議員選舉規則

第一條 戶長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ選舉人名原簿ヲ調査シ其副本ヲ
十月一日迄ニ郡長ニ差出スヘシ

選舉人名原簿ニハ選舉人ノ姓名、住所、生年月、納ムル所ノ地租ノ總額並ニ其納稅地
ヲ記載スヘシ

第二條 郡長ハ戶長ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期トシ其役所管内
ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第三條 區長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選舉人名原簿ヲ調製シ十月十五

日ヲ期トシ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名原簿ニ記載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ

第四條 府縣會議規則第十三條ノ年齢及ヒ年限ヲ算スルハ選舉人名簿調製ノ期日ヲ以テ
限界ト爲シ其地租納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヨリ前一年以上之ヲ納メ猶引續キ
納ムル者ニ限ルヘシ但家督ニ依リ財産ヲ相續シタル者ハ前財產主ノ納稅額ヲ以テ其
者ノ納稅額ニ算入スヘシ

第五條 選舉人其住居スル區町村ノ外ニ於テ地租ヲ納ムルトキハ其納稅地區戶長ノ證
狀ヲ添ヘ選舉人名原簿調製ノ期日迄ニ其住居地ノ區戶長ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲サ、ル納稅額ハ選舉及ヒ被選舉ノ資格ニ算入スルコトヲ得ス

第六條 郡區長ハ十月二十日ヨリ十五日間其役所管内ノ選舉人名原簿及ヒ選舉人名簿
ノ寫ヲ其那區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ但關係者ノ請求アルトキハ戶長役場ニ於テ
モ其調製シタル原簿ノ寫ヲ示スヘシ

第七條 選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ
其縦覽期限内ニ之ヲ郡區長ニ申立ヘシ

第八條 郡區長ニ於テ脱漏又ハ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ之ヲ審査判定
シ其申立正當ナルトキハ直ニ其人名ヲ記入又ハ削除シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡
ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

第九條 前條審査ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立人又ハ當人ヲ召喚審問スルコトヲ

得

第十條 申立人又ハ當人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得但其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ハラズ速ニ其裁判ヲ爲スヘシ

第十二條 前條始審裁判所ノ裁判ハ上告スルコトヲ得ト雖モ控訴スルコトヲ許サズ但其裁判ハ上告ノ爲メ停止セサルモノトス

第十三條 撰舉人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ改正期日迄之ヲ据置クモノトス但裁判言渡ニ依リ訂正スヘキモノハ郡區長ニ於テ其言渡ヲ受ケタルトキヨリ二十四時間以内ニ之ヲ訂正シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戸長ニ通知スヘシ

前項ノ外次年ノ改正期日前ト雖モ撰舉ヲ行フ前ニ於テ撰舉權ヲ失ヒ若クハ撰舉權ヲ有セザリシコトヲ發見シタル場合ニ於テハ郡區長ハ其人姓名ヲ削除スヘシ

第十四條 撰舉投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ但解散及ヒ補選撰舉ノ場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ時期ハ府縣ノ情況ニ依リ府縣知事ニ於テ府縣會ノ議決ヲ取リ内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十五條 議員ヲ選舉スヘキ戸ハ少クトモ一箇月前ニ府縣知事ヨリ其月日、選舉開會並ニ投票函閉鎖ノ時刻、選舉ヲ行フヘキ郡區ノ名及ヒ選舉スヘキ議員ノ數ヲ記シ之ヲ管内ニ告示スヘシ若シ正議員ノ外補選員ノ増選ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ

選舉開會ヨリ投票函閉鎖迄ノ時間ハ四時間以上十時間以内タルヘシ

第十六條 前條ノ告示アリタルトキハ郡區長ハ前條各事項並ニ選舉開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘシ

第十七條 郡區長ハ其管内ノ選舉人中ヨリ立會人五名ヲ定メ選クトモ選舉ノ期日ヨリ五日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉會場ニ參會セシムヘシ

選舉分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ本會分會トモ各其會場所屬ノ選舉人ニ就キ前項ニ依リ立會人ヲ定ムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルコトヲ得ズ立會人若シ選舉開會ノ時刻ニ至リ出頭セサルトキハ參會ノ選舉人中最多額ノ地租ヲ納ムル者ヲ以テ假ニ其職ヲ補フヘシ

第十八條 郡區長ハ選舉會長トナリ選舉會場ヲ管理スヘシ郡區長事故アルトキハ代理書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ

選舉會書記ハ郡區長ニ於テ郡區書記中ヨリ之ヲ命スヘシ

第十九條 選舉人ハ選舉開會ノ時刻ヨリ投票函閉鎖ノ時刻ニ至ル迄何時タリトモ到着

ノ順序ニ從ヒ投票スルコトヲ得

第二十條 選舉會場ニハ錠ヲ付シタル投票函及ヒ選舉錄並ニ筆墨ヲ備ヘ置クヘシ
投票函ハ投票ニ先チ參集シタル選舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示ス
ヘシ

第二十一條 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ各郡區ニ於テ一定ノ式ヲ用キ投票
ノ當日選舉會場ニ備ヘ置キ選舉會長又ハ書記ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ
用紙ハ正議員ノ外補議員ノ増選ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ正

議員ノ爲メノ用紙ト爲シ乙種ハ補議員ノ爲メノ用紙ト爲スヘシ

第二十二條 選舉人ハ自ラ投票ヲ行フヘシ代人ニ託スルコトヲ得ス

第二十三條 選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ被選舉人並ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印
スヘシ但氏名ノ外住所若クハ位階勳等其敬稱ノ類ヲ記スルハ妨ナシ

第二十四條 選舉人投票ヲ爲サントスルトキハ選舉會長ハ其住所氏名ヲ選舉人名簿ニ
照シ名簿ニ消印ヲ捺シ選舉人ヲシテ自ラ之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ

第二十五條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由チ申立ルトキハ選舉會長ハ書
記ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀聞セ並ニ立會人ニ示シタル後捺印投票セシムヘシ

第二十六條 選舉ニ關スル吏員及ヒ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得
ス但會場臨視ノ職權アル官吏ハ此限ニ在ラス

第二十七條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但記載セラレハ

キ裁判官渡書ヲ所持シテ參會スル者ハ此限ニ在ラス

第二十八條 選舉人ハ會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若クハ喧嘩ニ涉リ又ハ互ニ投票ヲ勸
誘スルコトヲ得ス

第二十九條 選舉會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉會長ハ之ヲ警戒シ其命ニ從
ハサルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムヘシ但其投票ヲ爲サシムル爲メ再ヒ之ヲ呼入
ルコトヲ得

選舉會長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票セントスル者アルトキハ選舉會
長ハ其投票ヲ取上クヘシ

第三十一條 投票函閉鎖ノ時刻ニ至ルトキハ選舉會長ハ其由チ宣告シ書記ヲシテ一時
選舉會場ノ入口ヲ鎖サシメ參會者ニ問フニ未タ投票セサリシ者ナキヤチ以テシ若シ
之アルニ於テハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第三十二條 選舉會場ニハ點數簿二冊ヲ備ヘ書記二人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘシ

第三十三條 投票函閉鎖後十分時間ヲ經過スレハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ投票
函ヲ開キ逐次投票ヲ取出シ披封點檢シテ之ヲ書記ニ付シ選舉人被選舉人ノ氏名ヲ朗
讀セシメ點數簿擔任ノ書記ヲシテ被選舉人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ
前項ノ點檢中若シ無効ノ投票ヲ發見シタルトキハ之ニ抹線ヲ加ヘ一部分無効ノモノ
ハ其部分ニ抹線ヲ加フヘシ

第三十四條 撰舉人ハ投票點檢ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得

第三十五條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ撰舉會長ハ書記ヲシテ各被撰舉人得點ノ合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三十六條 點數記入並ニ計算其他書記ノ事務ハ總テ撰舉會長並ニ立會人ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十七條 點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ撰舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多數ヲ得タル者ヨリ順次ニ其被撰舉權ノ有無ヲ査定シ同數ハ年長ヲ取り同年ハ抽籤ヲ用半其當撰ヲ定ムヘシ但即時ニ其當撰ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調査ニ必要ナル時日ノ間其査定ヲ延ハスコトヲ得

分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當撰ヲ定ムルモノトス

當撰タルヘキ多數ヲ得タル者ノ被撰舉權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次點者ヲ以テ當撰ト爲スヘシ此場合ニ於テハ郡區長ハ當撰者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ

當撰タルヘキ多數ヲ得タル被撰舉人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當撰ヲ定メ難キトキハ第四十一條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 點檢濟ノ投票ハ之ヲ取纏メ封緘ノ上撰舉會長立會人並ニ書記之ニ捺印スヘシ

前項ノ投票ハ封印ノ儘附屬書類ト共ニ二年間郡區役所ニ保存スヘシ若シ撰舉ニ關シ

訴訟又ハ告訴發アルトキハ一年ヲ過クルモ其裁判確定ニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第三十九條 左ノ事項ハ之ヲ撰舉錄中ニ記入スヘシ

- 一 撰舉開會ノ月日並ニ時刻
- 二 撰舉會長及ヒ書記ノ氏名
- 三 立會人ノ住所氏名
- 四 第二十七條但書ニ依リ投票セシメタルトキハ其願末
- 五 第三十條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其願末
- 六 投票函閉鎖ノ時刻
- 七 各被撰舉人ノ得點數
- 八 當撰人ノ住所氏名若シ直ニ當撰ヲ定メ難キトキハ其事由
- 九 撰舉閉會ノ時刻
- 十 右ノ外撰舉會長ニ於テ緊要ト認ムル事項

第四十條 撰舉錄ニハ撰舉會長立會人並ニ書記之ニ署名捺印スヘシ

第四十一條 當撰タルヘキ多數ヲ得タル被撰舉人他郡區ノ人ナルトキハ郡區長ハ其本籍地ノ郡區長ニ照會シ被撰舉權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ求ムヘシ若シ其權ヲ有セサルトキハ第三十七條第三項ノ例ニ依ル

第四十二條 左ノ投票ハ無効トス

- 一 撰舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニ在ラス
 - 二 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
 - 三 撰舉人又ハ被撰舉人ノ氏名ヲ記載セサルモノ
 - 四 撰舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ知ルヘカヲサルモノ
 - 五 撰舉人被撰舉人ノ住所氏名ノ外餘事ヲ記入スルモノ但位階勳等其敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ餘事ト見做スノ限ニ在ラス
 - 六 被撰舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ其何人タルヲ知ルヘカヲサルモノ但列記ノ被撰舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス
 - 七 被撰舉權ナキ者ヲ記載シタルモノ但列記ノ被撰舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス
- 第四十三條 投票ニ記載ノ被撰舉人其撰舉スヘキ定數ニ足ラサルモ之ヲ無効トセス又定數ニ過クルトキハ前條第六第七ニ觸ル、モノアルト否トヲ問ハス末尾ヨリ其過數ヲ順次ニ棄却スヘシ
- 一人ノ氏名ヲ複記シタルモノハ一人トシテ計算スヘシ
- 第四十四條 撰舉人又ハ被撰舉人ノ住所氏名ニ誤字脱字アリ又ハ假名字ヲ用ユルモ其何人ノ何人ヲ撰舉シタルコト明瞭ナルトキハ其投票ヲ有効トスヘシ
- 第四十五條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ開キ撰舉會長之ヲ決定スヘシ其決定ニ對シテハ撰舉會場ニ於テ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

- 第四十六條 郡區ノ區域廣濶ニ過クルカ又ハ郡區内島嶼ノ地アリテ撰舉人ノ參會ニ不便ナル爲メ已ムヲ得サル場合ニ於テハ郡區長ハ府縣知事ノ指揮ニ依リ又ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ撰舉分會ヲ設クルコトヲ得
- 分會ノ爲メ特ニ撰舉人名簿ヲ調製スルヲ要セスト雖モ撰舉人名簿中ニ各撰舉人ノ所属ノ會場ヲ區別シ豫メ分會場所屬ノ區域並ニ會場ヲ管内ニ告示スヘシ
- 第四十七條 分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開キ投票時間モ亦本會ト同一タルヘシ其他撰舉ノ手續會場ノ取締撰舉條ノ記載等ハ總テ本會ニ準スヘシ但島嶼其他遠隔ノ地ニ限リ府縣知事ニ於テ適宜其投票ノ期日ヲ異ニシ撰舉本會ノ投票期日迄ニ其投票函ヲ送致セシムルコトヲ得
- 第四十八條 分會撰舉會長ハ上席郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ
- 分會書記ハ郡區長ニ於テ其郡區書記又ハ其地ノ戶長又ハ戶長役場吏員中ヨリ之ヲ命スヘシ
- 第四十九條 分會ニ於テ投票函ヲ閉鎖シタルトキハ之ニ封印シ撰舉會長及ヒ書記ノ中少クトモ一名付添直ニ本會場ニ送付スヘシ若シ立會人又ハ他ノ撰舉人中同行ヲ望ム者アルトキハ之ヲ許スヘシ
- 第五十條 分會ヲ設ケタルトキハ本會場ニ於テハ投票函閉鎖ノ後分會投票函ノ到着ヲ待テ第三十三條ノ手續ヲ爲シ合算ノ上總數ヲ以テ當撰ヲ定ムヘシ
- 第五十一條 當選者ノ定マリタルトキハ郡區長ハ直ニ其旨ヲ當撰者ニ通知スヘシ

第四類 府縣會及區町村會郡區町村